

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	必修科目
担当教員			
掛田 崇寛			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	<p>本科目では、与えられた情報や人の意見について深く考え、自問自答や周囲の人との話し合いを通じて、納得できる考えや判断を見つけ出すための技術を学ぶ。〈クリティカルシンキング〉の概念や方法は医療や看護の場では多職種連携、医療事故の予防、研究において重要であり、〈臨床推論〉を行う思考プロセスの基礎となる。社会生活の仕組みや実際の医療現場での活用事例を通して場面を想定しながら学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>1) 思考について説明ができる</p> <p>2) 分析の考え方について説明できる</p> <p>3) 論理の展開方法について説明できる</p> <p>4) ディベートを通して、学修したことを実践できる</p> <p>また、〈臨床推論〉につながるように、医学、看護などのテーマを題材にした論理的思考のミニ演習を行う。</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 思考とは、情報収集とは 担当者：掛田</p> <p>2回 「分ける」ための3要件 担当者：掛田</p> <p>3回 2つの要素的思考成果 担当者：掛田</p> <p>4回 正しい事象の「識別」には 担当者：掛田</p>

	5回	事象間の関係性の把握 担当者：掛田
	6回	論理とは 担当者：掛田
	7回	論理展開の方法 担当者：掛田
	8回	正しさの根拠 担当者：掛田
	9回	ファクトとロジック 担当者：掛田
	10回	合理的分析の手法 担当者：掛田
	11回	ディベート1（準備） 担当者：掛田
	12回	ディベート2（実施） 担当者：掛田
	13回	ディベート3（実施） 担当者：掛田
	14回	ディベート4（実施） 担当者：掛田
成績評価の方法	講義課題20%、演習への参画・貢献度20%、試験60%	
教科書	「思考・論理・分析―「正しく考え、正しく分かること」の理論と実践」（産業能率大学出版部）	
参考書	適宜、提示する。	
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	積極的にグループワークに参加してください。また、地域の方々とも触れ合おう	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1、2年生	2	選択科目
担当教員			
羽田 明浩			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>□(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>□(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>□Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	経営学は現代を取り巻く様々な社会現象を対象とする学問である。本講義では、経営学の中でも医療経営を中心に学ぶ。医療経営の基礎となる医療制度・政策に関する解説、マネジメントに関する諸概念の解説を行なう。地域包括ケアシステムにおける医療福祉経営の実例を紹介し演習・ディスカッションを通して学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営学の主要領域における基礎的な理論を説明できる</li> <li>・ 医療経営と医療政策の関係を説明できる</li> <li>・ 看護職が活躍する組織にとって経営学の必要性を説明できる</li> <li>・ 「人」と「組織」との相互関係性を体系的に学び、組織人として求められている行動について説明できる</li> </ul>
履修条件	特に定めない。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 看護職になぜ医療経営学が必要か 担当者：羽田 明浩</p> <p>2回 医療経営学とは 経営学における医療経営の特徴 担当者：羽田 明浩</p> <p>3回 医療経営におけるのミッションとビジョンについて 担当者：羽田 明浩</p> <p>4回 医療経営におけるのドメインについて 担当者：羽田 明浩</p>

	5回	医療業界の構造分析のお話し 担当者：羽田 明浩
	6回	医療経営における競争戦略論について 担当者：羽田 明浩
	7回	医療経営における地域包括ケアシステムについて 担当者：羽田 明浩
	8回	競争戦略論の資源ベース戦略論について 担当者：羽田 明浩
	9回	医療経営におけるマーケティング概論について 担当者：羽田 明浩
	10回	医療経営におけるマーケティング各論について 担当者：羽田 明浩
	11回	経営組織理論の概論について 担当者：羽田 明浩
	12回	経営組織理論からみる病院組織の特徴について 担当者：羽田 明浩
	13回	経営分析手法の説明 担当者：羽田 明浩
	14回	講義のまとめ 担当者：羽田 明浩
成績評価の方法	試験70%、発表・課題30%	
教科書	「医療経営戦略論」羽田明浩 2021 創成社	
参考書	「ナースのためのヘルスケアMBA」羽田明浩 2017 創成社	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	時事問題に関心を持ってください	
オフィスアワー	講義終了後に質問を受け付ける	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	1	必修科目
担当教員			
高柳 良太			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	大学生活において様々な場面（レポート作成、卒業研究など）において情報機器やデバイス利用が必要不可欠である。基本的な表計算ソフト（Excel）を利用して統計方法を学ぶ。また情報リテラシーの基礎的な概念（情報を活用する上での倫理、安全性）、情報の活用法、プレゼンテーションの技法、情報処理の保護や権利など情報モラルについて学ぶ。
授業の到達目標	<p>本科目はPC利用を基本とし、Web等からデータを収集し必要な形式にまとめることができるようになることを目標としている。また合わせて、セキュリティや著作権について理解し、モラル的に問題の無い情報環境の利用ができるようになることも目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ネットワークにおけるプライバシー等の危険性やセキュリティの必要性について理解する</li> <li>2) 大学において学修するために必要な文書作成、プレゼンテーション技法の基礎的な技術を習得し、各種資料の作成ができる</li> <li>3) 保健統計に必要なとされる基本的な統計について理解し、データの処理ができる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 オリエンテーション・情報セキュリティ 担当者：高柳</p> <p>2回 メール、メッセージのセキュリティ 担当者：高柳</p> <p>3回 レポート作成と著作権 担当者：高柳</p>

	4回	レポートの書式設定 担当者：高柳
	5回	プレゼンテーション1 スライドの計画とノートの管理 担当者：高柳
	6回	プレゼンテーション2 ノートの利用と発表者ツールの活用 担当者：高柳
	7回	統計情報の検索、利用 担当者：高柳
	8回	記述統計1 質的変数の記述統計 担当者：高柳
	9回	記述統計2 量的変数の記述統計 担当者：高柳
	10回	グラフ作成の基礎 担当者：高柳
	11回	量的データのカテゴリー化とヒストグラム 担当者：高柳
	12回	クロス集計表の作成 担当者：高柳
	13回	確率分布と推測統計 担当者：高柳
	14回	$\chi^2$ 乗検定 担当者：高柳
成績評価の方法	毎回の提出物 (50%) 最終試験 (50%)	
教科書	特に定めない。	
参考書	特に定めない	
事前・事後学修	前回の学修内容や作成物を利用して次回の講義が行われることが多いので、不明点などは必ず次回までに解決し、課題提出を確実に行うようにすること。	
その他アドバイス	メッセージ機能等の学内LMS機能を十分に使用すれば、オフィスアワー以外でもやりとりは可能です。この授業を通じて対面とネットワーク、うまく使い分けられるようになってください。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	1	選択科目
担当教員			
高柳 良太			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/>2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	医療現場では、電子カルテによる情報管理や病院間での情報共有、ネット回線を使用しての遠隔医療など、医療分野においてICT（情報通信技術）は不可欠な存在となっている。看護職に必要なICTを活用するための基本を理解し、学修や業務におけるデータ管理及び活用のための道具として、複数のデバイス（スマートフォン・パソコン・タブレットなど）を用いて学ぶ。
授業の到達目標	<p>本科目は、PC以外にタブレット等複数の機器利用を前提とし、複数人と共同で資料の作成や管理を行うことができるようになることを目標としている。合わせて電子カルテについての基本的な事項を理解し、組織内でのデータの共同利用と、セキュリティや法的な事項についても理解する。</p> <p>1) グループウェアを利用し、共同作業やデータの管理ができる</p> <p>2) 学内PCだけでなく、個人のタブレットやPC等の複数の環境から作業を行い、グループウェアの特徴や注意点を理解し使用できる</p> <p>3) 倫理面に配慮した質問項目を作成し、簡単な調査を実行しその結果を公表することができる</p> <p>4) 電子カルテについて、医療機関における情報の流れ等について概念化するとともに、看護記録を電子的に記録する際の法的な規制、電子カルテにかかわる倫理的な側面に関する知識を身につける</p>
履修条件	<情報処理Ⅰ（基礎）>を単位修得していること。
授業計画	<p>1回            オリエンテーション・情報セキュリティ    担当者：高柳</p> <p>2回            グループウェアを使った共有の説明    担当者：高柳</p>

	3回	共有文書の作成 担当者：高柳
	4回	共有データの作成 担当者：高柳
	5回	共有スライドの作成 担当者：高柳
	6回	アンケートの計画1 質問項目の検討 担当者：高柳
	7回	アンケートの計画2 集計方法の検討 担当者：高柳
	8回	アンケートフォームの作成 担当者：高柳
	9回	アンケートの集計 担当者：高柳
	10回	発表資料の作成 担当者：高柳
	11回	アンケート結果の発表 担当者：高柳
	12回	電子カルテ実習1 医療データと個人情報保護、倫理 担当者：高柳
	13回	電子カルテ実習2 データの種類と検索方法 担当者：高柳
	14回	電子カルテ実習3 医療情報システムの中での電子カルテの位置づけ 担当者：高柳
成績評価の方法	グループでの提出物（50%）最終課題（50%）	
教科書		
参考書	講義時に教員が指定	
事前・事後学修	電子カルテ以外はグループウェア上での共同作業が前提となります。タブレットの設定については授業内でも随時確認しますが、自宅PCについても作業ができるようにグループウェアのアクセス等の設定を行ってください。	
その他アドバイス	授業時間以外での作業が多くなると思います。タブレットや自宅PCなどをうまく利用して、共同作業	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	1	必修科目
担当教員			
荒木田 美香子、坂元 昇、山崎 由美子			
15時間（7回）			
添付ファイル			
005総合講義シラバス2023.xlsx			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	川崎市で大学生活を過ごす新生入生への導入教育である。大学生としての社会人基礎力や、大学における学修・生活の送り方などの基礎知識を確認し、自ら学ぶ姿勢を獲得する。また川崎市の医療情報に関する知識を学ぶ。
授業の到達目標	1) 学生同士が知り合いになって、お互いに学修する集団を形成する 2) 川崎市が何を看護に期待しているのかを把握する 3) 学修の成果を上げるための技術を身に付ける
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、学生同士の相互理解 担当者：荒木田、山崎</p> <p>2回 社会人基礎力とは 担当者：荒木田</p> <p>3回 川崎市立大学で学ぶという事 担当者：坂元</p> <p>4回 川崎市が期待する保健医療専門職（川崎市長） 担当者：荒木田</p> <p>5回 50年後の川崎市民の健康をどう作るか（川崎市健康福祉局長） 担当者：荒木田</p>

	6回 大学生としての学び方：ポートフォリオ 担当者：荒木田 7回 レポート作成の技術 担当者：山崎
成績評価の方法	課題70%、授業への参画・貢献度30%
教科書	特に定めない。
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	事前に配布資料に目を通すとともに、現在の川崎市の人口静態・動態について調べておくこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	積極的に質問を出してください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	1年生	1	必修科目
担当教員			
荒木田 美香子、坂元 昇			
15時間 (7回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) 授業で取り上げた地域や機関を訪問する</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	川崎市の歴史・文化・産業を学ぶことを通して川崎市と人々の生活を理解する。自分自身が地域の一員として、人々の生活・社会・健康との関係を理解できるように、市職員からの講義など川崎市の現状と課題を具体的に学び、川崎市の未来について医療・看護の視点から考察できる力を獲得する。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 川崎市がこれまでに課題を克服してきた過程を理解する</li> <li>2) 川崎市の現在、将来の人口構造を把握し、健康、暮らし、経済、文化の観点で生じうる課題について考える</li> <li>3) 看護職として地域に貢献できることを考えられる</li> </ol>								
履修条件	なし								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="width: 5%;">1回</td> <td>オリエンテーション：川崎市の将来人口推計 担当者：坂元</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>川崎市の歴史（川崎市市民文化局市民文化振興室） 担当者：荒木田</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>京浜工業地帯と喘息、結核との闘い（川崎市健康福祉局） 担当者：荒木田</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>都市をつくる（武蔵小杉）（川崎市まちづくり局都市計画課） 担当者：荒木田</td> </tr> </table>	1回	オリエンテーション：川崎市の将来人口推計 担当者：坂元	2回	川崎市の歴史（川崎市市民文化局市民文化振興室） 担当者：荒木田	3回	京浜工業地帯と喘息、結核との闘い（川崎市健康福祉局） 担当者：荒木田	4回	都市をつくる（武蔵小杉）（川崎市まちづくり局都市計画課） 担当者：荒木田
1回	オリエンテーション：川崎市の将来人口推計 担当者：坂元								
2回	川崎市の歴史（川崎市市民文化局市民文化振興室） 担当者：荒木田								
3回	京浜工業地帯と喘息、結核との闘い（川崎市健康福祉局） 担当者：荒木田								
4回	都市をつくる（武蔵小杉）（川崎市まちづくり局都市計画課） 担当者：荒木田								

	5回 博物館、スポーツの町、川崎（サッカー、バスケットボール）（川崎市教育委員会、川崎市市民文化局市民スポーツ室） 担当者：荒木田
	6回 川崎市の環境を守る（川崎市環境局地球環境推進室） 担当者：荒木田
	7回 元気高齢者を創る仕組み（川崎市健康福祉局長寿社会部、地域包括ケア推進室） 担当者：荒木田
成績評価の方法	課題（地域の場所、機関の訪問や、地域の方々へのインタビュー）70%、ミニレポート授業への参画30%
教科書	特に定めない。
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	事前に配布資料に目を通すとともに、現在の川崎市の人口静態・動態について調べておくこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	積極的に質問を出してください
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
淵田 英津子、荒木田 美香子、高橋 恵子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>□(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>□(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>□Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	<p>「サービスラーニング論Ⅰ」では、地域の資源やニーズを知り、地域の中でどのように地域貢献に参加できるかを考えることを目指します。そのため、多様な機関の方にゲストスピーカーとして来ていただき、地域の資源やニーズを知り、自分達で取り組むサービスラーニングの計画を作成して発表することを目指します。その後、2年生の選択科目である「サービスラーニング論Ⅱ」では、実際に地域の関連機関と連絡を取らせていただき、活動をして評価をする予定です。</p>
授業の到達目標	<p>サービスラーニングの概念を学ぶ。また、サービスラーニングに必要な技術を身に着けると共に、多様な考え方があることを学ぶ。これらの学修後に、学生がグループを作り、サービスラーニングの計画を立て、発表することにより、お互いの良い点を発見し、今後のサービスラーニングに反映させる。</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 本学におけるサービスラーニングのねらい、チームワークとは 担当者：淵田</p> <p>2回 サービスラーニングとは（考え方、学生の学び） 担当者：高橋</p> <p>3回 コミュニティパートナーの開拓 担当者：高橋</p> <p>4回 グループの特性、強みと弱み：淵田</p>

	5回	リーダーシップとサービスラーニング 担当者：湊田
	6回	エンパワメントのための関係づくり 担当者：湊田
	7回	学修と活動の関係 担当者：湊田
	8回	失敗から学ぶ 担当者：湊田
	9回	すそ野を広げるための工夫 担当者：湊田
	10回	取り組みの評価（PDCA）：荒木田
	11回	取り組みの計画づくり1（素案作り） 担当者：湊田、荒木田
	12回	取り組みの計画づくり2（計画の立案） 担当者：湊田、荒木田
	13回	取り組み計画の発表会1 担当者：湊田、荒木田
	14回	取り組み計画の発表会2 担当者：湊田、荒木田
成績評価の方法	①授業への参画・態度(30%)，②課題(20%)，③試験(50%)	
教科書	「市民参画とサービスラーニング」（岡山大学出版会）	
参考書	適宜、提示する。	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	積極的にグループワークに参加してください。	
オフィスアワー	原則、月曜日、12時30分～13時 事前にメールで連絡をくださると助かります。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	選択科目
担当教員			
澁田 英津子、荒木田 美香子、田中 悠美			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>□(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>□(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>□Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	<p>1年生ではサービスラーニングの基本を学修し、取り組み計画を立案した。本科目では、〈サービスラーニング論Ⅰ〉で立案した取り組み計画の中から、実施可能性があり、実施意義のある計画を実現に移していくというプロセスを実践的に学修する科目である。さらに、取り組みを実施し、評価を行うことで、地域住民との協働からサービスラーニングの進め方を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 取り組み計画の中で、実施可能性及び実施意義の観点から取り組み計画を修正できる</li> <li>2) サービスラーニングの対象者、対象機関と適切なコミュニケーションを取ることができる</li> <li>3) サービスラーニングの対象者、対象機関のニーズを把握し、ニーズに合わせた計画を構築できる</li> <li>4) 取り組みの評価項目を設定できる</li> <li>5) 地域や関係機関と協力して取り組みを実践し、実践を評価することができる</li> </ol>
履修条件	〈サービスラーニング論Ⅰ（基本）〉を単位修得していること。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施に結びつける取り組み計画の選定</li> <li>2 コミュニティパートナーの開拓の実践</li> <li>3 内容の検討1（開発）</li> <li>4 内容の検討2（見直し）</li> </ol>

	5	内容の検討3 (デモンストレーション)
	6	内容の検討4 (修正)
	7	内容の検討5 (実施内容の発表)
	8	評価項目の検討1 (作成)
	9	評価項目の検討2 (検討)
	10-12	取り組みの実施 (3回~4回程度の時間を活用して取り組みを行う)
	13-14	取り組みの評価、発表会
成績評価の方法	取り組みへの参画40%、授業への参画・貢献度 20%、レポート 40%	
教科書	「市民参画とサービスラーニング」(岡山大学出版会)	
参考書	適宜, 提示する	
事前・事後学修	事前にく「サービスラーニング論 I」の内容を必ず復習してから授業に臨むこと。 授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	積極的に授業に参加してください。 地域の方, 関連機関との関係作りを円滑にするために、積極的に自分の意見を述べてください。	
オフィスアワー	原則, 月曜日 12時30分~13時	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1、2年生	2	選択科目
担当教員			
鶴田 利郎			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	教育に関する理念・思考、教育方法、教育実践の基礎的スキルを取得し、学生自身の生涯学習につなげられるようにする。また、人の発達や学習を理解したうえで、学習支援、保健指導等を行うという看護職の教育的役割の基本となる事項を学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護で教育学が役立つ場を上げることができる</li> <li>・学習を動機づける方法を説明できる</li> <li>・アクティブラーニングを含めた教育方法についてその特徴を説明できる</li> <li>・教育評価の方法を説明できる</li> <li>・メディアリテラシーについて重要な事項を説明できる</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 教育学とはどのような学問か 担当者：鶴田</p> <p>2回 教育現場における教師の役割 担当者：鶴田</p> <p>3回 教育場面における測定と評価 担当者：鶴田</p>

	4回	学習の理論 担当者：鶴田
	5回	教えることの方法と技術① ICT教育 担当者：鶴田
	6回	教えることの方法と技術② アクティブラーニング 担当者：鶴田
	7回	教育場面における個人と集団 担当者：鶴田
	8回	学習における動機づけ① 動機づけの理論 担当者：鶴田
	9回	学習における動機づけ② 動機づけを高める方法 担当者：鶴田
	10回	ソーシャルメディア時代に求められるメディア・リテラシー教育 担当者：鶴田
	11回	生涯学習・健康、安全にかかわる教育 担当者：鶴田
	12回	部活動、課外活動にかかわる教育 担当者：鶴田
	13回	特別支援教育・院内学級 担当者：鶴田
	14回	教育学での学びを看護の仕事に活かす 担当者：鶴田
成績評価の方法	授業参加度（40%）、レポート（60%）により評価します。 レポートのテーマは授業内で提示します。未提出の場合は不可の評価となります。	
教科書	特に定めない	
参考書	石上浩美, 矢野正 (2016) 『教育心理学-保育・学校現場をよりよくするために』 嗟峨野書院 中橋雄 (2017) 『メディア・リテラシー教育-ソーシャルメディア時代の実践と学び』 北樹出版 安彦忠彦, 児島邦宏, 藤井千春, 田中博之 (2012) 『よくわかる教育学原論』 ミネルヴァ書房	
事前・事後学修	授業の最後に、次回の授業内容の予告をいたしますので、それについて自身の考えや経験を整理してから次の授業に臨んでください。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めてください。	
その他アドバイス	以下の2つの方針で授業を進めます。受講を検討される方はご理解ください。 ①教育学という科目名の通り、「教える」、「学ぶ」、「成長する」ことなどについて考えることが主なテーマになります。教育や人の成長、発達などに興味、関心のある方の受講を薦めます。 ②授業では、個人作業やグループワークに取り組んでもらうことがあります。また教員から指名をして意見や考えを聞くこともあります。意欲的、積極的な授業参加を求めます。	
オフィスアワー	講義の前後に直接声をかけてください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	選択科目
担当教員			
木曾 恵子			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	グローバル社会に対応するため、国や民族ごとの異なる文化を比較しながら相互理解のための方法を学ぶ。比較研究する文化の内容としては、言葉、身体、性別、家族、世界観などがあるが、他国や多民族の文化を比較研究するために、自国の文化についても学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化が私たちの生活にどのように関係しているのかを説明できる。</li> <li>・多様な文化が接触する現代社会の中に課題があることを例示できる。</li> <li>・医療、家族、性やいのちの捉え方などにおける文化の違いを説明できる。</li> <li>・対象者の文化的背景を理解して、看護ケアをする必要性を具体的に説明できる。</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 比較文化論の視点と方法—なぜ看護学生が比較文化を学ぶのか 担当者：木曾</p> <p>2回 言語と文化 担当者：木曾</p> <p>3回 人種と民族 担当者：木曾</p> <p>4回 健康・病気・医療（1）健康の意味の文化的多様性 担当者：木曾</p>

	5回	健康・病気・医療（2）病気の捉え方 担当者：木曾
	6回	宗教と世界観（1）あなたの信じるものは何ですか 担当者：木曾
	7回	宗教と世界観（2）呪術のリアリティ 担当者：木曾
	8回	在日外国人患者と向き合う 担当者：木曾
	9回	家族—あなたの大切な人はだれですか 担当者：木曾
	10回	文化・ジェンダーと医療—小児医療の現場から 担当者：木曾
	11回	性—バリエーションは無限大 担当者：木曾
	12回	ライフサイクルと通過儀礼 担当者：木曾
	13回	いのちの諸相 担当者：木曾
	14回	人間と死—看取りの現場から 担当者：木曾
成績評価の方法	定期試験、もしくは最終レポート（45%）、小レポート（45%）、授業参加度（10%）を総合して評価する。	
教科書	特に定めない（授業ごとに資料を配布する）。	
参考書	波平恵美子編（2021）『系統看護学講座 文化人類学』医学書院、波平恵美子（2022）『病気と治療の文化人類学』ちくま学芸文庫	
事前・事後学修	指定した資料やテーマについて、事前に読む、あるいは考えをまとめておくこと。各授業内で小レポート（リアクションペーパー）を実施するので、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習しておくこと。	
その他アドバイス	紹介された参考文献に積極的に目を通し、自分の言葉で考えてみてください。	
オフィスアワー	講義前後に直接声をかけてください。または連絡先（2022knc002vu@kawasaki-nursing-c.ac.jp）に連絡してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	選択科目
担当教員			
佐藤 太樹			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	日本国憲法による人権保障について基礎的知識を修得する。人権についての考え方を身につけて社会の問題を人権の観点から考える。法的な思考法を理解する目的で法学の基礎的な概念について学ぶ。(養護教諭2種)
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の法体系と憲法の位置付けを説明できる。</li> <li>・日本国憲法の基本となる考え方について説明できる。</li> <li>・日本国憲法により保障されている権利について、重要判例と結び付けて説明できる。</li> <li>・看護職として、基本的人権、生存権、患者の権利などを保障するために、行うべきことを例を挙げて説明できる。</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 憲法典と立憲主義(1) 担当者：佐藤 太樹</p> <p>2回 憲法典と立憲主義(2) 担当者：佐藤 太樹</p> <p>3回 包括的基本権とプライバシー 担当者：佐藤 太樹</p> <p>4回 自己決定と平等 担当者：佐藤 太樹</p>

	5回	信教の自由と政教分離 担当者：佐藤 太樹
	6回	表現の自由と民主政 担当者：佐藤 太樹
	7回	表現助成と文化（教育・大学など） 担当者：佐藤 太樹
	8回	福祉国家と生存権 担当者：佐藤 太樹
	9回	経済的自由 担当者：佐藤 太樹
	10回	国会と代表 担当者：佐藤 太樹
	11回	国会と立法 担当者：佐藤 太樹
	12回	内閣と行政 担当者：佐藤 太樹
	13回	議院内閣制 担当者：佐藤 太樹
	14回	司法権と違憲審査制 担当者：佐藤 太樹
成績評価の方法	定期試験70%、中間課題30%	
教科書	『プレステップ憲法〔第4版〕』（弘文堂、2024年）	
参考書	なし（授業にて適宜資料を配布）	
事前・事後学修	事前学習：教科書の指定範囲に簡単に目を通していき、各回の授業で何が主題となっているのか把握しておいてください。 事後学習：配布資料を見直し、不明な点は教科書を確認したり、担当教員に質問することで疑問を解消してください。	
その他アドバイス	授業で取り上げた論点と具体的な問題・判例などをセットで理解できるよう、配布資料を復習してください。	
オフィスアワー	授業後を原則としますが、メールや日程調整の上でZOOM等による質問にも対応しますので、ご相談ください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	必修科目
担当教員			
梶田 智子			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	人間の心身の成長について、ライフサイクルと漸成性という観点から人間の各段階（胎生期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における発達上の特性・課題について学ぶことにより、発達という観点から人間理解を深める。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各発達段階の特色を説明できる。</li> <li>・心理学の基礎的な考え方を理解できる。</li> <li>・対人援助において発達の視点が果たす役割を認識できる。</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回            イントロダクション    発達の視点を理解する    担当者：梶田</p> <p>2回            胎児期の特徴と課題    担当者：梶田</p> <p>3回            新生児期の特徴と課題    担当者：梶田</p> <p>4回            乳児期の特徴と課題    担当者：梶田</p>

	5回	幼児期前期の特徴と課題 担当者：梶田
	6回	幼児期後期の特徴と課題 担当者：梶田
	7回	児童期の特徴と課題 担当者：梶田
	8回	思春期の特徴と課題 担当者：梶田
	9回	青年期の特徴と課題 担当者：梶田
	10回	成人期の特徴と課題 担当者：梶田
	11回	老年期の特徴と課題 担当者：梶田
	12回	発達と援助のかかわり① 発達障害 担当者：梶田
	13回	発達と援助のかかわり② 児童虐待とトラウマ 担当者：梶田
	14回	発達と援助のかかわり③ その他の問題／まとめ 担当者：梶田
成績評価の方法	試験70%、授業内レポート20%、授業態度10%	
教科書	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦『よくわかる発達心理学 第2版』ミネルヴァ書房 2018	
参考書	舟島なをみ・望月未知代『看護のための人間発達学 第5版』医学書院 2019	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	授業後に直接声をかけてください。もしくは授業開始前20分程度は講師控室におりますので直接来てください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
安齊 順子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>ロールプレイ</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	心理学の歴史、人間の心の働きと仕組みを理解し、心理学の基礎的な概念について学ぶ。またカウンセリングと心理療法、社会とのかかわり（対人関係、集団心理）や看護学生が大学生活で直面する日常的な出来事、実習で体験する様々な課題を通して、看護と心理学の接点に気づくことが出来るよう心理学の基礎を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間の心の働きと仕組みの基本的事項を説明できる</li> <li>2) カウンセリングの機能について説明できる</li> <li>3) カウンセリングの種類と特徴を説明できる</li> <li>4) 看護に果たすカウンセリングの役割を説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回           心理学とは   担当者：安齊</p> <p>2回           感覚、知覚   担当者：安齊</p> <p>3回           記憶、学習   担当者：安齊</p> <p>4回           心の発達     担当者：安齊</p>

	5回	情動、動機づけ 担当者：安齊
	6回	他者の中の自己 担当者：安齊
	7回	性格 担当者：安齊
	8回	脳と心 担当者：安齊
	9回	ストレスとカウンセリング 担当者：安齊
	10回	カウンセリングと大学生 担当者：安齊
	11回	カウンセリングとグループ 担当者：安齊
	12回	PTSDとカウンセリング 担当者：安齊
	13回	認知行動カウンセリング 担当者：安齊
	14回	まとめ 担当者：安齊
成績評価の方法	レポート70%、授業への参画態度30%	
教科書	大山正, 安齊 順子 (2007) 「あたりまえの心理学ー心理学入門」文化書房博文社	
参考書	渡邊敦子、安齊順子 (2015) 「対人関係とコミュニケーション」北樹出版	
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	必修科目
担当教員			
村田 裕子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/>2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/>5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	人間工学の視点から、安全・安楽に効率のよい作業を行うための原理を理解する。また看護職に必要とされる日常生活上の動作・諸機能などとの関連について、看護ケアが患者・看護師の身体への影響を人間工学の側面からも学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディメカニクスについて説明できる</li> <li>・看護業務に関係する、人間工学上のリスクのある業務・作業について説明できる</li> <li>・人間工学上の安全性の確保について説明できる</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 人間工学とは 担当者：村田</p> <p>2回 看護業務と人間工学 担当者：村田</p> <p>3回 五感、身体と作業 担当者：村田</p> <p>4回 ボディメカニクスⅠ 担当者：村田</p>

	5回	ボディメカニクスⅡ 担当者：村田
	6回	作業の負担を軽減する技 担当者：村田
	7回	看護業務に潜むリスク 担当者：村田
	8回	リスクマネジメント 担当者：村田
	9回	安全性の確保 担当者：村田
	10回	情報とコントロール 担当者：村田
	11回	ME機器とその役割 担当者：村田
	12回	マネジメントサイクル 担当者：村田
	13回	身近な人間工学の応用 担当者：村田
	14回	まとめ 担当者：村田
成績評価の方法	試験 70%	授業への参画状況、態度 30%
教科書	小川鑛一，『イラストで学ぶ看護人間工学』，東京電機大学出版局，2008.	
参考書	適宜授業内で提示する	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	講義終了後に直接声をかけてください。あるいは、連絡先（メールアドレスかGoogle Classroom）に連絡してください	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	1年生	1	必修科目
担当教員			
村上 未来			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	看護師は業務の特性から心身のストレスの掛かる職種であり、ストレス対応力を身に付けることは非常に重要である。その手段として運動は大きな役割を果たす。本授業では、日常の運動がメンタルヘルスや生活の質の向上、疾病予防などに役立つことを理解し、運動が心身の健康の維持・増進にとって果たす役割について考える。
授業の到達目標	<p>1) 生活の質を高めるために必要な心身の健康についての考え方を理解する</p> <p>2) 身近な自己の生活を健康科学の視点から客観的に評価できる</p> <p>3) 健康科学の理論に基づくライフスタイルを提言できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 生活習慣と健康について 担当者：村上</p> <p>2回 運動と健康について 担当者：村上</p> <p>3回 心と健康について 担当者：村上</p> <p>4回 ライフスタイルと健康の科学について 担当者：村上</p>

	5回 生活習慣病の科学：それぞれ自分でテーマを決めて課題学習（準備） 担当者：村上
	6回 生活習慣病の科学：それぞれ自分でテーマを決めて課題学習（発表） 担当者：村上
	7回 まとめ 担当者：村上
成績評価の方法	授業への参画度・態度20%、課題発表40%、試験40%
教科書	特に定めない
参考書	適宜、授業内で紹介する
事前・事後学修	事前に提示された課題等に取り組んだ上で、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1、2年生	1	選択科目
担当教員			
藤井 洋武			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	<p>体育館等を使用して、様々な種類の運動を行う。実際に様々な運動を経験することで、運動が身体的、心理的、社会的に及ぼす影響について自ら体験し考察する。また、運動を通じて仲間と協働することや、心身の健康を維持するために、生活の中に運動を取り入れる重要性を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>1) 疲れにくい歩き方を説明できる</p> <p>2) 多くの仲間と積極的に関わられるようになる</p> <p>3) 自分の得手不得手をしり、自分に合った運動の仕方を模索できるようになる</p> <p>4) 得意なものはより楽しみ、得意でないものにはチャレンジできるようになる</p> <p>5) 運動の実践を通して、運動が健康的な生活に果たす役割を説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 ガイダンスおよび授業の進め方について 担当者：藤井</p> <p>2回 からだほぐし・レクリエーション 担当者：藤井</p> <p>3回 ウォーキングの方法と効果および実践 担当者：藤井</p>

	4回	体力測定と運動強度について 担当者：藤井
	5回	ネット型スポーツ1 いろいろなバレーボール 担当者：藤井
	6回	ネット型スポーツ2 卓球・バドミントン 担当者：藤井
	7回	ゴール型スポーツ バasketボール・フットサル・フリスビーなど 担当者：藤井
	8回	色々なスポーツ ダーツ・ボッチャなどの体験 担当者：藤井
	9回	ペアでするスポーツ 卓球・バドミントンのダブルス 担当者：藤井
	10回	協力するスポーツ 縄を使った遊び 大縄とび・ダブルダッチなど 担当者：藤井
	11回	ストレスマネジメントとスポーツ工夫するスポーツ ミニテニス 担当者：藤井
	12回	工夫するスポーツ1 卓球✕テニス 担当者：藤井
	13回	工夫するスポーツ2 卓球✕バドミントン 担当者：藤井
	14回	まとめと振り返り・総評 担当者：藤井
成績評価の方法	出席状況60%、授業への参加態度20%、レポート課題20%（課題は第14回授業内に実施予定）	
教科書	特に定めない	
参考書	特に定めない	
事前・事後学修	事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検温と健康チェックをし、運動できるように備えること</li> <li>・運動にふさわしい服装・靴を準備すること</li> <li>・また、実施種目の特性や運動効果について予習しておくこと</li> </ul>
	事後	・実施した運動種目について、身体的、心理的、社会的な効果について、述べられるようにすること
その他アドバイス		
オフィスアワー	講義開講時期の毎週水曜日、授業時間の前後に直接声をかけてください 授業日以外に連絡を取りたい場合は、メールにて質問や連絡を受け付けます (連絡先は大学ポータルサイトを参照してください)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1、2年	1	選択科目
担当教員			
村上 未来			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	本授業では、様々な運動を通して、身体を動かすことの楽しさを自分自身が経験することで、これから出会う他者の健康のために、運動が身体的、心理的、社会的に及ぼす影響や必要性を考える。また、毎回の授業の目標を達成するために、チームの仲間と協働する中で、技術を習得していく力やチームとして動く力を学び合う。
授業の到達目標	<p>1) 身体を動かすことの楽しさを感じ、ストレスを発散する</p> <p>2) 多くの仲間と積極的に関わり、社会性を高める</p> <p>3) 自分の得手不得手を知り、自分に合った運動の仕方を模索できるようになる</p> <p>4) 得意なものはより楽しみ、得意でないものにはチャレンジできるようになる</p> <p>5) 心身の健康と運動の関連性を理解する</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 ガイダンス・レクリエーション 担当者：村上</p> <p>2回 からだほぐし・体力チェック 担当者：村上</p> <p>3回 バドミントン・卓球（基礎技術・応用技術） 担当者：村上</p>

	4回	バドミントン・卓球（発展：試合形式） 担当者：村上
	5回	バレーボール（基礎技術・応用技術） 担当者：村上
	6回	バレーボール（発展：試合形式） 担当者：村上
	7回	バスケットボール（基礎技術・応用技術） 担当者：村上
	8回	バスケットボール（発展：試合形式） 担当者：村上
	9回	フットサル（基礎技術・応用技術） 担当者：村上
	10回	フットサル（発展：試合形式） 担当者：村上
	11回	ニュースポーツ体験 担当者：村上
	12回	ニュースポーツ体験 担当者：村上
	13回	スポーツ大会（チーム練習） 担当者：村上
	14回	スポーツ大会 担当者：村上
成績評価の方法	出席状況60%、授業への参加態度20%、レポート課題20%（課題は第14回授業内に実施予定）	
教科書	特に定めない	
参考書	特に定めない	
事前・事後学修	検温と健康チェックをし、運動に備える。また、実施種目の特性や運動効果について復習する。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	選択科目
担当教員			
西村 祐			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>歌唱、演奏</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	主にクラシック音楽を通して豊かな人間性を涵養し、創造性と感性を育む。また、音や音楽が人の身体、精神、社会的な状態に与える影響を理解する。 音楽療法についての概要と、医療現場でどのように活用され看護と結びつくのか、実際の音楽療法の場面について体験や説明を通して学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽が人間に与える影響を自分の言葉で説明できる</li> <li>・自分が発する音（話しも含む）へ関心を持ち、それが他者に与える影響を説明できる</li> <li>・音楽療法について説明できる</li> <li>・校歌の意味を考え、歌うことができる</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 クラシック音楽とは？ 担当者：西村</p> <p>2回 クラシック音楽で使われる言葉たち 担当者：西村</p> <p>3回 同じ曲でもこんなに違う演奏（同曲異演） 担当者：西村</p>

	4回	鍵盤楽器について～ピアノへ至る道 担当者：西村
	5回	さまざまな楽器たち～弦楽器・管楽器・打楽器 担当者：西村
	6回	フルート・デュオ・コンサート（ゲストスピーカーとともに） 担当者：西村・河野
	7回	音楽家の晩年 担当者：西村
	8回	音楽家を襲う病～ジストニア・難聴など 担当者：西村
	9回	「アダージョ」の世界～安らぐ音楽 担当者：西村
	10回	音楽療法について① 担当者：二俣
	11回	音楽療法について② 担当者：二俣
	12回	BGM・環境音楽～空間に音があるということ 担当者：西村
	13回	校歌を知る 担当者：西村
	14回	まとめ～クラシック音楽もエキサイティング 担当者：西村
成績評価の方法	レポート70% 授業への参画状況・態度30%	
教科書	特に定めない	
参考書	授業内で適宜紹介する	
事前・事後学修	日頃から音や音楽に関して関心を持つこと。また各授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	この授業は、講義と鑑賞の2本立てで行ないます。音に対する感性、あるいは音楽鑑賞に対するマナーなどにも言及しますので、「聴く態度」を重要視します。	
オフィスアワー	講義終了後に教室で声をかけるか、講師控室に来てください。もしくは、fsxcs148@gmail.comまで連絡してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	2	必修科目
担当教員			
保田 江美			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	キャリアに関するいくつかの理論を歴史的背景と共に学ぶ。また、看護専門職としてキャリアを発達、キャリア開発につなげる生涯学習を目指した社会資源の活用を学ぶと共に、自身の将来設計の検討を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアとはなにかを理解し、キャリアをデザインする必要性について述べることができる。</li> <li>・自己の特性や経験、価値観を客観視し、自分の言葉で表現できる。</li> <li>・看護職のキャリアに関連する理論について説明できる。</li> <li>・看護職が働く場について説明できる。</li> <li>・残りの大学生活の過ごし方を具体的にデザインし、表現できる。</li> <li>・中長期的なキャリアを考え、それに向けた具体的なプラン、行動を自分の言葉で表現できる。</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、キャリアおよびキャリアデザインとは 担当者:保田 江美</p> <p>2回 自分の根っこを探してみよう①(性格、経験の棚卸し) 担当者:保田 江美</p> <p>3回 自分の根っこを共有しよう 担当者:保田 江美</p> <p>4回 実習の経験を振り返る意義を知ろう、自分の根っこを探してみよう②(学習戦略の振り返り) 担当者:保田 江美</p>

	5回	短期的なキャリアを描こう 担当者:保田 江美
	6回	自分の根っこを探してみよう③(仕事観を知る) 担当者:保田 江美
	7回	自分に合った職場環境を考えよう 担当者:保田 江美
	8回	看護職のキャリアとキャリアデザイン 担当者:保田 江美
	9回	就職について考えよう 担当者:保田 江美
	10回	看護職としてのキャリアを考えよう① 担当者:保田 江美
	11回	看護職としてのキャリアを考えよう② 担当者:保田 江美
	12回	中長期的なキャリアを描こう 担当者:保田 江美
	13回	自身のキャリアを語り合おう 担当者:保田 江美
	14回	総括 担当者:保田 江美
成績評価の方法	授業内課題:50%、レポート:40%、授業への取組み姿勢等:10%	
教科書	特に定めない	
参考書	適宜紹介する	
事前・事後学修	キャリアの創造に正解はありません。とにかく、自分で考えることが大切です。大学生活や実習での経験を振り返りながら、自分の成長や変化に目を向け、さまざまな方法をつかって、自分の考えを見える化してもらいたいと願っています。毎回、前回の内容を整理し、授業に臨んでください。(各回60分程度)	
その他アドバイス	本科目では学生参加型の授業を展開します。グループで議論したり、ワークをしたりすることも多いので、積極的に授業に参加するようにしてください。本科目のワーク、レポートで言語化したことは就職活動にも活用できます。	
オフィスアワー	授業日のみ出校しますので、授業の前後に声をかけてください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	1	必修科目
担当教員			
鈴木 規子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>□(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>□(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>□Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>□6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	英語での表現力（話す・書く）・英語の聴解力・読解力の4技能を通して、英文理解のために必要な講読の基礎について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本文法と5文型を活用して、英文の成り立ちを理解することができる。</li> <li>2. 英文を聞いて、大意をつかむことができる。</li> <li>3. 英文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>4. 自分の意見を英語で表現できる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 Introduction / Basic English Grammar Review ① 担当者：鈴木</p> <p>2回 Basic English Grammar Review ② 担当者：鈴木</p> <p>3回 I-1. A holistic View of Humans 担当者：鈴木</p> <p>4回 I-2 Homeostasis, stress, and Adaptation 担当者：鈴木</p>

	5回	I-4 Late Adulthood 担当者：鈴木
	6回	III-1 The Health Care Team 担当者：鈴木
	7回	III-2 Communication Skills 担当者：鈴木
	8回	III-3 Perioperative Procedure 担当者：鈴木
	9回	IV-1 Rest and Sleep 担当者：鈴木
	10回	IV-2 Vital Signs 担当者：鈴木
	11回	IV-3 High-tech Diagnostic Tests 担当者：鈴木
	12回	V-2 Medication 担当者：鈴木
	13回	VI A patient's Bill of Rights 担当者：鈴木
	14回	TBA 担当者：鈴木
成績評価の方法	リフレクション(10%)、授業参加(20%)、テスト(70%)	
教科書	「Health Care Today」 The New Edition / Tsukimaro Nishimura et al. / Asahi Press / 1989	
参考書	特に定めない。	
事前・事後学修	次回の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べおくこと。授業後に再度、授業内容を理解するよう復習すること。 *授業の理解度や進行状況に応じて、予定内容を変更する場合があります。	
その他アドバイス	教科書の英文を予習と復習で音読し、内容を英語で理解できるようにしましょう。	
オフィスアワー	授業前後に声をかけるか、Teamsで連絡・質問してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	1	必修科目
担当教員			
鈴木 規子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>ロールプレイ</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	発音を意識して、聴き取りや発話練習を通して、英文理解のために必要な会話の基礎について学ぶ。授業では時間を割いて会話演習を行ない、英会話表現を口について出るよう繰り返し練習を行う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会話を聞き取り内容を推測することができる</li> <li>2. 医療・看護に特徴的な単語とフレーズを理解する</li> <li>3. 看護現場で使われる英会話表現を習得することができる</li> <li>4. 発音やリズム・イントネーションを意識してロールプレイをすることができる</li> <li>5. 発話練習を通して、英語の発音とリズムの基礎を学ぶことができる</li> </ol>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 Introduction / Pronunciation, Structure &amp; Rhythm 担当者：鈴木</p> <p>2回 Pronunciation, Structure &amp; Rhythm / Body Parts / Medical Terminology 担当者：鈴木</p> <p>3回 Unit 1 Meeting patients 担当者：鈴木</p> <p>4回 Unit 2 Taking a medical history 担当者：鈴木</p>

	5回	Unit 3 Assessing patients' symptoms 担当者：鈴木
	6回	Unit 4 Taking vital signs 担当者：鈴木
	7回	Unit 5 Taking a specimen 担当者：鈴木
	8回	Unit 6 Conducting medical examinations 担当者：鈴木
	9回	Unit 7 Assessing pain 担当者：鈴木
	10回	Unit 8 Advising about medication 担当者：鈴木
	11回	Unit 9 Improving patients' mobility 担当者：鈴木
	12回	Unit 10 Maintaining a good diet 担当者：鈴木
	13回	Unit 11 Caring for inpatients 担当者：鈴木
	14回	Unit 12 Coping with emergencies 担当者：鈴木
成績評価の方法	リフレクション(10%)、授業参加(30%)、定期試験(60%)	
教科書	Caring for People / Michiko Mayuzumi et al / Cengage learning K.K. / 2014	
参考書	特に定めない	
事前・事後学修	<p>次回の授業範囲の用語の意味を調べ理解しておくこと。授業後に再度、授業内容を理解するよう復習すること。</p> <p>*授業の理解度や進行状況に応じて、予定内容を変更する場合があります。</p>	
その他アドバイス	授業の英文や単語の音読を推奨します。	
オフィスアワー	授業前後に声をかけるか、Teamsで連絡・質問してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	選択科目
担当教員			
鈴木 規子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>□(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>□Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	英文理解力を付けるために、実際の看護に関連した内容の英文を正確に理解する読解力、読解した内容について英語で自分の意見を述べる表現(話す・書く)について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本5文型と必須文法を学び、英文のしくみを理解することができる</li> <li>2. 看護について記された文章を読み、英語の内容を理解することができる</li> <li>3. 読解した内容について自分の意見を英語で表現することができる</li> <li>4. 実際の看護に関連した内容を英語で理解し学ぶことができる。</li> </ol>
履修条件	英語Ⅰ（講読基礎）
授業計画	<p>1回 Introduction / Basic English Structure &amp; Grammar Review 担当者：鈴木</p> <p>2回 A Holistic View of Humans 担当者：鈴木</p> <p>3回 Homeostasis, Stress, and Adaptation 担当者：鈴木</p>

	4回	Vital Signs 担当者：鈴木
	5回	Rest and Sleep 担当者：鈴木
	6回	What is Nursing? ① 担当者：鈴木
	7回	What is Nursing? ② 担当者：鈴木
	8回	Communication Skills / Therapeutic Communication 担当者：鈴木
	9回	Nursing Process 担当者：鈴木
	10回	Nursing Delegation / Patient Advocates 担当者：鈴木
	11回	A Patient's Bill of Rights 担当者：鈴木
	12回	Energy and Energy Healing 担当者：鈴木
	13回	Paradigms for Nursing Research 担当者：鈴木
	14回	TBA 担当者：鈴木
成績評価の方法	リフレクション(10%)、授業参加(30%)、定期試験(60%)	
教科書	プリント資料を配布します。	
参考書	特になし	
事前・事後学修	<p>次回の授業範囲の用語の意味を調べ理解しておくこと。授業後に再度、授業内容を理解するよう復習すること。</p> <p>*授業の理解度や進行状況に応じて、予定内容を変更する場合があります。</p>	
その他アドバイス	<p>発音を意識して音読を推奨します。復習で英文を読んでください。</p> <p>実際にアメリカの看護大学で学んで重要と思ったトピックも入れましたので、英語の学びだけでなく、学んだ内容自体を実際の看護に活かしてください。</p>	
オフィスアワー	授業前後に声をかけるか、Teamsで連絡・質問してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	選択科目
担当教員			
鈴木 規子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>ロールプレイ</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	看護について記された文章を正確に読み取る読解力、読解した内容について英語で自分の意見を述べる表現力(話す・書く)、英語で述べられた相手の意見を理解する聴解力を修得する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学英語の語源の成り立ちが理解できる</li> <li>2. 英語の文章を正確に読み取ることができる</li> <li>3. 英語で文章を組み立て、自分の意見を述べるができる</li> <li>4. 英語で述べられた相手の意見を聞き取り理解することができる</li> <li>5. 発音を意識して英語の会話ができる</li> </ol>
履修条件	英語Ⅱ（会話基礎）を履修していること
授業計画	<p>1回 Introduction / Pronunciation / Unit 1 Is this your first visit to this hospital. 担当者：鈴木</p> <p>2回 Unit 2 What's the matter? 担当者：鈴木</p> <p>3回 Unit 3 You need to see a Dermatologist. 担当者：鈴木</p>

	<p>4回 Unit 4 Let me direct you to Radiology. 担当者：鈴木</p> <p>5回 Unit 5 Let's check your height and weight. 担当者：鈴木</p> <p>6回 Unit 6 I need to ask you some questions. 担当者：鈴木</p> <p>7回 Unit 7 Can you describe the pain? 担当者：鈴木</p> <p>8回 Unit 8 Rest your arm on the armrest. 担当者：鈴木</p> <p>9回 Unit 9 Please make a follow-up appointment. 担当者：鈴木</p> <p>10回 Unit 10 Take this medicine after meals 担当者：鈴木</p> <p>11回 Unit 11 Your operation will be this afternoon. 担当者：鈴木</p> <p>12回 Unit 12 Are you feeling more comfortable now? 担当者：鈴木</p> <p>13回 Unit 13 is an emergency. 担当者：鈴木</p> <p>14回 Unit 14 Tests show you have high sugar levels. 担当者：鈴木</p>
成績評価の方法	リフレクション(10%)、授業参加(30%)、定期試験(60%)
教科書	English for Nurses [Revised edition] / Margaret Yamanaka / Asahi press / 2021
参考書	
事前・事後学修	<p>次回の授業範囲の用語の意味を調べ理解しておくこと。授業後に再度、授業内容を理解するよう復習すること。</p> <p>*授業の理解度や進行状況に応じて、予定内容を変更する場合があります。</p>
その他アドバイス	音読することでさらに効果がでますので、予習復習で教科書を音読しましょう。
オフィスアワー	授業前後に声をかけるか、Teamsで連絡・質問してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	1	選択科目
担当教員			
木村 奈津子			
30時間			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	医療現場では様々な背景をもつ対象への対応が必要である。特に川崎市は中国国籍をもつ市民が多いため、中国語の簡単な会話や文章を通して中国の生活や文化、医療制度を学び、異文化を身近に感じながら学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できる。</li> <li>2. 授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙を会話に活用できる。</li> <li>3. 中国人の生活について、自分の興味のあるテーマを選んで、紹介できる。</li> </ol>
履修条件	
授業計画	<p>1回 授業と中国語についての説明、発音編 発音 1声調・単母音 担当者：木村</p> <p>2回 発音 2複母音、発音 3鼻母音 担当者：木村</p> <p>3回 発音 4子音、発音 5その他 担当者：木村</p> <p>4回 発音 発音のまとめと復習 担当者：木村</p> <p>5回 人称代名詞・疑問詞疑問文 等 担当者：木村</p>

	6回 指示代名詞・“是”構文 等 担当者：木村
	7回 反復疑問文・量詞 等 担当者：木村
	8回 文法のまとめ・復習・活用1（5～7回の復習）（各自のテーマについて紹介） 担当者：木村
	9回 “有”構文・構造助詞“的” 等 担当者：木村
	10回 選択疑問文・“在”構文 等 担当者：木村
	11回 文法のまとめ・復習・活用2（9・10回の復習）（各自のテーマについて紹介） 担当者：木村
	12回 時間の言い方・助動詞“想”“要” 等 担当者：木村
	13回 完了の“了”と変化の“了” 等 担当者：木村
	14回 まとめ（各自のテーマについて紹介） 担当者：木村
成績評価の方法	試験40%、課題20%、小テスト20%、発表20%
教科書	『北京好日子』
参考書	辞書：クラウン中日辞典 小型版 松岡榮志主幹（三省堂）（任意）
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	小テスト、宿題、課題提出、発表があります。
オフィスアワー	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	1	選択科目
担当教員			
木村 奈津子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/>2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/>4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	中国語Ⅰを基礎とし、医療現場での中国語会話を会話形式で学ぶ。看護の場での情報収集（問診、症状の聴取）など、ロールプレイなどを通して実際の場面をイメージしながら学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の音声表記（ピンイン）を正しく発音できる。</li> <li>・基本単語や基本文法を覚える。</li> <li>・簡単な日常会話ができる。</li> <li>・看護師に症状を伝えることができる。</li> <li>・患者に症状を尋ねることができる。</li> </ul>
履修条件	中国語Ⅰ（基礎）を履修していること
授業計画	<p>1回 これまでの学習の振り返り 担当者：木村</p> <p>2回 日付、曜日、時刻の言い方・時間副詞・副詞②・接続詞“还是”等 担当者：木村</p> <p>3回 助動詞“想”，“喜欢”，“爱”・助動詞“能”，“可以”，“会”・補語等 担当者：木村</p>

	4回	文法の復習・まとめ・活用1（2・3回の復習）	担当者：木村
	5回	数を尋ねる疑問詞（応用）・様々な形容詞 等	担当者：木村
	6回	疑問詞“怎么”（応用）・副詞③ 等	担当者：木村
	7回	文法の復習・まとめ・活用2（5・6回の復習）	担当者：木村
	8回	“多少钱”・副詞④ 等	担当者：木村
	9回	助詞“过”・様々な疑問文② 等	担当者：木村
	10回	二重目的語を取る動詞“给”・動詞表現① 等	担当者：木村
	11回	文法の復習・まとめ・活用3（8～10回の復習）	担当者：木村
	12回	テーマ発表	担当者：木村
	13回	患者に症状を聞く（ロールプレイを含む）	担当者：木村
	14回	護理（中国の看護師）に尋ねる（ロールプレイを含む）	担当者：木村
成績評価の方法	期末考査 50% ・課題 25% ・小テスト25%		
教科書	木村奈津子 『北京好日子』（2022年度版）白帝社		
参考書	辞書：クラウン中日辞典 小型版 松岡榮志主幹 三省堂(任意)		
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス	宿題、発表あり		
オフィスアワー			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	選択科目
担当教員			
鈴木 規子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>ロールプレイ</p> <p>対応するDP</p> <p>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p>■Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/>Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <p>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/>2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	医療関連の事柄について考えるうえで必須となる基本知識を英語の語録・読解・聴解・会話において多面的に学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reading, Exercise, Dialogを通して、医療英語の語録・読解・聴解・会話を学びることができる。</li> <li>2. 解剖学的システム別に、そのシステムを構成している臓器の位置・構造・名称及びに機能を英語で学び、理解できる。</li> <li>3. 各システムに特有の疾病の原因・症状、治療法並びにその問題点、予防法等を英語で学び、理解できる。</li> <li>4. 医療従事者の心得ておくべき基本を英語で理解できる。</li> <li>5. 医学英語の語源と成り立ちを理解し、知らない医学英語を推測することができる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 Introduction / 医学英語の語源と成り立ち 担当者：鈴木</p> <p>2回 Unit 1 Basics for Health Care Professionals 担当者：鈴木</p> <p>3回 Unit 2 The Digestive System : How It Works 担当者：鈴木</p> <p>4回 Unit 3 The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood 担当者：鈴木</p>

	5回	Unit 4 The Neurological System: Neuroscience 担当者:鈴木
	6回	Unit 5 The Urinary System: Kidney Transplantation 担当者:鈴木
	7回	Unit 6 The Reproductive System: Infertility Treatments 担当者:鈴木
	8回	Unit 7 The Skeletal System: Bone Health 担当者:鈴木
	9回	Unit 8 The Immune System: Allergies 担当者:鈴木
	10回	Unit 9 The Endocrine system: Diabetes 担当者:鈴木
	11回	Unit 10 Preventing the Spread of Infectious Disease 担当者:鈴木
	12回	Unit 14 Clinical Research 担当者:鈴木
	13回	Unit 15 Health Care for the Aging: Geriatric Nursing 担当者:鈴木
	14回	TBA 担当者:鈴木
成績評価の方法	リフレクション(10%)、授業参加(20%)、定期試験(70%)	
教科書	Understanding Health Care / Tsukimaro Nishimura et al. / Asahi Press / 2011	
参考書	基本の101語の語源から学ぶ医学英語 第2版 / 津波古澄子 マリオン・ゾボスキー / 日本看護協会出版会 / 2022	
事前・事後学修	次回の授業範囲を読み、用語の意味を調べおくこと。授業後に再度、授業内容を理解するよう復習すること。 *授業の理解度や進行状況により、予定内容を変更する場合があります。	
その他アドバイス	教科書の英文を音読し、内容を英語で理解できるようにしましょう。	
オフィスアワー	授業前後に声をかけるか、Teamsで連絡・質問してください。	

講義科目名称： 人体構造機能学Ⅰ（解剖と生理：筋骨格、消化器、泌尿器、生殖器） 授業コード： E02600A

英文科目名称： Human Anatomy and Function I (Anatomy & Physiology Musculoskeletal, Digestive, Urinary)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	1年生	2	必修科目
担当教員			
水嶋 崇一郎、大橋 充代、松田 真由美			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	看護師にとって必要不可欠である、人体内部の正常構造に関する知識（いわゆる肉眼解剖学）を習得する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各々の臓器／部位について正しい解剖学名称を列挙できる。</li> <li>2) 各臓器の大きさと形状をくわしく説明できる。</li> <li>3) 各臓器が人体のどこに位置するのかをくわしく説明できる。</li> <li>4) 臓器間の関係性（位置関係や接続関係など）についてくわしく説明できる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 解剖学序論 担当者：水嶋・松田</p> <p>2回 筋骨格系1（総論） 担当者：水嶋</p> <p>3回 筋骨格系2（骨各論） 担当者：水嶋</p> <p>4回 筋骨格系3（筋各論） 担当者：水嶋</p>

	5回	消化器系1（消化器系の構成、消化管）	担当者：水嶋
	6回	消化器系2（消化腺）	担当者：水嶋
	7回	呼吸器系	担当者：水嶋
	8回	内分泌系	担当者：大橋
	9回	泌尿器系	担当者：大橋
	10回	生殖器系	担当者：大橋
	11回	循環器系1（心臓、体循環の動脈）	担当者：大橋
	12回	循環器系2（体循環の静脈、リンパ管系、胎児循環）	担当者：大橋
	13回	神経系1（中枢神経）	担当者：大橋
	14回	神経系2（末梢神経）	担当者：大橋
	15回	特殊感覚器系	担当者：大橋
成績評価の方法	試験100%		
教科書	「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 第11版（系統看護学講座 専門基礎分野）」（医学書院）		
参考書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①, 解剖生理学 第4版」（メディカ出版）		
事前・事後学修	事前：配布資料、教科書、参考書の該当箇所を一読しておくこと。事後：理解が不十分な箇所について、担当教員に質問したりテキスト類を再読したりするなどして、積極的に復習しておくこと。		
その他アドバイス	肉眼解剖学は、一つ一つの知識についてはさほど難しくありませんが、大事なこと（覚えること）が山ほどあるため、学習上すごく大変です。その一方で、この学問にはわれわれの体に関する面白い話がたくさんあります。ぜひ自分なりの面白さを見つけてください。		
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

講義科目名称： 人体構造機能学Ⅱ（解剖と生理：循環器、呼吸器、神経、感覚器） 授業コード： E02700A

英文科目名称： Human Anatomy and FunctionⅡ (Anatomy and Physiology:Cardiovascular, Respiratory, Ne

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	1年生	2	必修科目
担当教員			
長谷 都、松田 真由美、岡田 忍			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	対象者の状態を理解するのに必要な人体の正常な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。
授業の到達目標	人体の各生理機能を理解し、それらが統合されて体内環境の恒常性が保たれる仕組みを説明することができる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、看護学の土台となる解剖生理学、ホメオスタシス 担当者：松田・岡田</p> <p>2回 細胞の働き 担当者：松田</p> <p>3回 呼吸1 呼吸運動 担当者：松田</p> <p>4回 呼吸2 呼吸機能 担当者：松田</p> <p>5回 血液、体液の調節 担当者：松田</p>

	6回	心臓・循環1	担当者：松田
	7回	心臓・循環2	担当者：松田
	8回	心臓・循環3	担当者：松田
	9回	尿の生成と排出	担当者：長谷
	10回	酸塩基平衡	担当者：長谷
	11回	栄養の消化と吸収1	担当者：長谷
	12回	栄養の消化と吸収2	担当者：長谷
	13回	内分泌1	担当者：長谷
	14回	内分泌2	担当者：長谷
成績評価の方法	試験90%、ミニテスト10%		
教科書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版 (系統看護学講座 専門基礎分野)」 (医学書院)		
参考書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①, 解剖生理学 第4版」 (メディカ出版)		
事前・事後学修	事前：教科書の各回テーマに該当する箇所を読み、授業に臨むこと。事後：大切なポイントを中心に復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

講義科目名称： 人体構造機能学Ⅲ（解剖と生理：生命活動と代謝） 授業コード： E02800A

英文科目名称： Human Anatomy and FunctionⅢ (Anatomy & Physiology: Life Activity and Metabolism)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期前半	1年生	2	必修科目
担当教員			
長谷 都、松田 真由美、岡田 忍			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/>2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input type="checkbox"/>3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/>5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input type="checkbox"/>6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	対象者の状態を理解するのに必要な人体の正常な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。
授業の到達目標	人体の各生理機能を理解し、それらが統合されて体内環境の恒常性が保たれる仕組みを説明することができる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 内分泌3 担当者：長谷</p> <p>2回 生殖 担当者：長谷</p> <p>3回 神経系の構造と機能 担当者：長谷</p> <p>4回 感覚 担当者：長谷</p> <p>5回 脳と脊髄 担当者：長谷</p>

	6回	脳の機能 担当者：長谷
	7回	筋と筋収縮 担当者：長谷
	8回	脳の高次機能 担当者：長谷
	9回	中枢神経系の障害 担当者：長谷
	10回	生体の防御 担当者：長谷
	11回	体温調節 担当者：松田
	12回	成長と老化1 担当者：松田・岡田
	13回	成長と老化2 担当者：松田・岡田
	14回	まとめ 担当者：長谷
成績評価の方法	試験90%、ミニテスト10%	
教科書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版（系統看護学講座 専門基礎分野）」（医学書院）	
参考書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①, 解剖生理学 第4版」（メディカ出版）	
事前・事後学修	事前：教科書の各回テーマに該当する箇所を読み、授業に臨むこと。事後：大切なポイントを中心に復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期後半	1年生	1	必修科目
担当教員			
松田 真由美、岡田 忍、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	解剖見学実習を通して、「人体構造機能学」から得た人体の構造に関する知識の理解を深める。またご献体されたご本人ならびにご遺族へのご意思に深い畏敬の念をもって、倫理的な尊厳を伴った行動を身に付ける。さらに、これまでの解剖・生理の学修の中から、さらに学修を深めたい内容に関してテーマを定めて、学修を深め発表する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) おのおのの臓器／部位について正しい解剖学名称を列挙できる。</li> <li>2) 各臓器の大きさや形状を説明できる。</li> <li>3) 各臓器が人体のどこに位置するのかを説明できる。</li> <li>4) 臓器間の関係性（位置関係や接続関係など）について説明できる。</li> <li>5) 臓器の機能について、臓器の形状や性状と結び付けて説明できる。</li> <li>6) 人体の各臓器の機能を理解し、それらが統合されて体内環境の恒常性が保たれる仕組みを説明することができる。</li> <li>7) ご遺体に接し、献体くださった方・家族に感謝し、看護学生としての心構えを身に着け言語化することができる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回                    オリエンテーション：解剖生理に関するアチーブメントテスト    担当者：松田</p> <p>2回                    アチーブメントテストの振り返り    担当者：松田</p>

	3回	テーマ学修：グループに分かれて、解剖・生理学に関してテーマを決めて学修を深める 担当者：松田
	4回	テーマ学修：情報の収集と統合 担当者：松田
	5回	解剖実習のオリエンテーション1、テーマ学習：情報の収集と統合 担当者：松田
	6回	解剖実習のオリエンテーション2 担当者：松田
	7回	聖マリアンナ医科大学の協力を得て、解剖学実習に参加する（11/21 or 11/28） 担当者：松田、中島
	8回	聖マリアンナ医科大学の協力を得て、解剖学実習に参加する（11/21 or 11/28） 担当者：松田、中島
	9回	解剖実習の振り返り（11/24 or 11/30） 担当者：松田
	10回	テーマ学修：発表に向けた整理（11/24 or 11/30） 担当者：松田
	11回	テーマ学修の発表 担当者：松田
	12回	テーマ学修の発表 担当者：松田
	13回	テーマ学修の発表 担当者：松田
	14回	まとめ 担当者：松田
成績評価の方法	解剖見学実習の学び：40%、テーマ学習：40%、試験20%	
教科書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版（系統看護学講座 専門基礎分野）」（医学書院） 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①，解剖生理学 第4版」（メディカ出版）	
参考書	適宜紹介します	
事前・事後学修	人体構造機能学Ⅰ～Ⅱの授業内容を復習し、学修を深めたい内容（テーマ）について考えておきましょう。解剖見学実習後は学びをレポートにまとめ考えや理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
坂元 昇、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ（人体と細胞、ホメオスタシス、循環器系、呼吸器系）。</p>
授業の到達目標	<p>呼吸器系及び循環器系の主な疾患をあげて、それらの病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 疾病の診断の基本と方法 担当者：坂元</p> <p>2回 細胞の障害、炎症、腫瘍 担当者：坂元</p> <p>3回 ホメオスタシス、老化、廃症候群 担当者：坂元</p> <p>4回 呼吸器系の炎症性の疾患（気管支炎、肺炎） 担当者：中野</p> <p>5回 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 担当者：亀山</p>

	6回	肺循環障害（肺高血圧、肺栓塞症等）	担当者：中野
	7回	肺結核、気胸、	担当者：西尾
	8回	肺の腫瘍（肺癌、中皮腫等）	担当者：亀山
	9回	先天性心疾患、弁膜症	担当者：西澤
	10回	不整脈、心筋症	担当者：西澤
	11回	虚血性心疾患、心不全	担当者：西澤
	12回	血圧異常の病態（本態性高血圧、動脈硬化、二次性高血圧、起立性低血圧）	担当者：西澤
	13回	血管系の疾患（大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、控滅症候群、下肢静脈瘤、深部静脈血栓）	担当者：西澤
	14回	ショック（心原性ショック、出血性ショック、血流分布異常性ショック）	担当者：西澤
成績評価の方法	授業への参画・貢献度20%、試験80%		
教科書	「病態生理学」「呼吸器」「循環器」（ナーシング・グラフィカ）（メディカ出版）		
参考書	「病気がみえるVol.2循環器」「病気がみえるVol.4呼吸器」（メディックメディア）		
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
坂元 昇、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後に関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。(消化器系、内分泌系、免疫系)
授業の到達目標	主な消化器系、内分泌系、代謝系、免疫系の主な疾患について病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 手術療法と適応、麻酔 担当者：出野</p> <p>2回 放射線による治療 担当者：栗林</p> <p>3回 上部消化管の炎症性の疾患（急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎） 担当者：玉井</p> <p>4回 下部消化管の炎症性の疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻）、イレウス、排便障害 担当者：玉井</p>

	5回	胆・肝・膵の疾患（肝炎、胆管炎、膵炎、肝硬変、胆石、脂肪肝等）	担当者：玉井
	6回	腹壁、腹膜、横隔膜の疾患（祖型ヘルニア、腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）	担当者：玉井
	7回	上部消化管の悪性腫瘍、下部消化管の悪性腫瘍	担当者：玉井
	8回	内分泌系の疾患（間脳、下垂体）腫瘍（下垂体腫瘍、甲状腺癌）	担当者：津村
	9回	甲状腺疾患、副甲状腺疾患	担当者：津村
	10回	代謝異常の疾患（メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病）	担当者：津村
	11回	代謝異常の疾患（脂質異常症、高尿酸血症、ビタミン欠乏症）	担当者：津村
	12回	自己免疫疾患	担当者：田口
	13回	アレルギー疾患	担当者：田口
	14回	免疫低下に関連する疾患（敗血症、HIV感染症、エイズ）	担当者：坂本
成績評価の方法	試験80% 授業への参画態度20%		
教科書	ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(3)：消化器 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(4)：血液／アレルギー・膠原病／感染症 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(8)：腎／泌尿器／内分泌・代謝		
参考書	『得意になる解剖生理』照林社		
事前・事後学修			
その他アドバイス			
オフィスアワー			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
坂元 昇、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後に関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（骨格系・筋系・神経系・自律神経系、精神疾患系）
授業の到達目標	骨格系・筋系・神経系・自律神経系、精神疾患系の主な疾患をあげて、それらの病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 骨折、脱臼、捻挫 担当者：三戸</p> <p>2回 腫瘍（骨肉腫）、炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎） 担当者：竹内</p> <p>3回 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症） 担当者：西村</p> <p>4回 骨粗鬆症、変形性関節症 担当者：山口</p> <p>5回 筋肉系の疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症） 担当者：野崎</p>

	6回	中枢神経系の疾患（脳血管障害、頭蓋内圧亢進症、感染症（脳炎、髄膜炎）	担当者：野崎
	7回	中枢神経系の疾患（頭部外傷、脊髄損傷てんかん、脳腫瘍、パーキンソン、筋萎縮性側索硬化症）	担当者：野崎
	8回	末神経系の疾患（自律神経失調症、ギランバレー症候群、ベル麻痺、圧迫性神経障害）	担当者：野崎 末神経系の疾患 （自律神経失調症、ギランバレー症候群、ベル麻痺、圧迫性神経障害）
	9回	頭部外傷と治療	担当者：野崎
	10回	器質性精神障害（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）、せん妄	担当者：齋藤
	11回	統合失調症、気分＜感情＞障害（うつ病、双極性障害）	担当者：齋藤
	12回	神経症性障害、ストレス関連障害（パニック障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害）	担当者：齋藤
	13回	精神作用物質使用による精神・行動の異常（アルコール依存症、覚醒剤・大麻精神病）	担当者：齋藤
	14回	小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害、（摂食障害、不眠症、ナルコレプシー）	担当者：齋藤
成績評価の方法	授業への参画・貢献度20%、試験80%		
教科書	「病態生理学」「運動器」「脳・神経」（ナーシング・グラフィカ メディカ出版）		
参考書	「病気がみえるVol. 11運動器・整形外科」「病気がみえるVol. 7脳・神経」（メディックメディア）		
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
坂元 昇、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（感覚器系：眼・耳・鼻・舌・皮膚・血液・造血器・泌尿器系）</p>
授業の到達目標	<p>感覚器系（眼・耳・鼻・舌・皮膚）及び血液・造血器・泌尿器系の主な疾患について、病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。</p>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球形貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血） 担当者：定平</p> <p>2回 出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病、免疫性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固）、白血球減少症 担当者：定平</p> <p>3回 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫） 担当者：定平</p> <p>4回 腎炎、慢性腎臓病、腎不全 担当者：滝本</p>

	5回	炎症性疾患（腎盂腎炎、膀胱炎）、腫瘍（腎癌、尿管癌、膀胱癌）	担当者：原
	6回	腎・尿路結石、排尿障害（過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症）	担当者：原
	7回	感覚器系の疾患（眼科系：視覚障害、飛蚊症、白内障、緑内障、ドライアイ等）	担当者：三田村
	8回	感覚器系の疾患（眼科系：感染症、外傷、網膜剥離、網膜症、糖尿病性網膜症等）	担当者：三田村
	9回	炎症性疾患（咽頭炎、桃炎）	担当者：重富
	10回	感覚器系の疾患（耳鼻科系：難聴、Ménière<メニエール>病、嗅覚障害など）	担当者：重富
	11回	成長・老化と口腔衛生、う歯、歯周病	担当者：鬼澤
	12回	腫瘍（舌癌）他	担当者：鬼澤
	13回	皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹）	担当者：西本
	14回	皮膚障害（疥癬、蜂窩織炎）	担当者：西本
成績評価の方法	試験80% 授業への参画態度20%		
教科書	ナースィング・グラフィカEX 疾患と看護(6)：眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 ナースィング・グラフィカEX 疾患と看護(8)：腎／泌尿器／内分泌・代謝 ナースィング・グラフィカEX 疾患と看護(4)：血液／アレルギー・膠原病／感染症		
参考書	『得意になる解剖生理』照林社		
事前・事後学修			
その他アドバイス			
オフィスアワー			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
坂元 昇、齋藤 寿昭			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後に関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（生殖器系：受精を含む、成長・老化のしくみ、胎児の血液循環及び異常、小児に多い疾患）</p>															
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長のしくみについて説明できる。</li> <li>・生殖器系、胎児の血液循環及び異常、小児の主な疾患について、病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。</li> </ul>															
履修条件	特に定めない															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>正常妊娠</td> <td>担当者：秋葉</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>妊娠の異常</td> <td>担当者：秋葉</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>妊娠合併症・母子感染症</td> <td>担当者：秋葉</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>正常分娩と産褥期</td> <td>担当者：秋葉</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>分娩の異常</td> <td>担当者：秋葉</td> </tr> </table>	1回	正常妊娠	担当者：秋葉	2回	妊娠の異常	担当者：秋葉	3回	妊娠合併症・母子感染症	担当者：秋葉	4回	正常分娩と産褥期	担当者：秋葉	5回	分娩の異常	担当者：秋葉
1回	正常妊娠	担当者：秋葉														
2回	妊娠の異常	担当者：秋葉														
3回	妊娠合併症・母子感染症	担当者：秋葉														
4回	正常分娩と産褥期	担当者：秋葉														
5回	分娩の異常	担当者：秋葉														

	6回	更年期と更年期障害 担当者：秋葉
	7回	婦人科系の腫瘍 担当者：秋葉
	8回	小児の成長、低出生体重児、医療的ケア 担当者：土橋
	9回	小児の遺伝性疾患・染色体異常 担当者：土橋
	10回	小児の代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー・膠原病 担当者：土橋
	11回	小児の循環器疾患、腎・泌尿器疾患 担当者：土橋
	12回	小児の消化器疾患、血液・腫瘍疾患 担当者：土橋
	13回	小児の神経・筋・精神疾患 担当者：土橋
	14回	小児の感染症 担当者：土橋
成績評価の方法	試験80% 授業への参画態度20%	
教科書	ナースィング・グラフィカ 母性看護学(2)：母性看護の実践 母性看護学(3)：母性看護技術 第4版 ナースィング・グラフィカEX 疾患と看護(9)：女性生殖器 ナースィング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術 第4版 小児看護学(3)：小児の疾患と看護 第2版	
参考書	授業内で、適宜提示する	
事前・事後学修		
その他アドバイス		
オフィスアワー		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
鈴木 高弘			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	薬物の概念、主な薬物の特徴と作用機序(薬物動態学)を理解し、使用時の留意点(注意点、添付文書の理解)、薬物の相互作用、医薬品の管理、薬害の実態とその予防など、薬物療法を行うための基本的知識を学ぶ。また、薬物管理に求められる知識、技術、倫理について学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物が人体に作用する原理と、作用に影響を与える要因を理解する。</li> <li>・投与方法および投与量と薬理効果の関係を正しく理解する。</li> <li>・医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。</li> </ul>
履修条件	
授業計画	<p>1回 医薬品総論(1) 担当者：鈴木</p> <p>2回 医薬品総論(2) 担当者：鈴木</p> <p>3回 感染症に使用する薬 担当者：鈴木</p> <p>4回 免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬 担当者：鈴木</p> <p>5回 がんに使用する薬担当者：鈴木</p>

	6回	末梢神経に作用する薬 担当者：鈴木
	7回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（1） 担当者：鈴木
	8回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬（2） 担当者：鈴木
	9回	循環器疾患に使用する薬／血液・造血器疾患に使用する薬（1） 担当者：鈴木
	10回	循環器疾患に使用する薬／血液・造血器疾患に使用する薬（2） 担当者：鈴木
	11回	代謝／内分泌疾患に使用する薬 担当者：鈴木
	12回	呼吸器疾患に使用する薬 担当者：鈴木
	13回	消化器系疾患に使用する薬／泌尿器・生殖器疾患に使用する薬 担当者：鈴木
	14回	感覚器疾患に使用する薬／周術期・救命救急時に使用する薬 担当者：鈴木
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト30%	
教科書	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(2)：臨床薬理学	
参考書	薬理学（医学書院）	
事前・事後学修	予習においては、テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にし、授業に参加する。また、関連動画がある場合は視聴する。復習においては、テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	講義開講時期の毎週火曜日、講義終了後に直接声をかけてください	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
美田 誠二			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	<p>”ヒトと感染症との戦いに終わりは無い”ことを2019年来の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は如実に物語っている。人々の健康を支援する医療従事者は、感染を制御・防御する実践者・キーパーソンたり得ることが求められている。本講では、将来、看護職としてその役割を担う際に備えておくべき、感染の成り立ちや感染症の診断・治療・予防などの基礎的知識・論理的思考を学ぶ。さらに、現代の感染症の動向と対策、臨床上重要な感染症の特徴、川崎市内の感染最新情報などにつき理解する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「感染」とは何か、その成立の三要素（寄生体/病原体・感染経路・宿主）について説明できる。</li> <li>・感染の制御/防御（消毒・滅菌、ワクチン・治療薬、標準予防策、感染症法ほか）について説明できる。</li> <li>・現代の感染症の動向（新興感染症、日和見感染症、薬剤耐性菌、輸入感染症ほか）について概要を説明できる。</li> <li>・感染症の主要な症候・検査法、ならびに臨床上重要な感染症の診断、治療、予後、特徴について概要を説明できる。</li> </ul>
履修条件	
授業計画	<p>1回 感染関連の専門用語、感染の成立と三要素、（主な病原体、病原性、常在微生物叢） 担当者：美田</p> <p>2回 感染経路、医療関連感染の予防策（標準、感染経路別）、感染性廃棄物、学校保健安全法、消毒・滅菌 担当者：美田</p>

	3回	消毒薬の分類、主な消毒薬の特徴、ス波尔ディングのリスク分類、免疫の概要（自然/獲得免疫） 担当者：美田
	4回	受動免疫（免疫グロブリン/抗体）、能動免疫（ワクチン）、予防接種の種類 担当者：美田
	5回	主な病原体①（真核生物：寄生虫、原虫、真菌）と主要な感染症 担当者：美田
	6回	主な病原体②（細菌<概要、分類、グラム染色、抗微生物薬・薬剤耐性菌>） 担当者：美田
	7回	主な病原体③（細菌<グラム陽性菌>）と主要な感染症 担当者：美田
	8回	主な病原体④（細菌<グラム陰性菌>）と主要な感染症 担当者：美田
	9回	主な病原体⑤（細菌<嫌気性菌、抗酸菌、スピロヘータ、非定型細菌>）と主要な感染症 担当者：美田
	10回	主な病原体⑥（ウイルスの分類、DNAウイルス）と主要な感染症 担当者：美田
	11回	主な病原体⑦（RNAウイルス、プリオン）と主要な感染症 担当者：美田
	12回	感染症の現状（新興感染症、性感染症、人獣感染症、輸入感染症）、感染症法、感染制御チーム 担当者：美田
	13回	感染症診療の概要（主要な症候、検査法、敗血症、治療薬の選択） 担当者：美田
	14回	まとめ 担当者：美田
成績評価の方法	試験90% 各回の小テスト10%	
教科書	『微生物学』医学書院	
参考書	適宜、提示する。	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所からキーワードを抽出し授業に臨むこと。また、授業後は内容のポイントを必ず復習し、キーワードなどは自筆して理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	各回授業後（～2限授業前まで）、声掛けしてください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	必修科目
担当教員			
末松 直也			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	<p>正常な人体の仕組みについて、健康の維持に欠かせない三大栄養素（糖質・脂肪・タンパク質）の消化と吸収、これに続く細胞内での物質変化（代謝）とその調節を分子レベルで学ぶ。人体は代謝で得たエネルギーを用いて恒常性を維持し、命を繋ぐ。ビタミンは代謝に必須であり、代謝の異常は疾病を来すことについて学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>1) タンパク質、糖質、脂質、核酸の構造・化学的特性と生理的意義を説明できる。</p> <p>2) 遺伝子からタンパク質を生成するしくみについて説明できる。</p> <p>3) 消化管における糖質、脂肪、タンパク質の消化と吸収について説明できる。</p> <p>4) 生命の維持に欠かせない、糖質、脂肪、アミノ酸のエネルギー代謝について説明できる。</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 【生化学の基礎】 生体分子の特性：分子の構造式、親水性／疎水性 担当者：末松 身体は多様な機能をもつ細胞で構成され、細胞は多様な特性をもつ分子で構成される。分子の基本的な特性は構造式中の官能基に着目すると判る。また、構造式中に極性部分に着目すると、分子の親水性／疎水性の傾向が判る。1コマ目は生体分子の構造式の見方を学ぶ。2コマ目以降の講義を理解する基礎となるので、心して取り組むこと。最初が肝心！</p> <p>2回 【生体を構成する重合体の構造と機能】 1. タンパク質：アミノ酸の重合体 担当者：末松</p>

3回	<p>生体には、単量体（わかりやすい例えとして数珠玉）が重合した重合体（わかりやすい例えとして直鎖の数珠）が3種類（タンパク質、核酸、多糖）ある。ヒトの生命はこれら分子の働きにより維持されており、その主役であるタンパク質は8万種類あるとされ、様々な機能を担う。</p> <p>2. 核酸（DNA/RNA）：ヌクレオチドの重合体</p> <p>担当者：末松</p> <p>生体を構成する重合体のうち、核酸にはDNAとRNAがある。DNAは遺伝子を担い、核内に格納されている。</p>
4回	<p>DNA から転写されるRNAは遺伝子の発現（遺伝情報を元にタンパク質を生成する）に欠かせない。</p> <p>3. 多糖：単糖の重合体</p> <p>担当者：末松</p> <p>生体を構成する重合体のうち、多糖にはグリコーゲン（グルコースの重合体）とグリコサミノグリカン（GAG；二糖の繰り返し構造）がある。グリコーゲンは貯蔵エネルギー源であり、グリコサミノグリカンは細胞外に複数種あり、各々様々な生理機能を担う。</p>
5回	<p>【三大栄養素の消化と吸収】 1. 糖質（炭水化物）の消化と吸収</p> <p>担当者：末松</p> <p>糖質、脂肪、タンパク質は三大栄養素と呼ばれ、いずれもエネルギー源としての重要な側面をもつ。糖質、脂肪は主要なエネルギー源であり、タンパク質は飢餓時のエネルギー源となる。経口摂取された重合体は、消化管内で消化酵素により消化されて単量体となってから、小腸から吸収される。一方、単量体は消化される必要が無く、そのまま小腸から吸収される。デンプン（多糖）は経口摂取される主要なエネルギー源であり、アミラーゼ（タンパク質）などの消化酵素によって加水分解され、グルコース（単糖）となって小腸から吸収される。</p>
6回	<p>2. 脂肪の消化と吸収</p> <p>担当者：末松</p> <p>脂肪も経口摂取される主要なエネルギー源であり、胆汁酸により乳化されてから、リパーゼ（タンパク質）により消化され、小腸から吸収される。</p>
7回	<p>3. タンパク質の消化と吸収</p> <p>担当者：末松</p> <p>タンパク質は経口摂取されると、胃酸により変性してから各種プロテアーゼ（タンパク質）により消化されてアミノ酸となり、小腸から吸収される。</p>
8回	<p>【リポタンパク質】 脂質の血中輸送</p> <p>担当者：末松</p> <p>身体に吸収された親水性分子は血中に溶けて輸送される。一方で、身体に吸収された疎水性分子である脂肪とコレステロールは血中に溶けないので、両親媒性分子で構築されたリポタンパク質の中に収納されて血中を輸送される。</p>
9回	<p>【エネルギー代謝】 1. 糖質の異化代謝：酵素・補酵素；グルコースの代謝</p> <p>担当者：末松</p> <p>細胞の生命は代謝（化学反応の総体）により維持されるが、細胞内の化学反応の進行には酵素（ほとんどの酵素はタンパク質）が必須で、酵素には補酵素を必要とするものもある。エネルギー代謝では、エネルギー源となる分子の異化代謝によりエネルギー通貨ATPを獲得するしくみに注目する。ATPは同化代謝（身体を構成する重合体などの分子の合成）や運動などの生命活動に必須である。全ての細胞のエネルギー源となるグルコース（ブドウ糖）の異化代謝（解糖系）を学ぶ。主に肝臓と筋肉でグルコースを重合して生成されるグリコーゲンは貯蔵エネルギー源である。</p>
10回	<p>2. 脂肪酸の異化代謝：β酸化、ケトン体の代謝</p> <p>担当者：末松</p> <p>脂肪を構成する脂肪酸は重要なエネルギー源で、β酸化されて、アセチルCoAと還元型補酵素NADHとFADH2を生じる。アセチルCoAはクエン酸回路で代謝されるが、過剰量のアセチルCoAは肝臓でケトン体生成に用いられる。</p>
11回	<p>3. クエン酸回路、呼吸鎖、酸化リン酸化</p> <p>担当者：末松</p> <p>細胞の主要なエネルギー源であるグルコースと脂肪酸の異化代謝は収束してアセチルCoAを生じる。このアセチル基はクエン酸回路で完全酸化されて、二酸化炭素2分子を生じると共に、エネルギー分子GTPと還元型補酵素NADHとFADH2を生じる。還元型補酵素NADHとFADH2は、呼吸鎖（電子伝達系）に電子を供給し、酸化リン酸化によりATPを獲得できる。</p>
12回	<p>4. アミノ酸の異化代謝：アミノ基転移と尿素回路</p> <p>担当者：末松</p> <p>アミノ酸のアミノ基はアミノ基転移反応により、グルタミン酸のアミノ基を経て、肝臓の尿素回路により尿素を生成し、腎臓で尿中に排泄される。アミノ酸からアミノ基を除いた炭素骨格はエネルギー源であり、異化代謝によりATPを獲得できる。</p>
13回	<p>【ポルフィリン代謝】 ビリルビンの代謝異常「黄疸」</p> <p>担当者：末松</p> <p>ヘモグロビンなどのヘムタンパク質を構成するヘムは、ポルフィリンに鉄イオンが結合した構造で、脾臓で代謝されて橙色のビリルビンを生じる。ビリルビンは肝臓で代謝されて胆汁中に排泄されるが、様々な要因でビリルビンが体内に蓄積すると「黄疸」となる。</p>
14回	<p>【代謝の異常】 「痛風」、「糖尿病」</p> <p>担当者：末松</p> <p>核酸を構成するプリン塩基は尿酸に代謝され、尿中に排泄される。尿酸が体内に蓄積し、尿酸ナトリウム塩の結晶となって析出すると「痛風」を発症する。また、インスリンの働きが低下して慢性的な高血糖症を呈する「糖尿病」では、脂肪酸のβ酸化が亢進し、タンパク質の分解が亢進して生じるアミノ酸からの糖新生が亢進するなど、代謝異常が引き起こされる。</p>
成績評価の方法	定期試験（中間・終了）：70%、小テスト（毎回）：30%
教科書	畠山 鎮次：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 [第14版] 第5刷, 医学書院, 2023.
参考書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 [2] 臨床生化学 第5版
事前・事後学修	この科目では復習・予習が欠かせない。教科書の各回テーマに該当する箇所事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の開始時に小テストで出題する復習課題・予習課題を提示する。成績の一部（30%）にもなる

	ので、勤勉に復習・予習に励むこと。
その他アドバイス	初回の1コマが2コマ目以降の基礎となります。講義内容は積み上げ方式なので、着実に理解して次の講義に備えて欲しい。「ゾウはミミズより大きい。」をゾウやミミズのイメージをもたずに暗唱しても意味の無いことは自明です。分子の学習では、分子の名称をイメージとセットで学びましょう。理解を伴わない暗記は応用できないので役に立ちません。限られた時間を、貴方自身のレベルアップに使っているかを常に意識しつつ学んで下さい。
オフィスアワー	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
信岡 祐彦			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	臨床検査は、診断の確定、重症度の判断、治療効果の判定など、臨床経過の様々な段階で重要な役割を果たす。チーム医療の一翼を担う看護師が個々の臨床検査の意味を知るだけでなく、対象から得た複数の検査結果から対象の訴えや身体所見と関連づけて病態を把握する必要性や臨床検査についての基礎知識について学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 臨床検査の意義と目的、基本的な考え方、臨床推論における位置づけについて説明できる。</p> <p>2) 検査の精度、検査値に影響する因子について説明できる。</p> <p>3) 検体検査の目的と適応、異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>4) 生体機能検査、超音波検査の目的、適応を説明できる。</p> <p>5) 各種臨床検査の結果を解釈し、看護ケアに結び付けることが出来る</p>
履修条件	
授業計画	<p>1回 臨床検査総論、検体の採取と保存 担当者：信岡</p> <p>2回 血液一般検査：血球計算、血球形態、血沈、凝固線溶系検査 担当者：信岡</p> <p>3回 生化学検査（1）：蛋白、逸脱酵素、電解質、鉄代謝 担当者：信岡</p>

	4回	生化学検査（2）：血清脂質、血糖、内分泌検査、腫瘍マーカー	担当者：信岡
	5回	免疫血清学検査、輸血関連検査、感染症検査	担当者：信岡
	6回	医化学検査：尿、便、穿刺	検査の精度 担当者：信岡
	7回	生理機能検査：呼吸機能検査、循環機能検査	画像検査：超音波検査 担当者：信岡
成績評価の方法	定期試験：90%、授業態度(出席状況を含む)：10%		
教科書	(ナーシンググラフィカ) 病態生理学 (疾病の成り立ちと回復の促進)		
参考書			
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
林田 丞太			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>■Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/>2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/>5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	看護職を規定する法律、保健、医療、社会保障制度に関連した法律と制度の基礎知識について学びます。また、看護職として地域住民の健康な生活を支えるための制度、地域資源とその活用方法について理解を深めます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民、市民の生活を守るための制度を挙げて、説明できる</li> <li>2. 医療関係法規の概要を説明することができる</li> <li>3. わが国の社会保障制度の仕組みを説明できる</li> <li>4. 法的側面からみた医療安全を説明できる</li> </ol>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 保健医療福祉行政論を学ぶ意義と法の基礎 担当者：林田</p> <p>2回 医療専門職に関する法律（保健師助産師看護師法、人材確保法、医師法、薬剤師法） 担当者：林田</p> <p>3回 医療に関する法律（医療法、臓器移植法） 担当者：林田</p>

	4回	公衆衛生に関する法律1（地域保健法、健康増進法、学校保健安全法）担当者：林田
	5回	公衆衛生に関する法律2（感染症法、予防接種法、母子保健法、母体保護法）担当者：林田
	6回	薬事に関する法律（医薬品医療機器等法、麻薬・向精神薬取締法）担当者：林田
	7回	労働に関する法律（育児介護休業法、男女雇用機会均等法、労働基準法、労働安全衛生法）担当者：林田
	8回	その他の医療関連法規（食品衛生法、食品安全基本法、がん対策基本法、自殺対策基本法、成年後見制度ほか）担当者：林田
	9回	社会保障とは（生活保護法、生活困窮者自立支援法、子供貧困対策推進法ほか）担当者：林田
	10回	社会保険に関する法律1（医療保険制度、年金保険制度）担当者：林田
	11回	社会保険に関する法律2（介護保険制度、雇用保険制度、労災保険制度）担当者：林田
	12回	障害者福祉に関する法律（障害者基本法、身体障害・知的障害・精神障害・発達障害関連法規）担当者：林田
	13回	児童及び高齢者福祉に関する法律（児童福祉法、児童虐待防止法、老人福祉法、高齢者虐待防止法）担当者：林田
	14回	医療安全に関わる法的責任（民事上、刑事上、行政上、廃棄物処理法）担当者：林田
成績評価の方法	試験100%、授業への参加度（講義中に出す質問への回答、意見の発表）を加点する場合があります。	
教科書	（デジタル・ナーシンググラフィカ）看護をめぐる法と法制度/メディカ出版/2024 （デジタル・ナーシンググラフィカ）社会福祉と社会保障/メディカ出版/2023	
参考書	配布プリント	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、疑問点をもって授業に臨んでください。授業後は配布プリントを用いて復習し、理解を深めてください。試験直前だけでなく、こつこつ学修が効果的です。	
その他アドバイス	法律や社会保障制度は社会の要請により改正、変化します。そこで、ニュースを視聴する習慣をつけることで本講座の内容が無理なく身に付きます。また、これを続けることで国試対策にもなります。	
オフィスアワー	講義終了後に声をかけてください。また、いつでもメールで質問、相談してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
荒木田 美香子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	公衆衛生の理念と目的、健康の決定要因、ヘルスプロモーションの概念、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学ぶ。公衆衛生の歴史を振り返りながら、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、学校保健、環境保健などの諸問題から環境と生活の健康を考え、衛生的な環境づくりについて、公衆衛生活動の様々な実践活動を通して理解する。また川崎市の保健・医療に関するデータを活用し、全国・神奈川県とのデータと比較することを通して、統計情報の理解と公衆衛生活動への活用について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人口動態指標、人口静態指標について説明できる</li> <li>2) 健康と環境との関係について説明ができる</li> <li>3) 健康の指標となる調査をあげて、その結果の概要について説明できる</li> <li>4) 母子保健、成人保健、高齢者保健等の制度や日本人にとっての課題を説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 公衆衛生の概念（ヘルスプロモーション、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ） 担当者：荒木田</p> <p>2回 疫学的方法に基づく公衆衛生 担当者：荒木田</p> <p>3回 健康に関する指標と公衆衛生（人口静態） 担当者：荒木田</p>

	4回	健康に関する指標と公衆衛生（人口動態 担当者：荒木田
	5回	健康に関する調査と公衆衛生（行動、生活、医療費等に関する調査） 担当者：荒木田
	6回	感染症の基本（感染症法、感染症の成立要件、感染症の予防、予防接種） 担当者：荒木田
	7回	環境保健、食品の安全 担当者：荒木田
	8回	地域保健、社会保障 担当者：荒木田
	9回	母子保健 担当者：荒木田
	10回	学校保健 担当者：荒木田
	11回	成人保健、職域保健、生活習慣病 担当者：荒木田
	12回	高齢者保健 担当者：荒木田
	13回	がん対策 担当者：荒木田
	14回	難病対策、精神保健 担当者：荒木田
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%	
教科書	「公衆衛生」（ナーシング・グラフィカ メディカ出版）「国民衛生の動向」（(財)厚生労働統計協会）	
参考書	「公衆衛生がみえる」（メディックメディア）	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回のテーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	選択科目
担当教員			
難波 貴代、佐藤 文			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	高齢者や在宅医療を必要とする人が地域包括ケアシステムの中でその人らしく生活するために必要な医療、保健、介護、社会福祉の基礎的な概念及び国の政策や制度について学ぶ。さらに、具体的な支援の方法や実際の活動について、川崎市の事例を通して学ぶ。
授業の到達目標	”1) 歴史的背景を踏まえて在宅医療の制度の成り立ちを説明できる 2) 在宅医療の制度、現状、課題を説明できる 3) 国の制度と川崎市の制度を対比して説明ができる 4) 訪問医療の最前線で行われている事柄の説明ができる。また、その課題も考えることができる”
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 在宅医療推進に向けた現状と課題 在宅医療推進に向けた現状と課題</p> <p>2回 在宅医療推進に向けた国の取り組み 在宅医療推進に向けた国の取り組み</p> <p>3回 在宅医療における多職種連携 在宅医療における多職種連携の在り方</p>

	<p>4回 川崎市の在宅医療への取組と課題 川崎市の在宅医療への取り組みと課題（地域包括ケア推進室）</p> <p>5回 川崎市における在宅医療の取組 地域みまもり支援センターにおける在宅医療の取り組み（幸区役所地域みまもり支援センター）</p> <p>6回 在宅医療の最前線① 医師の立場から（川崎市医師会）</p> <p>7回 在宅医療の最前線② 看護の立場から（川崎市看護協会）</p>
成績評価の方法	課題レポート100%
教科書	「地域療養を支えるケア」（ナーシング・グラフィカ メディカ出版）
参考書	「在宅医療カレッジ:地域共生社会を支える多職種の学び21講」（医学書院）
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	選択科目
担当教員			
松田 有子			
15時間 (7回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	日常的な院内の救急医療に加えて、救急隊員による病院前救護体制の質の担保（メディカルコントロール）、院外救急体制（ドクターカー、ドクターヘリ）や急性期災害医療についての実例を学ぶ。さらに川崎市の消防署等における救急隊の具体的な活動や市民が心得ておくべきことを指導できるようにBLS（一次救命処置）の指導方法についても体験的に学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 救急医療システムについて説明できる</li> <li>2) 一般市民が行える応急処置とBLS（一次救命処置）について説明できる</li> <li>3) 救急救命士の役割を説明できる</li> <li>4) 救急医学、集中治療医学の内容を説明できる</li> <li>5) 現在の救急医療体制の問題点を指摘できる</li> </ol>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 わが国の救急医療発展の歴史と現在の救急医療体制 担当者：田熊(川崎病院)</p> <p>2回 一般市民が行える心肺蘇生法 担当者：松田、中島</p> <p>3回 救急医療の最前線－救急隊員・救急救命士の活動 担当者：田熊(川崎病院)</p> <p>4回 救急医療の最前線－救命救急センター 担当者：田熊(川崎病院)</p>

	5回	ドクター・ヘリの実際	担当者：井上(日医大武蔵小杉病院)
	6回	心不全や呼吸不全など、生命危機に陥った重症患者に対する治療・ICU	担当者：田熊(川崎病院)
	7回	DMAT (災害医療派遣チーム) の活動	担当者：鈴木(井田病院)
成績評価の方法	課題60%、授業への参画・貢献度20%、ミニレポート20%		
教科書	特に定めない		
参考書	適宜、提示する		
事前・事後学修	事前に提示された参考書を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー	授業終了後		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
松浦 正明			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	<p>根拠に基づく看護を提供するための基礎となる疫学と保健統計について学び、基本的なテクニカルワードの意味を理解し、疫学・保健統計の基本を学ぶ。 川崎市のデータや保健統計を活用し、疫学と保健統計が身近な生活と関係していることについて理解する。 実際に統計ソフトや例題を考えることを通して、疫学調査・分析・活用方法について基礎的な知識や個人・集団の健康問題を量的に把握し分析する方法を通して学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰無仮説と統計的有意性について説明できる</li> <li>・疫学と保健統計を理解する上での基本的な用語を説明できる</li> <li>・国と比較して、川崎市の基本的な保健統計について特徴をあげることができる</li> <li>・疫学調査の方法とバイアスを調整する方法を説明できる</li> </ul>
履修条件	特に定めない
授業計画	<p>1回 疫学の概念・集団の健康状態の把握（比、割合、率、相対危険度、寄与危険度） 担当者：松浦</p> <p>2回 疫学的研究方法1（疫学倫理、集団の設定、曝露と危険因子、研究デザイン） 担当者：松浦</p> <p>3回 疫学的研究方法2（誤差、偏り、交絡） 担当者：松浦</p>

	4回	疫学的研究方法3（因果関係の立証、アウトブレイク）	担当者：松浦
	5回	予防とスクリーニング、疾病登録	担当者：松浦
	6回	主な疾病の疫学（母子保健、各種疾患の疫学、事故・学校・産業保健・環境の疫学）	担当者：松浦
	7回	疫学と公衆衛生看護（社会疫学、政策疫学、臨床疫学）	担当者：松浦
	8回	保健統計学の基礎1（データの種類と分布、相関と回帰、クロス集計）	担当者：松浦
	9回	保健統計学の基礎2（点推定と区間推定、検定と統計学的有意性、 $\chi^2$ 検定、t検定）	担当者：松浦
	10回	保健統計学の基礎3（相関の検定、回帰分析、多変量解析）	担当者：松浦
	11回	人口統計の基礎（人口静態統計、人口動態統計、生命表）	担当者：松浦
	12回	保健統計調査（基幹統計、その他の統計調査、医療経済統計、疾病・障害の定義と分類）	担当者：松浦
	13回	保健医療情報と法令・指針	担当者：松浦
	14回	身近な疫学データ・保健統計	担当者：松浦
成績評価の方法	複数レポート課題 計100%（15回目の講義はレポートの最終回収と、講義全体のまとめの講義を行う）		
教科書	疫学・保健統計（医学書院）		
参考書	国民衛生の動向		
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス			
オフィスアワー			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年生	2	必修科目
担当教員			
荒木田 美香子、糸井 裕子、豊増 佳子、難波 貴代			
30時間 (14回)			
添付ファイル			
看護学原論2023シラバス.xlsx			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	<p>「看護」、「看護学」とは何かという問いに始まり、看護の定義や役割・機能、看護理論などの看護実践における基盤となる概念について学ぶ。また看護の教育や専門性、医療における職業倫理や患者安全、看護職が多職種と連携する意義等についても学ぶ。自分なりに看護を言語化するとともに、今後、看護を学ぶためのヒト・環境との相互作用についても理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>1) 看護について、看護活動の場・本質、看護の構造、看護の歴史など幅広い視点で捉え、看護の基本について理解する</p> <p>2) 看護理論家や看護の職能団体による看護の定義などから「看護とは本質的に何なのか」について考え、説明することができる</p> <p>3) 健康の定義、人間にとっての健康の意味や諸側面について理解し、個人や社会の健康を守るうえでの看護の役割について説明することができる</p> <p>4) 看護の対象について理解するとともに、その看護活動が持つ機能や意義について説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 ガイダンス・看護とは 担当者：荒木田、糸井</p> <p>2回 看護の歴史の変遷 担当者：荒木田、糸井</p> <p>3回 看護活動の本質と目標 担当者：荒木田、糸井</p>

	4回	看護の対象理解1：コミュニケーション 担当者：豊増
	5回	看護の対象理解2：身体的、精神的、社会的反応 担当者：豊増
	6回	看護の対象とライフサイクル 担当者：豊増
	7回	健康と生活 担当者：荒木田
	8回	看護活動が持つ機能 担当者：荒木田、糸井
	9回	看護理論概説 担当者：荒木田、糸井
	10回	保健医療と国際協力 担当者：難波
	11回	Evidence Based Nursing Practices 担当者：荒木田、糸井
	12回	看護職の役割と可能性 担当者：豊増
	13回	キャリアデザイン 担当者：豊増
	14回	看護学原論まとめ 担当者：荒木田、豊増
成績評価の方法	レポート30%、課題10%、試験60%	
教科書	「看護学概論」(ナーシング・グラフィカ メディカ出版)	
参考書	「看護覚え書—看護であること看護でないこと」(現代社)「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)「看護学原論—看護の本質的理解と創造性を育むために」(南江堂)	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	1年生	1	必修科目
担当教員			
岩屋 裕美、岡田 忍、掛田 崇寛、豊増 佳子、青木 恵美子、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	看護の対象となる者を生活者の視点で捉えながら、必要とされるニーズに即した看護の提供について学ぶ。また、生活行動の援助技術の概念・援助の基本的な方法を理解し、看護実践に必要な基本的な技術を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活を送る上で支援を必要とする対象者への基本的な支援と技術について説明できる</li> <li>2) 療養者の日常生活を援助する看護技術に関してアセスメントの必要性を理解し、その原理・原則や留意点について説明できる</li> <li>3) 安全・安楽・自立を考慮した援助方法、看護職者としての態度及び姿勢について説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 療養環境調整講義 担当者：岩屋</p> <p>2回 安全・感染予防講義（スタンダードプリコーションを含む） 担当者：岡田</p> <p>3回 感染予防演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、松田、田中、西坂</p> <p>4回 療養環境調整演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂</p> <p>5回 活動と休息講義 担当者：岩屋</p>

	6回	活動と休息講義 担当者：岩屋
	7回	ポジショニング及び体位変換演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	8回	移乗・移送演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	9回	療養環境調整・移動介助演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	10回	療養環境調整・移動介助演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	11回	生命維持反応及びモニタリングの講義 担当者：掛田、岩屋
	12回	バイタルサイン測定演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	13回	総合実技演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
	14回	総合実技演習 担当者：岩屋、掛田、豊増、青木、松田、田中、西坂
成績評価の方法	試験60%、実技試験25%、課題15%	
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 (メディカ出版)	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術がみえる① 基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)</li> <li>・ベッドまわりの環境学 (川口孝泰)</li> <li>・看護覚え書—看護であること看護でないこと (現代社)</li> </ul> その他、適宜紹介します	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
青木 恵美子、掛田 崇寛、豊増 佳子、岩屋 裕美、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
60時間（28回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>シミュレーター及びモデル人形演習</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	食事、排泄、身体の清潔等の基本的な生活支援のための知識及び技術の演習を通して、様々な健康レベルの状況にある対象者の安全で、且つ安楽な療養生活を支援するための基本的技術を学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 安全及び安楽を基盤に、対象者の自立及び個別性を考慮した援助方法について説明できる</p> <p>2) 食事、排泄、身体の清潔における日常生活支援を必要とする対象者への基本的な知識及び技術について説明できる</p> <p>3) セルフケア能力が低下した療養者に対して実際に援助適応するための方法を学び、看護者としての姿勢及び態度を身につける</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 看護職者の感染予防対策 担当者：掛田</p> <p>2回 衛生的な手洗い復習及び滅菌手袋装着演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋</p> <p>3回 ガウンテクニック演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋</p> <p>4回 移動及び移送の講義 担当者：岩屋</p>

	5回	歩行支援及び車椅子演習 担当者：豊増、青木、岩屋
	6回	ストレッチャー演習 担当者：豊増、青木、岩屋
	7回	安楽の講義 担当者：岩屋
	8回	安楽演習（体圧分散・Cooling） 担当者：豊増、青木、岩屋
	9回	リラクゼーション演習 担当者：豊増、青木、岩屋
	10回	食生活の講義 担当者：青木
	11回	食事介助・口腔ケア演習 担当者：豊増、青木、岩屋
	12回	経鼻経管栄養法演習 担当者：豊増
	13回	清潔の講義Ⅰ 担当者：豊増
	14回	清潔の講義Ⅱ 担当者：豊増
	15回	清拭演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	16回	洗髪演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	17回	部分浴演習（足浴） 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	18回	部分浴演習（手浴） 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	19回	排泄の講義Ⅰ 担当者：岩屋
	20回	排泄の講義Ⅱ 担当者：岩屋
	21回	排尿介助・陰部洗浄演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	22回	オムツ交換・排便介助（浣腸）演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	23回	間歇的導尿演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	24回	持続的導尿演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	25回	総合実技演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	26回	総合実技演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	27回	総括演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
	28回	基礎看護学技術Ⅱまとめ 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋
成績評価の方法	試験60%、実技試験25%、課題15%	
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術（メディカ出版）	
参考書	看護がみえるvol.1 基礎看護技術（MEDIC MEDIA） 看護がみえるvol.2 臨床看護技術（MEDIC MEDIA） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版（医歯薬出版） 一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 編：新版 排泄ケアガイドブック（照林社）	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。演習前には、必ずナーシングスキルや授業内容を復習し、習得技術について学習を深めてから演習に臨むこと。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	1	必修科目
担当教員			
豊増 佳子、掛田 崇寛、青木 恵美子、岩屋 裕美、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>シミュレーター及びモデル人形演習</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	看護の対象が安全・安楽に受療可能なように診療の補助に関する基本的な援助技術について学ぶ。演習では主に医師が行う診療介助に関する知識や技術、対象者への診療時の看護について学ぶとともに、当該技術のエビデンスや原理・原則を理解する。
授業の到達目標	1) 診療の補助に関する看護実践における専門的知識及び技術を身につける 2) 侵襲を伴う処置や援助技術に関しては予め対象者の安全と安楽が担保されるように、それぞれの援助技術の目的や意義、危険回避やその方法について説明できる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 診療の補助行為に対する看護の講義（医療事故予防を含む） 担当者：掛田</p> <p>2回 呼吸を整える援助技術 担当者：掛田</p> <p>3回 酸素療法演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋</p> <p>4回 口腔内吸引演習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋</p> <p>5回 検査に関する講義Ⅰ 担当者：豊増</p>

	6回	検査に関する講義Ⅱ 担当者：豊増、青木
	7回	採血及び検体採取演習 担当者：青木、岩屋、豊増、掛田
	8回	与薬に関する講義 担当者：岩屋、青木、豊増、掛田
	9回	与薬調剤演習 担当者：岩屋、青木、豊増、掛田
	10回	点滴静脈内注入療法演習 担当者：岩屋、青木、豊増、掛田
	11回	輸血療法に関する講義 担当者：岩屋
	12回	入院時の看護とエンゼルケア技術に関する講義 担当者：青木
	13回	総合演習 担当者：豊増、青木、岩屋、掛田
	14回	基礎看護学技術Ⅲまとめ 担当者：豊増、青木、岩屋、掛田
成績評価の方法	試験70%、課題30%	
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 (メディカ出版)	
参考書	<p>推薦書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠と事故防止からみた基礎・臨床 看護技術 医学書院 任和子、井川順子編集</li> <li>○医療情報科学研究所編集、看護がみえる vol.1 基礎看護技術、メディックメディア</li> <li>○医療情報科学研究所編集、看護がみえる vol.2 臨床看護技術、メディックメディア</li> <li>・学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版 医歯薬出版 村中 陽、玉木 ミヨ子、川西 千恵美</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学③ 医学書院 有田清子</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 任和子</li> </ul> <p>ほか適宜紹介する</p>	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読して授業に臨むこと。演習は、技術の動画も視聴しながら、技術ノートなどを作成して授業に臨むこと。授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	授業スケジュール表や課題提出期限や提出方法をよく確認して、確実に対応すること	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

講義科目名称： 基礎看護学技術Ⅳ（フィジカルアセスメント） 授業コード： E05100A

英文科目名称： Fundamental Nursing SkillsⅣ(Physical Assessment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
豊増 佳子、掛田 崇寛、岩屋 裕美、青木 恵美子、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
60時間（28回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>系統的アセスメント演習・シュミレーション演習（人形モデル、模擬的な患者モデルの活用）</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	フィジカルアセスメントは、看護職が身に付けるべき重要な能力である。健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に身体計測する意義やフィジカル・アセスメントの概念、フィジカル・イグザミネーションの方法等、看護実践に必要な基本的な技術を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人体の構造や機能に基づいたフィジカルアセスメントの技法及びその重要性を説明できる</li> <li>2) 臨地での看護実践を行うために必要なヘルスアセスメントの思考と根拠が説明できる</li> <li>3) 対象者の健康状態を系統的にとらえ適切な援助方法を決定するために必要なアセスメント技術を身につける</li> <li>4) フィジカル・イグザミネーション及びアセスメント技法を用いて、状況設定事例における健康上の課題に対して基礎的な問題解決法を展開できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回           ヘルスアセスメントの意義と看護の役割   担当者：掛田、豊増</p> <p>2回           フィジカルアセスメントとは   担当者：掛田</p> <p>3回           対象者の状態把握のための意識レベル判定、生命維持反応の観察   担当者：掛田、岩屋</p> <p>4回           バイタルサインの測定演習（模擬患者の活用）   担当者：岩屋、豊増</p>

	5回	シミュレーション事例演習（正常反応の把握） 担当者：岩屋
	6回	呼吸系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	7回	呼吸系のフィジカルアセスメント演習（基礎編） 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	8回	呼吸系のフィジカルアセスメント演習（実践編） 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	9回	循環器系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：岩屋
	10回	循環系のフィジカルアセスメント演習（基礎編） 担当者：岩屋、豊増、青木、田中
	11回	循環系のフィジカルアセスメント演習（実践編） 担当者：岩屋、豊増、青木、田中
	12回	胸部の系統的アセスメント演習 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	13回	胸部の系統的アセスメント演習（応用編） 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	14回	消化器系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：青木、田中、豊増
	15回	腎/泌尿器系、生殖器系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：田中、青木、豊増
	16回	消化器系のフィジカルアセスメント演習 担当者：青木、田中、豊増、岩屋
	17回	腎/泌尿器系、生殖器系のフィジカルアセスメント演習 担当者：青木、田中、豊増、岩屋
	18回	腹部（消化器系・腎/泌尿器系、生殖器系）の系統的アセスメント演習 担当者：青木、田中、豊増、岩屋
	19回	腹部（消化器系・腎/泌尿器系、生殖器系）の系統的アセスメント演習（応用編） 担当者：青木、田中、豊増、岩屋
	20回	シミュレーション事例（胸部/腹部）演習 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	21回	中枢神経系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：岩屋
	22回	感覚系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：豊増
	23回	運動系のフィジカルアセスメントの講義 担当者：豊増
	24回	中枢神経系・感覚系のフィジカルアセスメントの演習 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	25回	運動系のフィジカルアセスメントの演習 担当者：豊増、岩屋、青木、田中
	26回	フィジカルアセスメント総合演習1 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中
	27回	フィジカルアセスメント総合演習2 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中
	28回	フィジカルアセスメントまとめ 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中
成績評価の方法	課題・技術確認40%、定期試験60%	
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術（メディカ出版） 熊谷たまき他監修：看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント（メディックメディア）	
参考書	山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院） 山内豊明：フィジカルアセスメントワークブック（医学書院） 山内豊明：症状・徴候別アセスメントと看護ケア（医学芸社）	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
掛田 崇寛、豊増 佳子、岩屋 裕美、青木 恵美子、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	看護過程とは、科学的な問題解決法を用いた思考過程であり、看護の実践そのものである。本科目では、対象者の看護を実践するために必要な看護過程に関する知識と、臨地で看護展開するための方法について学ぶ。本科目では紙面患者（事例）を通して、アセスメントから問題点の抽出、計画、実施、評価の一連のプロセスの意義とその方法を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護過程の展開に必要な基礎的知識を身につける。</li> <li>2) 紙面患者を用いた情報等を関連付けながら、事例アセスメントを行うことができる。</li> <li>3) アセスメントによって明確にされた健康上の問題に対し、個別性を踏まえながら看護計画を立案することができる。</li> <li>4) グループにおける展開演習を通じて、多様な思考についても理解するとともに、クリティカルシンキングの重要性を説明できる。</li> <li>5) 事例展開の演習を通じて、刻々と変化する紙面患者に応じた計画立案及び援助の修正を行うことができる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 看護過程の概要 担当者：田中（掛田）</p> <p>2回 情報管理と看護記録 担当者：豊増</p> <p>3回 健康上の問題を明確化するためのアセスメント 担当者：田中（掛田）</p>

	4回	看護診断について	担当者：田中（掛田）
	5回	中範囲理論の活用について	担当者：掛田
	6回	関連図と統合について	担当者：豊増
	7回	看護計画の立案と問題評価、看護要約について	担当者：青木
	8回	紙面事例展開-情報分類	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	9回	紙面事例展開-事例アセスメント	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	10回	紙面事例展開-関連図の作成	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	11回	紙面事例展開-健康上の問題の統合と看護診断	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	12回	紙面事例展開-看護計画の立案	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	13回	紙面事例展開-追加情報に対する実施記録と評価	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
	14回	紙面事例展開-看護事例の要約、講義まとめ	担当者：田中、掛田、豊増、青木、岩屋、松田、西坂
成績評価の方法	事前課題/事例展開課題60%、筆記試験40%		
教科書	看護がみえるvol.4 看護過程の展開 医療情報科学研究所（メディックメディア） NANDA-I 看護診断 定義と分類（原書第13版）T.ヘザー・ハードマン、他（医学書院）		
参考書	基本から学ぶ看護過程と看護診断. 第7版:ロザリンド・アルファロ・ルフィーヴァ著, 訳:本郷久美子（医学書院） わかる！検査値とケアのポイント. 編集:大久保昭行/井上智子（医学書院）		
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス	紙面演習に関しては毎回課題を提示しますので、各自で行った上で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	1年生	1	必修科目
担当教員			
廣川 聖子、岩屋 裕美			
15時間 (7回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) 模擬患者の活用</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解し、信頼関係の形成、人間関係の構築において必要となるコミュニケーションの仕組みと、基本的な方法について、ロールプレイやプロセスレコードに関する演習などを入れながら、自身のコミュニケーションパターンについても学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 振り返りも含めて、ロールプレイを展開できる</li> <li>2) アサーティブなコミュニケーションについて説明できる</li> <li>3) 患者や家族とのコミュニケーションで留意すべきことを説明できる</li> <li>4) プロセスレコードの意義、目的、方法を理解し、プロセスレコードを作成することができる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 看護におけるコミュニケーション 担当者：廣川</p> <p>2回 人をより深く知るためのコミュニケーション 担当者：岩屋</p> <p>3回 プロセスレコードの考え方 担当者：廣川、岩屋</p> <p>4回 プロセスレコードの実際（模擬患者の活用） 担当者：廣川、岩屋</p>

	5回	プロセスレコードの実際（模擬患者の活用） 担当者：廣川、岩屋 プロセスレコードの振り返り
	6回	コミュニケーションのタイプ（バーバル、ノンバーバル等）、積極的傾聴と共感 担当者：廣川、岩屋
	7回	アサーティブなコミュニケーション 担当者：廣川、岩屋
成績評価の方法	最終レポート50%、プロセスレコード30%、グループワークへの参画態度20%	
教科書	デジタルナースンググラフィカ 看護学概論（18巻）、デジタルナースンググラフィカ 基礎看護技術（20巻）	
参考書	「看護がみえる vol.2 臨床看護技術」（メディックメディア）	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期前半	1年生	1	必修科目
担当教員			
山崎 由美子、嵐 弘美、吉田 みつ子			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) 模擬シンポジウム</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	社会のグローバル化、高齢化社会と疾病構造の変容、従来の価値観の変化などを背景に医療現場では様々な倫理的問題が出現してきている。看護の基盤となる人々の基本的人権を理解し擁護する必要性を認識でき、看護職としての倫理観を持ち法令を遵守して行動できるよう、看護倫理の概念、理論、歴史、倫理綱領などから基礎的な知識を学ぶ。
授業の到達目標	1) 生命倫理の原則、看護職の倫理について説明できる 2) 患者の人権を守るための倫理的方法について説明できる 3) 現代の保健医療における倫理的課題を取り上げ、自分の考えを述べるができる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 道徳と倫理 担当者：山崎</p> <p>2回 看護師と倫理規定、保健師助産師看護師法と倫理的責務 担当者：吉田</p> <p>3回 倫理原則および看護実践上重要な倫理的概念、倫理的問題を検討するための方法論 担当者：吉田</p> <p>4回 患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持 担当者：嵐</p>

	5回	現代医療における倫理的課題：出生前診断、遺伝子治療、妊娠中絶、男女産み分け、代理出産 担当者：山崎
	6回	現代医療における倫理的課題：看護師が精神科医療の現場で経験する倫理的課題 担当者：嵐
	7回	模擬シンポジウム：倫理に関するテーマを決めて、川崎市の保健医療職の参加を得て実施する 担当者：山崎
成績評価の方法	試験60%、グループワークへの参画態度10%、ミニレポート30%	
教科書	「看護倫理—よい看護・よい看護師への道しるべ」（南江堂）	
参考書	適宜、提示する。	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修科目
担当教員			
難波 貴代、木全 真理、窪島 領子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	生活の場としての地域・社会の意味を考え、住み慣れた地域で生活する人々とその家族を理解し、地域包括ケアシステムについての基礎及び看護展開の基礎を学ぶ。本授業は1回から8回までは授業の概要に沿ったテーマについて話題提供および講義を行う。9回から14回は国・県・市のレベルにおける地域包括ケアシステムのあり方について講義を実施した後、川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービスの連動について学生がグループに分かれ、今後の日本社会を見据えた観点から、住み慣れた地域でどのような地域包括ケアシステムであればよいのか討議し、その結果をプレゼンテーションする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護の対象、機能、役割について説明できる</li> <li>2) 在宅ケアにおけるケアマネジメントの意義と方法について説明できる</li> <li>3) 国の地域包括ケアシステムと川崎市の地域包括ケアシステムの相違点について説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 在宅看護の位置づけ、機能と役割、定義と目的 担当者：難波</p> <p>2回 在宅看護の倫理と基本理念 担当者：難波</p> <p>3回 在宅ケアと在宅看護および訪問看護 担当者：難波</p> <p>4回 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 担当者：難波</p>

	5回	在宅療養者と家族 担当者：難波
	6回	訪問看護の特徴 担当者：難波
	7回	在宅ケアとケアマネジメント 担当者：難波
	8回	地域包括ケアシステムにおける在宅でのネットワーク 担当者：木全
	9回	川崎市における地域包括ケアシステム（介護、予防、住まい、医療、生活支援） 担当者：木全
	10回	川崎市の社会資源活用と在宅看護にかかわる保険制度 担当者：木全
	11回	川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス（高齢者） 担当者：木全
	12回	川崎市の地域包括ケアシステムと地区ごとの居宅サービス（GW高齢者） 担当者：木全
	13回	川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス（障害者） 担当者：木全
	14回	今後の在宅看護の展望 担当者：難波
成績評価の方法	試験90%、課題10%	
教科書	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論（メディカ出版）	
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）	
事前・事後学修	事前に資料などを配布するため授業までに熟読し、質問事項を考えておくこと。また授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	在宅医療などは日ごろから新聞やテレビなどで取り上げられることが多いため、社会情勢に関心をもってもらいたい。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
難波 貴代、木全 真理、窪島 領子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>シミュレーターを用いた演習</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	地域で生活する療養者と家族に対して対象の看護展開方法を学ぶ。地域の特性と健康課題のアセスメント方法、健康な生活を支援する方法を理解する。また地域での終末期看護を含めて学ぶ。本授業は1回から14回までは授業の概要に沿ったテーマについて講義と学生参加型の授業とし、川崎市の地域特性を踏まえながら、在宅看護について具体的な事例を用いて展開する。援助技術は、シミュレーターを用いて学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅で生活する疾病や障害をもつ人とその家族に対して、在宅看護を展開するための方法を説明できる</li> <li>2) 在宅療養者とその家族に対して提供される生活の場における看護の実際や医療処置に伴う援助技術を身につける</li> <li>3) 疾患や障害をもちながら療養している在宅療養者と家族に対する看護の実際を説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回      オリエンテーション・訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所 訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所</p> <p>2回      訪問看護の概要① 訪問看護の概要①：記録物など（報告書、計画書、訪問看護指示書）</p> <p>3回      在宅における生活援助技術① 在宅における生活援助技術①：食の援助①（嚥下評価など）</p>

	4回	在宅における生活援助技術② 在宅における生活援助技術②：食の援助②（在宅経管栄養）
	5回	在宅における生活援助技術③ 在宅における生活援助技術③：清潔の援助（在宅における清潔のアセスメントと援助技術）
	6回	在宅における生活援助技術④ 在宅における生活援助技術④：移動および移乗の援助（アセスメントと援助技術）
	7回	在宅における生活援助技術⑤ 在宅における生活援助技術⑤：排泄の援助①（排泄のアセスメントと援助技術）
	8回	在宅における生活援助技術⑥ 在宅における生活援助技術⑥：排泄の援助②（オムツ交換、摘便などの援助技術）
	9回	在宅における生活援助技術⑦ 在宅における生活援助技術⑦：呼吸の援助①（アセスメント（呼吸音と聴診を含む）と援助技術）
	10回	在宅における生活援助技術⑧ 在宅における生活援助技術⑧：呼吸の援助②（在宅酸素療法）
	11回	在宅における生活援助技術⑨ 在宅における生活援助技術⑨：呼吸の援助③（在宅人工呼吸療法）
	12回	在宅における生活援助技術⑩ 在宅における生活援助技術⑩：ターミナル期の援助①（がん患者）
	13回	在宅における生活援助技術⑪ 在宅における生活援助技術⑪：ターミナル期の援助②（慢性閉塞性肺疾患）
	14回	ざいたくにおける生活援助技術⑫ 在宅における生活援助技術⑫：ターミナル期の援助③（家族へのグリーフケア）
成績評価の方法	試験90%、課題10%	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論」（メディカ出版）	
参考書	「根拠がわかる在宅看護技術」（メディカルフレンド）、「写真でわかる訪問看護」（インターメディカ）	
事前・事後学修	次回の学修に関して、事前に資料などを配布するので、授業までに読んで、質問事項を考えておくこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	日ごろから技術習得に向け努力をしてください	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
難波 貴代、木全 真理、窪島 領子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>状況を設定したシミュレーション</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	<p>住み慣れた地域で暮らしを続けるための看護を実践するために、地域社会の文化・習慣が個人や家族に及ぼす影響についてアセスメントし、地域包括ケアシステムの観点から、在宅における医療管理・生活支援について学ぶ(在宅看護におけるフィジカル・アセスメント、看護過程の演習含む)。本授業は訪問看護の展開を講義回数テーマに沿って演習を行い、シミュレーション教育を12回から14回に実施することにより、経験的な学修サイクルを連続させ、経験で得られた知識を深めていく。</p>
授業の到達目標	<p>“1) 事例とその家族への支援方法について看護展開により説明できる 2) 演習を通して対象に応じた援助方法について、健康レベル、家族関係、社会資源活用などの包括的面的からのアセスメント、援助方法について説明できる 3) シミュレーションにおいて、対象に応じた在宅における基本的な援助技術を実施できる”</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 訪問看護の展開① 訪問看護の展開①：国際生活機能分類(ICF)を学ぶ</p> <p>2回 訪問看護の展開② 訪問看護の展開②：事例で使用された訪問看護ステーションの記録物、事例の居宅介護支援計画書、居宅介護支援経過他など</p>

	3回	訪問看護の展開③ 訪問看護の展開③：事例の理解
	4回	訪問看護の展開④ 訪問看護の展開④：事例の基礎情報をICFに基づき情報分類
	5回	訪問看護の展開⑤ 訪問看護の展開⑤：訪問看護記録などの記録物からA事例のフェイスシート作成
	6回	訪問看護の展開⑥ 訪問看護の展開⑥：事例のイメージ図作成
	7回	訪問看護の展開⑦ 訪問看護の展開⑦：事例の疾病の説明
	8回	訪問看護の展開⑧ 訪問看護の展開⑧：事例から関連図の作成（病態から看護ケアまで）
	9回	訪問看護の展開⑨ 訪問看護の展開⑨：事例から関連図の作成（病態から看護ケアまで）
	10回	訪問看護の展開⑩ 訪問看護の展開⑩：事例の問題点抽出
	11回	訪問看護の展開⑪ 訪問看護の展開⑪：事例の看護計画
	12回	訪問看護の展開⑫ 訪問看護の展開⑫：シミュレーション学修（訪問看護の展開②から④までの事例を用いる）
	13回	訪問看護の展開⑬ 訪問看護の展開⑬：シミュレーション学修（訪問看護の展開⑤から⑦までの事例を用いる）
	14回	訪問看護の展開⑭ 訪問看護の展開⑭：シミュレーション学修（訪問看護の展開⑧から⑩までの事例を用いる）
成績評価の方法		1) 事前学修課題レポート テーマ「糖尿病と脳梗塞について」10% ※作成した資料には出典、参考文献を記載のこと 2) 看護過程の展開（フェイスシート作成、イメージ図作成、関連図の作成、問題点、看護計画）50% 3) シミュレーション学修（アセスメント力、実践力、態度、コミュニケーション技術）40%”
教科書		特に指定しない。原則、前週に授業資料を配布予定
参考書		「脳神経看護ケア関連図」「疾患別看護ケア関連図」（中央法規）
事前・事後学修		<病態生理学Ⅱ・Ⅲ>、<人体構造機能学Ⅱ>について再学修し、事前に提示された疾病について学修し、レポートにまとめておくこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス		疾患から影響された症状が「なぜ」このような症状が出現するのか、根拠をもってさまざまな参考書などから知識を得てください
オフィスアワー		時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	必修科目
担当教員			
難波 貴代、木全 真理、窪島 領子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	在宅から病院に入院するまたは、病院から退院する対象者が、家庭や地域社会で生活の質を保ち安心して生活するために必要な医療福祉サービスを継続するための看護、福祉分野との連携の必要性ならびに調整方法の実際について学ぶ。9回から12回は学生がグループに分かれ、川崎市における地域包括ケアシステムを念頭に医療と介護サービスを一体化した観点から、事例を基盤に看護職としてのケアマネジメントを実施し、その結果をプレゼンテーションする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の療養の場を再考する必要性とその支援・調整について説明できる</li> <li>2) 地域包括ケアシステムを構成する関係機関との双方向の連携と、看護職が果たす役割を説明できる</li> <li>3) 看護職のケースマネジメントとケアマネジメントの必要性を説明できる</li> <li>4) 事例から介護保険制度におけるケアマネジメントの過程を説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 医療機関における入退院時の連携① 担当者:難波 退院支援と退院調整</p> <p>2回 医療機関における入退院時の連携② 担当者:難波 多職種連携・地域連携 (退院時共同指導、院内開催のサービス担当者会議など)</p> <p>3回 医療機関における入退院時の連携③ 担当者:難波 医療機関から介護施設との連携</p>

	4回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携① 担当者:木全 行政機関との連携(介護保険申請)
	5回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携② 担当者:木全 地域包括支援センターとの連携 (地域ケア会議における看護職の役割と地域包括ケアシステム連絡協議会参画団体)
	6回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携③ 担当者:木全 居宅介護支援事業所との連携 (居宅支援計画書など)
	7回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携④ 担当者:木全 介護サービス事業所との連携 (訪問介護、通所介護、訪問入浴サービスなど)
	8回	看護が担うケースマネジメントとケアマネジメント 担当者:難波 理念と目的、ケアマネジャーの役割
	9回	介護保険制度におけるケアマネジメント① 担当者:田中 インタビュー、アセスメント
	10回	介護保険制度におけるケアマネジメント② 担当者:田中 ケアプラン原案作成
	11回	介護保険制度におけるケアマネジメント③ 担当者:笠原 サービス担当者会議、ケアプランの決定
	12回	介護保険制度におけるケアマネジメント④ 担当者:笠原 サービス提供、給付管理、在宅におけるサービス担当者会議)
	13回	訪問看護とケアマネジメント 担当者:難波 在宅療養での多職種連携
	14回	訪問看護とケアマネジメント 担当者:難波 ケアプランの把握、修正、変更
成績評価の方法	試験70%、課題提出30%	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論」(メディカ出版)	
参考書	特に指定しない。	
事前・事後学修	川崎市のホームページ< <a href="http://www.city.kawasaki.jp/">http://www.city.kawasaki.jp/</a> >、特に川崎版地域包括ケアシステムについて事前に学修しておくこと。また、授業後は、その都度指示する事項の復習を必ず行い、理解を深めること。	
その他アドバイス	地域を散策しているときに地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所の存在に気づきながら歩く。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
糸井 裕子、松田 有子、牛尾 陽子			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	成人看護の基盤となる概念、成人期にある人の健康課題、発達課題を踏まえ身体的・精神的・社会的特徴、看護の特徴について学ぶ。また、発生リスクの高い健康問題と看護の特徴、成人看護を支える諸制度について学ぶ。 【別表1 個人・家族・集団・組織の支援】、【別表3 成人看護学】
授業の到達目標	1) 成人の成長発達の特徴について説明できる 2) 成人の特徴を踏まえた健康教育の方法について説明できる 3) 成人の健康問題のレベルに対応した看護の特徴を説明できる 4) 成人の看護を実践する上で有用な概念を説明できる
履修条件	なし
授業計画	1回 成人期の位置づけと成長発達の特徴 担当者：糸井 2回 成人期の健康問題の特徴とリスクファクター 担当者：糸井 3回 健康のレベルと経過に対応した看護の特徴 担当者：糸井 4回 成人に対する基本的アプローチの主要概念：自己効力・セルフケア 担当者：糸井

	5回	成人に対する基本的アプローチの主要概念:危機・ストレス・コーピング 担当者:松田
	6回	成人に対する基本的アプローチの主要概念:受容過程・セルフケアの再獲得 担当者:牛尾
	7回	成人の健康問題を分析するための枠組み(ゴードン) 担当者:糸井
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト10%、レポート20%の総合点で判定する。	
教科書	(デジタルナーシンググラフィカ) 「成人看護学概論」	
参考書	野川 道子他、看護実践に活かす中範囲理論(第2版)、メヂカルフレンド社、2016	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	生涯発達論、臨床心理学、公衆衛生学なども授業内容に関連するため予習して望むと理解の助けになる。	
オフィスアワー	原則として、毎週月の16:40~17:15、201研究室にきてください。 (事前にメールで連絡しmアポイントを取ってください) 連絡先は、大学ポータルサイトを参照。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
松田 有子、牛尾 陽子、糸井 裕子、岩瀬 和恵			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>								
科目の概要	急激な健康破綻をきたした対象に対する基本的な看護について学ぶ（周術期、地域において手術後の管理を必要とする対象を含む）。また基本的な救命処置の方法を理解し模擬的に実践する。各疾患の病態のみならず検査、治療、合併症、予後などについて事例を用い説明し、経過における看護の優先順位、役割について学ぶ。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急激な健康破綻をきたした患者およびその家族の特徴とその看護が説明できる</li> <li>2) 急激な健康破綻によって生じる日常生活機能への影響が説明できる</li> <li>3) 急激な健康破綻をきたした患者の合併症を予防し、回復を促す看護が説明できる</li> <li>4) 急激な健康破綻をきたした患者の生体機能の再確立をしながら社会復帰へと繋げていく退院支援が説明できる</li> </ol>								
履修条件									
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>急性期にある成人とその家族の特徴と看護</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>周手術期にある患者・家族の看護(1) 術前・術中 (胃がん)</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>周手術期にある患者・家族の看護(2) 術後 (胃がん)</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護(看護過程) (胃がん・大腸がん)</td> </tr> </table>	1回	急性期にある成人とその家族の特徴と看護	2回	周手術期にある患者・家族の看護(1) 術前・術中 (胃がん)	3回	周手術期にある患者・家族の看護(2) 術後 (胃がん)	4回	急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護(看護過程) (胃がん・大腸がん)
1回	急性期にある成人とその家族の特徴と看護								
2回	周手術期にある患者・家族の看護(1) 術前・術中 (胃がん)								
3回	周手術期にある患者・家族の看護(2) 術後 (胃がん)								
4回	急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護(看護過程) (胃がん・大腸がん)								

	5回	急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護（看護過程）（胃がん・大腸がん）
	6回	急性の呼吸機能障害をもつ患者の看護（肺がん）
	7回	急性の呼吸機能障害をもつ患者の看護（肺がん）
	8回	急性の循環機能に障害をもつ患者の看護（心筋梗塞・冠動脈）
	9回	急性の循環機能に障害をもつ患者の看護（心筋梗塞・冠動脈）
	10回	急性の循環機能に障害をもつ患者の看護（心筋梗塞・冠動脈）
	11回	急性の性・生殖機能に障害をもつ患者の看護（乳がん・前立腺がん）
	12回	急性の脳神経機能に障害をもつ患者の看護（くも膜下出血・脳梗塞）
	13階	急性の脳神経機能に障害をもつ患者の看護（くも膜下出血・脳梗塞）
	14回	急性の運動機能に障害をもつ患者の看護（脊髄損傷）
成績評価の方法	試験70%、小テスト10%、課題20%	
教科書	・ナースング・グラフィカ成人看護学4 周術期看護、中島恵美子ら編集、MCメディカ出版	
参考書	・周術期管理チームテキスト第4版、日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編集、日本麻酔科学会	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	〈人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ〉、〈病態生理学Ⅰ～Ⅲ〉、〈代謝と栄養〉、〈臨床薬理学〉、〈臨床検査学〉、〈基礎看護学Ⅰ～Ⅳ〉、〈基礎看護学技術Ⅴ〉、〈成人看護学概論〉等での学修を振り返りながら学修してください。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
牛尾 陽子、糸井 裕子、平井 孝次郎、松田 有子、岩瀬 和恵			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<p>回復期・リハビリテーション期にある対象への必要な療養やセルフケアについて、就労、社会、家族生活の観点から支援できるよう学ぶ。また地域において長期間の疾病管理、回復段階に応じたかかわりを必要とする対象へのサービスなど、各発達段階と健康障害に応じた支援方法を学ぶ（がんサバイバー、治療と仕事の両立：外来実習とのリンク）。</p> <p>終末期では、対象の個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた基本的な看護について学ぶ。また、地域における緩和ケアについても学ぶ。さらに、パリアティブケアの理念、倫理的問題、尊厳を支える看護実践とは何かについて考察し、必要な看護ケアを学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性疾患を持つ対象の特徴を説明できる</li> <li>2) 慢性病を持つ対象・家族の基礎的な看護を説明できる</li> <li>3) セルフマネージメントを推進する看護を説明できる</li> <li>4) セルフケアにおける依存と自立、人的システム、法的システムについて説明できる</li> <li>5) パリアティブケアの概念と特徴について説明できる</li> <li>6) 終末期にある対象と家族のケアの特徴を説明できる</li> <li>7) 地域で生活する対象と家族の緩和ケアの特徴を説明できる</li> <li>8) がんサバイバーシップのプロセスとがんサバイバーが抱える社会生活の課題を説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	1回 慢性の呼吸機能障害をもつ患者と家族の看護の特徴（糸井）

	2回	慢性の呼吸機能障害をもつ患者と家族の看護：COPD（糸井）
	3回	慢性の循環機能障害をもつ患者と家族の看護：心不全（糸井）
	4回	慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：C型肝炎・肝硬変（糸井）
	5回	慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：糖尿病Ⅰ（平井）
	6回	慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：糖尿病Ⅱ（平井）
	7回	慢性の内部環境調節障害をもつ患者と家族の看護：腎不全Ⅰ（松田）
	8回	慢性の内部環境調節障害をもつ患者と家族の看護：腎不全Ⅱ（松田）
	9回	慢性の免疫機能障害をもつ患者と家族の看護：関節リウマチ（牛尾）
	10回	慢性の免疫機能障害をもつ患者と家族の看護：ALS（牛尾）
	11回	パリアティブケアの概念と特徴（糸井）
	12回	がん治療（放射線治療）における看護：喉頭がん 治療と社会生活の両立・地域で生活する対象と家族の緩和ケア（糸井）
	13回	がん治療（化学療法）における看護：すい臓がん 治療と社会生活の両立・地域で生活する対象と家族の緩和ケア（糸井）
	14回	終末期にある対象と家族のケアの特徴（糸井）
成績評価の方法	試験70%、小テスト10%、課題20%	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（デジタルナースンググラフィカ）③⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</li> <li>・（デジタルナースンググラフィカ）EX①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</li> <li>・日本糖尿病学会編・著、糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版、文光堂.</li> </ul>	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氏家幸子監修・C.慢性疾患患者の看護・第3版・廣川書店・2005</li> <li>・安酸史子他編・セルフマネジメント・第3版・メディカ出版・2015</li> </ul>	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	〈人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ〉、〈病態生理学Ⅰ～Ⅲ〉、〈代謝と栄養〉、〈臨床薬理学〉、〈臨床検査学〉、〈基礎看護学Ⅰ～Ⅳ〉、〈基礎看護学技術Ⅴ〉、〈成人看護学概論〉等での学修を振り返りながら学修してください。	
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の講義後に直接、担当者に問い合わせる。</li> <li>・各担当者宛にメールし、アポイントをとって下さい（メールは大学ポータルにて確認）。</li> </ul>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	必修科目
担当教員			
平井 孝次郎、糸井 裕子、松田 有子、牛尾 陽子、岩瀬 和恵			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) シミュレーション</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	看護師がとらえた対象の兆候に注目し、経過から推測される原因疾患について構造・機能・病態に基づいた看護におけるアセスメント、問題点の抽出、看護計画の立案など看護過程の展開を通して必要な看護実践を学ぶ。また、シミュレーター等を用い、実際に様々な状況を想定し、変化する患者の状態への対応を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周手術期にある患者の事例をアセスメントし、看護問題を抽出できる</li> <li>2) 看護計画を立案し、状況に対応した援助方法を説明できる</li> <li>3) 慢性期にある患者の事例を通して、状況に対応したアセスメントと援助方法を説明できる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 成人看護学演習オリエンテーション 担当者:平井 演習①:看護過程(胃がん)、演習⑥:看護過程(糖尿病)・指導技術の説明</p> <p>2回 演習②:シミュレーションの説明、演習③:BLSの説明 担当者:糸井、松田</p> <p>3回 演習①:看護過程(胃がん) 演習②:シミュレーション 演習③:BLS 担当者:平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬 学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>4回 演習①:看護過程(胃がん) 演習②:シミュレーション 演習③:BLS 担当者:平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p>

	<p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>5回 演習①：看護過程（胃がん） 演習②：シミュレーション 演習③：BLS 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>6回 演習①：看護過程（胃がん） 演習②：シミュレーション 演習③：BLS 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>7回 演習①：看護過程（胃がん） 演習②：シミュレーション 演習③：BLS 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>8回 演習④：SMBGの説明 演習⑤：ストーマケアの説明 担当者：牛尾、岩瀬</p> <p>9回 演習④：SMBG 演習⑤：ストーマケア 演習⑥：看護過程（糖尿病）・指導技術 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>10回 演習④：SMBG 演習⑤：ストーマケア 演習⑥：看護過程（糖尿病）・指導技術 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>11回 演習④：SMBG 演習⑤：ストーマケア 演習⑥：看護過程（糖尿病）・指導技術 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>12回 演習④：SMBG 演習⑤：ストーマケア 演習⑥：看護過程（糖尿病）・指導技術 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>学生によって演習内容が異なります。成人看護学演習スケジュール表で演習内容を確認してください。</p> <p>13回 演習⑥：看護過程 発表 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p> <p>14回 演習⑥：指導技術 発表 担当者：平井、糸井、松田、牛尾、岩瀬</p>
成績評価の方法	演習の課題：50%、テスト：50%
教科書	看護がみえるvol.4：永田明・石川ふみよ監修、医療情報科学研究所、2020
参考書	〈人体の構造と機能〉、〈病態生理学〉、〈臨床薬理学〉、〈臨床検査学〉、〈基礎看護学Ⅰ～Ⅳ〉、〈基礎看護学技術Ⅴ〉、〈成人看護学概論〉、〈成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ〉で使用した教科書
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	〈人体の構造と機能〉、〈病態生理学Ⅰ～Ⅴ〉、〈臨床薬理学〉、〈臨床検査学〉、〈基礎看護学Ⅰ～Ⅳ〉、〈基礎看護学技術Ⅴ〉、〈成人看護学概論〉、〈成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ〉等での学修を振り返りながら学修してください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
淵田 英津子、佐藤 文			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	高齢者の生活機能の維持・向上を目指して、高齢者の生活と健康の理解に必要な概念や理論、認知機能障害を含めた加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴とアセスメントに必要な知識や、老年看護に必要な看護の基本を学ぶ。また、高齢者と高齢者を取り巻く環境を支えるために必要な保健・医療・福祉制度、高齢者の権利擁護及び老年看護における看護職の役割について学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 老年期まで生きてきた背景を含めた人々の特徴、および加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を説明できる</p> <p>2) 老年看護に必要な理論、アセスメントに必要な評価方法を説明できる</p> <p>3) 高齢者を支える保健・医療・福祉制度を説明できる</p> <p>4) 高齢者を支えるための看護のあり方について説明できる</p>
履修条件	特になし
授業計画	<p>1 オリエンテーション、高齢者の理解①</p> <p>2 高齢者の理解②</p> <p>3 高齢者の理解③、高齢者の地域包括ケア①</p> <p>4 高齢者の地域包括ケア②</p>

	5	高齢者のヘルスプロモーション①
	6	高齢者のヘルスプロモーション②
	7	多様な生活の場と看護職の役割，高齢者の生活を支える意義
成績評価の方法	振り返りシート30%、定期試験70%により総合的に評価します。	
教科書	講義資料によって進める。授業初回のオリエンテーションで、説明します。	
参考書	講義時に適宜提示します。	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。 授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	日頃から高齢者への関心をもつようにしてください。	
オフィスアワー	原則、水曜日12時30分～13時（渕田） 授業初回時に提示します。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
佐藤 文、澁田 英津子、東森 由香			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	高齢者を取り巻く環境をアセスメントしたうえで、高齢者の生活および健康を支える看護について学ぶ。特に、高齢者の健康の維持と介護予防、エンド・オブ・ライフケア、薬物療法といった多様な健康状態に応じた看護、高齢者に特有な廃用症候群、脱水症、摂食嚥下障害、低栄養、睡眠障害、感覚機能障害、骨折、認知症、せん妄などの症候・疾患・障害への看護について学ぶ。												
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者をとりまく生活環境のアセスメントについて説明できる</li> <li>2) 高齢者の健康維持と介護予防の方法について説明できる</li> <li>3) 高齢者特有の生活・健康障害の看護について説明できる</li> <li>4) 高齢者の薬物療法と服薬支援について説明できる</li> <li>5) 認知症高齢者の支援方法について説明できる</li> </ol>												
履修条件	なし												
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1回</td> <td style="width: 45%;">1. 高齢者の生活・健康障害と看護</td> <td style="width: 50%;">1) 老年症候群      2) 廃用症候群</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>3) フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>4) 視覚・聴覚障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>5) 活動と休息のバランス、睡眠障害</td> <td></td> </tr> </table>	1回	1. 高齢者の生活・健康障害と看護	1) 老年症候群      2) 廃用症候群	2回	3) フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム		3回	4) 視覚・聴覚障害		4回	5) 活動と休息のバランス、睡眠障害	
1回	1. 高齢者の生活・健康障害と看護	1) 老年症候群      2) 廃用症候群											
2回	3) フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム												
3回	4) 視覚・聴覚障害												
4回	5) 活動と休息のバランス、睡眠障害												

	5回	6) 脱水、低栄養 7) 摂食・嚥下障害
	6回	8) 皮膚掻痒症、スキンケア、褥瘡、医療機器関連圧迫創傷 (MDRPU)
	7回	9) 排尿障害、排便障害、失禁関連皮膚炎 (IAD)
	8回	10) 骨粗鬆症、骨折
	9回	11) せん妄、老年期うつ
	10回	12) 感染症
	11回	2. 高齢者の薬物療法と服薬支援
	12回	3. エンド・オブ・ライフケア
	13回	4. 高齢者の権利擁護
	14回	5. 介護者家族へのケア
成績評価の方法	振り返りシート30%、定期試験70%により総合的に評価します。	
教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践, メディカ出版. 講義資料によって進める。	
参考書	適宜、提示する	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	健康であることはどういうことか、生活することとはどういうことなのか。何気ない日常で人に関心を寄せて高齢者の看護について考えてみましょう。	
オフィスアワー	授業初回時に提示します。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	3年生	1	必修科目
担当教員			
佐藤 文、湊田 英津子、東森 由香、杉原 真裕子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>シミュレーター演習</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	高齢者がその人らしく生活を維持・継続できる看護を実践するために、多様な生活の場における高齢者と高齢者を取り巻く環境についてアセスメントし、高齢者の現存能力を生かした看護計画が立案できる知識や思考力を身につける。また、事例やシミュレーターを用いて、老年看護に必要な基本的技術を実践的に学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の生活機能の維持のための施設・社会資源について説明できる</li> <li>2) 高齢者の健康維持におけるレクリエーションについて説明できる</li> <li>3) 高齢者の身体機能の合わせた看護について説明できる</li> <li>4) 高齢者施設における看取りについて説明できる</li> <li>5) 高齢者施設における生活機能に着目した援助計画が立案できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回～2回 1. 高齢者施設・サービスの特徴とその役割 担当者:佐藤 ・介護老人保健施設 ・介護老人福祉施設 ・サービス付き高齢者住宅 ・デイケア ・デイサービス 等</p> <p>3回 2. 高齢者をとりまく環境のアセスメント 担当者:佐藤 人的資源・物的資源・社会的資源 (高齢者施設に従事する ケアマネージャーのゲストスピーカーを予定)</p> <p>4回 3. レクリエーションとその効果 担当者:佐藤</p>

	5回	4. 高齢者施設における看取り 担当者: 湊田 (川崎記念病院の看護管理者のゲストスピーカーを予定)
	6回	5. 高齢者の身体機能に合わせた看護 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 1) 脆弱な皮膚のケア (スキンケア、IAD、MDRPU)
	7回	5. 高齢者の身体機能に合わせた看護 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 2) 褥瘡予防のためのアセスメントと体圧分散のケア
	8回	5. 高齢者の身体機能に合わせた看護 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 3) 低栄養、摂食・嚥下障害のある人へのケア
	9回	5. 高齢者の身体機能に合わせた看護 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 4) 介護予防のためのケア
	10回	6. 看護過程の展開 (個人ワーク、グループワーク) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 1) 高齢者理解に必要な情報とその解釈
	11回	6. 看護過程の展開 (個人ワーク、グループワーク) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 2) 情報の分析・統合、健康上の課題の抽出
	12回	6. 看護過程の展開 (個人ワーク、グループワーク) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 3) 看護目標の設定、看護計画の立案
	13回	6. 看護過程の展開 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 4) グループワーク 発表 (前半)
	14回	6. 看護過程の展開 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 5) グループワーク 発表 (後半)
成績評価の方法	振り返りシート20%、課題レポート60%、グループワークへの貢献20%により総合的に評価します。	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院	
参考書	適時提示する	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	3年生	1	必修科目
担当教員			
澁田 英津子、佐藤 文、東森 由香、杉原 真裕子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>認知症高齢者や介護者の体験談、模擬患者から学ぶ</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	認知症高齢者の看護の基本に必要な国内外の認知症対策・認知機能障害と行動・心理症状、認知症の理解に必要な治療とアセスメントの視点、社会資源・倫理的課題について、事例、認知症高齢者や介護者の体験、専門職によるアプローチから学ぶ。また、認知症高齢者の現存能力を生かしながら、認知症高齢者の身体的・精神的・社会的変化と生活を関連付けて、包括的に認知症高齢者を看護する基本的な支援方法について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症高齢者の動向、認知症の定義と診断基準、国の施策と社会資源、認知症の種類と特徴を説明できる</li> <li>2) 認知症高齢者の認知機能障害と行動・心理症状の評価尺度と評価時の留意点が説明できる</li> <li>3) 認知症高齢者や介護者の体験、認知症ケアに携わる専門職の役割を知ること、認知症高齢者と介護者に必要なケアを説明できる</li> <li>4) 認知症高齢者と介護者の意思決定について説明できる</li> <li>5) 目標思考型思考を用いて、認知症高齢者の看護過程が展開できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 認知症高齢者の動向、認知症の定義と診断基準、認知症に対する国の施策と社会資源 担当者:澁田</p> <p>2回 認知症の原因となる疾患と認知機能障害 担当者:澁田</p> <p>3回 認知症高齢者に用いる認知機能障害と行動・心理症状の評価尺度と評価時留意点 担当者:澁田</p>

	4回	認知症高齢者のケア、薬物療法、非薬物療法 担当者: 湊田
	5回	認知症高齢者と介護者の現状、認知症ケアに携わる専門職の役割 担当者: 湊田 (医師のゲストスピーカーを予定)
	6回	病院における認知症高齢者のケアと多職種協働 担当者: 湊田 (認知症看護認定看護師のゲストスピーカーを予定)
	7回	介護施設における認知症高齢者のケアと多職種協働 担当者: 湊田 (福祉施設の施設長・介護職のゲストスピーカーを予定)
	8回	認知症高齢者と介護者の意思決定 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 事例検討、個人ワーク、グループワーク、模擬患者の活用
	9回	認知症高齢者の看護過程 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 目標思考型思考の理解、事例の理解
	10回	認知症高齢者の看護過程(講義) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 情報の分析・解釈・推察
	11回	認知症高齢者の看護過程(実際) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 情報の分析・解釈・推察
	12回	認知症高齢者の看護過程(グループワーク) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 統合、看護目標の設定、看護計画の立案
	13回	認知症高齢者の看護過程(発表) 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 統合、看護目標の設定、看護計画の立案
	14回	認知症高齢者の看護過程 担当者: 佐藤、湊田、岩瀬、杉原 学びの共有、まとめ
成績評価の方法	評価は、①欠席・振り返り用紙の提出30点、②期末試験70点により総合的に判断する	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院	
参考書	適宜提示します。 水谷信子監, 最新老年看護学第3版, 2020年度版, 日本看護協会出版, 2020 古田愛子監, 改訂版 写真でわかる高齢者ケアアドバンス, インターメディカ, 2020 石川洋子他編, ナーシング・プロフェッショナル・シリーズ 認知症看護 認知症の人の「困りごと」に寄り添い, 尊厳あるケアを目指して, 医歯薬出版, 2019	
事前・事後学修	概論及び方法論をよく復習し授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項の復習を必ず行い、理解を深めること。日頃から、認知症高齢者と認知症高齢者を支援する人々に関する情報に関心も持ってください。	
その他アドバイス	講義や課題に主体的に参加してください。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
田中 千代			
15時間 (7回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	<p>新生児期から思春期及び成人移行期である青年期を含め、子どもと家族を対象とした看護の基盤となる概念、各発達段階における身体・認知・心理・社会面の特徴、子どもの日常生活及び養育について学ぶ。さらに、子どもと家族を取り巻く社会動向をもとに子どもを支える諸制度について学び、現代社会に生きる子どもと家族の特徴をふまえ、子どもの健やかな発達を促す支援について理解する。</p>
授業の到達目標	<p>1) 小児看護の理念と特徴について説明できる。</p> <p>2) 現代の子ども・家族や子どもと家族を取り巻く社会の動向について説明できる。</p> <p>3) 成長・発達の原則、成長・発達への影響要因、成長・発達の評価について説明できる。</p> <p>4) 小児各期の子ども成長・発達と日常生活の特徴について説明できる。</p> <p>5) 子どもの健康の保持・増進に向けての看護について説明できる。</p>
履修条件	生涯発達論の単位を取得していること。
授業計画	<p>1回 小児看護の理念と特徴、現代の子ども・家族と社会、子どもの権利の擁護 担当者：田中(千) *「発達と暮らしへの支援実習」のオリエンテーションを含む。</p> <p>2回 成長・発達の原則、成長・発達への影響要因、成長・発達の評価方法 担当者：田中(千)</p> <p>3回 新生児期・乳児期の成長・発達と日常生活の特徴、子ども・家族への援助 担当者：田中(千)</p> <p>4回 幼児期の成長・発達と日常生活の特徴、子ども・家族への援助(1) 担当者：田中(千)</p>

	5回 幼児期の成長・発達と日常生活の特徴、子ども・家族への援助 (2) 担当者：田中 (千)
	6回 学童期の成長・発達と日常生活の援助、子ども・家族への援助 担当者：田中 (千)
	7回 思春期の成長・発達と日常生活の援助、子ども・家族への援助 担当者：田中 (千)
成績評価の方法	定期試験70%、課題レポート20%、学習態度10%
教科書	ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護. 中野綾美. メディカ出版. 2023年 ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術. 中野綾美. メディカ出版. 2023年
参考書	特に指定せず (状況に応じて提示する)
事前・事後学修	事前に教科書の該当部分を読み、各自の疑問点を明確にして授業に臨むこと。また、授業後にはその都度学習した事項について復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	第1回授業には「発達と暮らしへの支援実習」のオリエンテーションが含まれるため、必ず出席すること。
オフィスアワー	時間割確定後に明示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	3年生	2	必修科目
担当教員			
田中 千代、笠井 由美子、木村 紀子、村田 翔			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
科目の概要	健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と子どもと家族の看護について学ぶ。小児期における対症看護、及び健康障害の特性や病気・場によるケアニーズの特徴をふまえ、健康の維持・回復、苦痛の緩和、安全・安楽のための援助について学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 健康障害をもつ子どもによくみられる症状とその看護について説明できる</p> <p>2) 健康障害をもつ子どもと家族の看護について、子どもの発達段階の特徴をもとに、病気・障害や治療の特性をふまえて説明できる</p> <p>3) 健康障害をもつ子どもが生活する様々な場における看護及び支援の特徴について説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 小児看護の理念と特徴、現代の小児医療と看護の課題、小児看護と倫理 担当者:田中</p> <p>2回 様々な場における小児看護、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響 担当者:田中</p> <p>3回 ハイリスク新生児と家族の看護、対症看護：黄疸 担当者:笠井</p> <p>4回 急性胃腸炎の子どもと家族の看護、対症看護：発熱・嘔吐・下痢・脱水 担当者:田中</p>

	5回	呼吸器疾患の子どもと家族の看護、対症看護：呼吸困難 担当者：木村
	6回	アレルギー疾患を持つ子どもと家族の看護 担当者：木村
	7回	周手術期の子どもと家族の看護（1） 担当者：田中
	8回	周手術期の子どもと家族の看護（2）、対症看護：コドンの痛み 担当者：田中
	9回	循環器疾患の子どもと家族の看護、対症看護：チアノーゼ、発疹 担当者：笠井
	10回	糖尿病の子どもと家族の看護 担当者：笠井
	11回	腎疾患の子どもと家族の看護、対症看護：浮腫 担当者：木村
	12回	小児がんの子どもと家族の看護、対症看護：貧血・出血傾向 担当者：田中
	13回	障害のある子どもと家族の看護、対症看護：痙攣 担当者：笠井
	14回	特別支援教育と学校における看護 担当者：ゲストスピーカー、田中
成績評価の方法	定期試験70%、レポート等提出物20%、学修態度10%	
教科書	ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護（メディカ出版）2023年 ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術（メディカ出版）2023年 ナーシンググラフィカ 小児看護学3 小児の疾患と看護（メディカ出版）2023年	
参考書	根拠と事故防止からみた小児看護技術. 医学書院. 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図. 医学書院. 系統看護学講座 専門 小児看護学1・2. 医学書院.	
事前・事後学修	事前に教科書の該当部分を読み、各自の疑問点を明確にして授業に臨むこと。また、授業後は、その都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	第14回授業には後期科目「小児看護学実習Ⅱ」のオリエンテーションの一部が含まれるため、（やむを得ない場合を除き）必ず出席のこと	
オフィスアワー	オフィスアワーは時期により異なるため、別途指示する。事前に教員にメールシェアポイントをとること。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	3年生	1	必修科目
担当教員			
田中 千代、笠井 由美子、木村 紀子、村田 翔			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>学生同士のロールプレイ、シミュレーション教育</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	健康障害をもつ子どもと家族の看護実践に向けて、紙上事例を用いて看護過程展開のための知識や思考方法を学ぶ。また、小児看護における基本的な援助技術についてモデルやシミュレーターを用い、様々な状況を想定し、変化する子どもの状態に応じた子どもと家族への対応について学ぶ。
授業の到達目標	1) 健康障害をもつ子どもと家族への看護について紙上事例を用いて看護計画を立案できる 2) 小児看護における基本的な看護技術の特徴と方法を説明できる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、小児看護における看護過程 担当者:田中</p> <p>2回 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 担当者:田中</p> <p>3回～4回 技術演習 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護技術(1)：乳児のバイタルサイン測定、採尿、与薬、輸液療法と看護(末梢静脈穿刺、刺入部固定・シーネ固定、点滴中の子どもの看護)</p> <p>5回～6回 技術演習 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護技術(2)：乳児の抱っこ、乳児の身体計測、骨髄穿刺・腰椎穿刺、医療的ケアと看護</p> <p>7回～8回 事例展開 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護過程(1)：情報収集とアセスメント【講義とグループワーク】</p>

	<p>9回～10回 事例展開 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護過程(2):アセスメントと看護上の問題の抽出、看護目標の設定【講義とグループワーク】</p> <p>11回～12回 事例展開 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護過程(3):看護上の問題の抽出と看護目標の設定、具体策【講義とグループワーク】</p> <p>13回～14回 事例展開 担当者:田中、木村、笠井、村田 小児看護過程(4):看護計画【講義とグループワーク】 学習のまとめ</p>
成績評価の方法	定期試験30%、技術演習提出物(記録)30%、事例展開提出物(記録)30%、学修態度・授業参加度10%
教科書	ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護(メディカ出版)2023年 ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術(メディカ出版)2023年 ナーシンググラフィカ 小児看護学3 小児の疾患と看護(メディカ出版)2023年
参考書	根拠と事故防止からみた小児看護技術. 医学書院. 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図. 医学書院. 系統看護学講座 専門 小児看護学1・2. 医学書院.
事前・事後学修	事例展開については必ず自己学修をした上でグループワークに臨むこと。技術演習では事前に教科書の該当部分を読み疑問点を整理するとともに、ワークシート等の事前課題に取り組むこと。
その他アドバイス	
オフィスアワー	オフィスアワーは時期により異なるため、別途指示する。事前に教員にメールで連絡し、アポイントを取ること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
山崎 由美子			
15時間 (7回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、対象者の特徴を踏まえた母性看護の基盤となる概念、女性の各ライフステージにおける健康を促進(維持・増進)する看護、マタニティサイクルにおける母子とその家族のケア、地域における母性看護の概要について学ぶ。また、人工妊娠中絶、不妊、出生前診断、性感染症、性暴力、災害時妊産婦など現実的な課題の実態と背景、及びその支援の在り方についても学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性看護の対象を看護するうえで重要な概念や理論を説明できる</li> <li>2) 女性のライフサイクルの変化と母性の発達との関連を理解し、課題を述べることができる</li> <li>3) リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、母性をめぐる様々な課題について説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 母性の概念と対象の理解、リプロダクティブヘルス/ライツ</p> <p>2回 母子保健統計の動向、母性看護に関する法律・施策</p> <p>3回 性周期と生殖機能、人の発生、セクシュアリティ</p> <p>4回 思春期・成熟期女性の健康と看護</p>

	5回 更年期・老年期女性の健康と看護
	6回 母性をめぐる課題（人工妊娠中絶、不妊、出生前診断、ペリネイタル・ロス等）
	7回 母性をめぐる課題（性感染症、性暴力、災害時妊産婦、外国人妊産婦への看護等）
成績評価の方法	レポート30点、試験70点
教科書	（デジタルナーシンググラフィカ）36巻 概論・リプロダクティブヘルスと看護
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	次回の授業内容について教科書を読み、自分なりの見解をもって講義に臨むこと。また、講義内容に関する時事問題を検索し、課題を概観する。授業後は、その都度指示する事項の復習を必ず行い、理解を深めること。
その他アドバイス	母性を取り巻く社会の変遷や課題に直面し、衝撃を受けることもあるかも知れませんが、看護師としてどのような支援ができるのかを共に考えていきましょう。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	3年生	2	必修科目
担当教員			
五味 麻美、永田 智子、山崎 由美子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	「母性看護学概論」での学びを基盤として、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象や家族に対する基本的な看護について学ぶ。また、地域社会における母子とその家族に対する看護について学ぶ。13～14回は、川崎市や他の地域における切れ目のない妊娠・出産・子育ての支援（助産院・病院・公的・民間・NPO等）について探求し、看護師の役割について討議する。
授業の到達目標	1) 妊娠・分娩・産褥・新生児期における生理的な経過を学び、母子が健康状態を保持・増進するために必要な看護について説明することができる 2) 地域社会における母子とその家族に、包括的かつ継続的な支援を提供する看護師の役割を述べるができる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 ガイダンス/ 妊娠期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（アセスメント） 担当者:五味</p> <p>2回 妊娠期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（看護） 担当者:五味</p> <p>3回 妊娠期における正常からの逸脱と看護 担当者:五味</p> <p>4回 分娩期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（アセスメント） 担当者:五味</p>

	5回	分娩期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（看護） 担当者:五味
	6回	分娩期における正常からの逸脱と看護 担当者:五味
	7回	産褥期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（アセスメント） 担当者:五味
	8回	産褥期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護（看護） 担当者:五味
	9回	産褥期における正常からの逸脱と看護 担当者:五味
	10回	新生児の健康状態を保持・増進するための看護（アセスメント） 担当者:五味
	11回	新生児の健康状態を保持・増進するための看護（看護） 担当者:五味
	12回	新生児期における正常からの逸脱と看護 担当者:五味
	13回	地域社会における切れ目ない妊娠・出産・子育て支援（テーマの選定・調査） 担当者:五味、永田、山崎
	14回	地域社会における切れ目ない妊娠・出産・子育て支援（発表・講評） 担当者:五味、永田、山崎
成績評価の方法	テーマ学修の達成状況30点、定期試験70点	
教科書	ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版	
参考書	必要に応じて講義内で適宜提示します。	
事前・事後学修	講義内容の理解を深めるため「母性看護学概論」、「人体構造機能学Ⅰ（生殖器系・内分泌系）」「病態生理学Ⅴ（生殖器系・小児科）」の復習をして講義に臨んでください。また、講義内で指示のあった予習復習を必ず行ってください。	
その他アドバイス	女性とその家族/パートナーが妊娠・出産を経て新たな関係を形成し、地域社会で生活していく一連の過程を捉え、切れ目のない支援を提供する看護師の役割について共に考えていきましょう。	
オフィスアワー	火曜3, 4限	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	3年生	1	必修科目
担当教員			
永田 智子、五味 麻美、山崎 由美子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>Team-Based-Learning (TBL)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	マタニティサイクルにおける母子とその家族に看護援助を実践するうえで必要な知識および看護技術を身につける。看護過程の展開を通じて、看護を実践するための知識を学ぶ。また、技術演習を通じて、母子に必要な看護技術を習得する。												
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ウェルネスの視点に基づいた看護過程の展開方法を説明できる</li> <li>2) 正常に経過する母子に関する知識を応用し、看護過程を展開できる。</li> <li>3) 妊婦・産婦・褥婦、新生児の健康状態を保持・増進するための看護技術を安全安楽に実施することができる</li> <li>4) セルフケア能力を高める保健指導について説明できる</li> </ol>												
履修条件	なし												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>授業の流れ/TBLガイダンス チームビルディング</td> <td>担当：永田、山崎</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>ウェルネス看護診断・看護過程（講義）おためしTBL（iRAT tRAT 5問）予習</td> <td>担当：永田、山崎</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>妊娠期の看護 TBL（iRAT tRAT 10問）</td> <td>担当：永田</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>妊娠期の看護 TBL（応用問題 2問）</td> <td>担当：永田</td> </tr> </table>	1回	授業の流れ/TBLガイダンス チームビルディング	担当：永田、山崎	2回	ウェルネス看護診断・看護過程（講義）おためしTBL（iRAT tRAT 5問）予習	担当：永田、山崎	3回	妊娠期の看護 TBL（iRAT tRAT 10問）	担当：永田	4回	妊娠期の看護 TBL（応用問題 2問）	担当：永田
1回	授業の流れ/TBLガイダンス チームビルディング	担当：永田、山崎											
2回	ウェルネス看護診断・看護過程（講義）おためしTBL（iRAT tRAT 5問）予習	担当：永田、山崎											
3回	妊娠期の看護 TBL（iRAT tRAT 10問）	担当：永田											
4回	妊娠期の看護 TBL（応用問題 2問）	担当：永田											

	5回	分娩期の看護 TBL (iRAT tRAT 10~15問)	担当：永田
	6回	産褥期の看護 TBL (iRAT tRAT 10問)	ピアレビュー① 担当：永田 五味
	7回	産褥期の看護 TBL (応用問題 2問)	担当：永田、五味
	8回	新生児期の看護 TBL (iRAT tRAT 10問)	担当：永田、五味
	9回	新生児期の看護 TBL (応用問題 2問)	担当：永田、五味
	10回	アセスメント、計画立案	技術演習事前説明
	11回	産褥新生児技術演習/看護過程の展開	担当：永田、五味 1~10G 産褥新生児技術演習 (退行性変化、進行性変化、新生児VS測定) 11~20G 産褥新生児アセスメント・計画立案 (自己学習)
	12回	産褥新生児技術演習/看護過程の展開	ピアレビュー② 担当：永田、五味 1~10G 産褥新生児アセスメント・計画立案 (自己学習) 11~20G 産褥新生児技術演習 (退行性変化、進行性変化、新生児VS測定)
	13回	看護過程まとめ (診断・計画	チーム内発表→全体発表準備) 担当：永田、五味、山崎
	14回	看護過程まとめ (診断・計画	全体発表/講評) チーム得点発表/表彰 担当：永田、五味、山崎
成績評価の方法	TBL60%、看護過程の展開30%、技術演習参加/レポート10%		
教科書	ナースンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版 ナースンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 ウェルネスの視点にもとづく 母性看護過程 第4版 医歯薬出版		
事前・事後学修	授業開始前にTBLguidebookを熟読し、TBLについて理解を深めましょう。 ワークブックを基本とした予習復習を必ず行ってください。		
その他アドバイス	Team-Based-Learning (TBL) は個人/チームの学習に責任をもって取り組むことが重要です。また、看護過程の展開の成果物は、母性看護学実習で活用します。主体性をもって授業/演習に参加しましょう。		
オフィスアワー	授業日 (授業前後)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
廣川 聖子、嵐 弘美			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	心のケアが必要な対象への精神看護の基盤となる概念、ライフサイクルの各段階を特徴づける精神的危機状況と精神的健康を増進するための看護の特徴、精神保健関連法規について学ぶ。また、地域における精神看護の概要についても学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神の健康が身近なものであることを理解し、精神科看護の特徴を説明できる</li> <li>2) 健康を保つための個人の精神機能について説明できる</li> <li>3) 日本の法制度の変遷とそれに付随する問題について説明できる</li> <li>4) 精神科領域における多職種とチーム医療の在り方について説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 精神医療の現状と課題 担当者：廣川</p> <p>2回 身体とこころ 担当者：廣川</p> <p>3回 ライフサイクルと精神保健 担当者：廣川</p> <p>4回 心の動き 担当者：廣川</p>

	5回	精神保健医療の歴史と法制度	担当者：廣川
	6回	地域における精神医療	担当者：嵐
	7回	精神科における多職種とチーム医療	担当者：嵐
成績評価の方法	試験80% 課題20%		
教科書	(デジタルナーシンググラフィカ) 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (電子図書) (デジタルナーシンググラフィカ) 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (電子図書)		
参考書	医学書院「精神看護の基礎」第6版 医学書院「精神看護の展開」第6版		
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を読み、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス	精神障害を扱ったDVDが出ています。ぜひみてください。「ツレがうつになりました」、「カッコーの巣の上で」、「ビューティフル・マインド」など。 なお、授業計画に記載の内容は変更の可能性があります。		
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
嵐 弘美、廣川 聖子、加藤 博之			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	心のケアが必要な人の理解と看護援助の基本を学び、メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見、治療、リカバリー（回復）を支援する看護実践について統合的に学ぶ。また、地域において心のケアが必要な対象への基本的な看護についても学ぶ。												
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護学における主な理論やモデルについて説明できる</li> <li>2) 精神疾患を持つ人の多様な価値観、生活習慣を持つ一個人として尊重しながら、精神的看護援助について説明できる</li> <li>3) 精神状態のアセスメントができ、その段階にあった看護援助方法を説明できる</li> <li>4) 地域社会生活への適応に向けた援助技術の基本を説明できる</li> </ol>												
履修条件	なし												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="width: 5%;">1回</td> <td style="width: 15%;">精神医療の理解と精神看護</td> <td style="width: 80%;">嵐</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>精神疾患を持つ人の理解</td> <td>嵐</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>統合失調症の理解と看護</td> <td>加藤</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>気分障害のある人の理解と看護</td> <td>廣川</td> </tr> </table>	1回	精神医療の理解と精神看護	嵐	2回	精神疾患を持つ人の理解	嵐	3回	統合失調症の理解と看護	加藤	4回	気分障害のある人の理解と看護	廣川
1回	精神医療の理解と精神看護	嵐											
2回	精神疾患を持つ人の理解	嵐											
3回	統合失調症の理解と看護	加藤											
4回	気分障害のある人の理解と看護	廣川											

	5回	依存症の理解と看護 廣川
	6回	セルフケア理論を用いたアセスメント 加藤
	7回	薬物療法と看護 加藤
	8回	精神科における合併症をもつ人の看護 嵐
	9回	司法精神看護 廣川
	10回	地域生活と社会資源 加藤
	11回	当事者主体のリカバリー：WRAP（元気回復プラン）の実際（当事者をゲストスピーカーとして招く） 廣川
	12回	司法精神看護 廣川
	13回	リエゾン精神看護の役割 嵐
	14回	リエゾン精神看護の活動の実際 嵐
成績評価の方法	定期試験80%、レポート20%から総合的に評価します。	
教科書	メディカ出版（デジタル・ナーシンググラフィカ）精神看護学①・精神看護学②	
参考書	医歯薬出版「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」	
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	精神障害を扱ったDVDが出ています。ぜひみてください。「ツレがうつになりまして」、「カッコーの巣の上で」、「ビューティフル・マインド」など。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	必修科目
担当教員			
加藤 博之、廣川 聖子、嵐 弘美			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	看護の基本である患者－看護師間の治療的関わりや対人関係能力のスキルを修得すると共に、心のケアが必要な対象者へのセルフマネジメントの方法や、ケアプランの実際を通して、発達課題や各疾患に応じた看護実践について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) プロセスレコードの分析方法を説明できる</li> <li>2) 対象の状況に応じたセルフマネジメント方法を説明できる</li> <li>2) 主な疾患に関してケアプランを立案できる</li> <li>3) 精神障害者および家族に対する援助方法を考察することができる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 援助的人間関係に生かすコミュニケーションスキル：効果的なコミュニケーション 担当者：廣川</p> <p>2回 援助的人間関係に活用するプロセスレコード① 担当者：加藤</p> <p>3回 援助的人間関係に活用するプロセスレコード② 担当者：加藤</p> <p>4回 行動制限と安全 担当者：廣川、嵐、加藤</p>

	5回	行動制限と安全 担当者:廣川、嵐、加藤
	6回	自身のセルフケアモニタリング①: アセスメント 担当者:嵐
	7回	依存症を持つ人の社会参加 (アルコール・薬物依存症をもつ当事者ゲストスピーカー) 担当者:廣川
	8回	リエゾン精神看護と看護師のメンタルヘルス 担当者:嵐
	9回	自身のセルフケアモニタリング②: 評価 担当者:嵐
	10回	精神障害を持つ人の社会参加 (統合失調症をもつ当事者ゲストスピーカー) 担当者:廣川
	11回	看護計画の実際: 1. 事例紹介・問題把握のプロセス・アセスメント 担当者:廣川、嵐、加藤
	12回	看護計画の実際: 2. 精神状態のアセスメント・ケアプランの検討 担当者:廣川、嵐、加藤
	13回	看護計画の実際: 3. ケアプラン発表① 担当者:廣川、嵐、加藤
	14回	看護計画の実際: 3. ケアプラン発表② 担当者:廣川、嵐、加藤
成績評価の方法	定期試験60%、演習と発表20%、レポート提出20%	
教科書	メディカ出版 (デジタル・ナーシンググラフィカ) 精神看護学①・精神看護学②	
参考書	医歯薬出版「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」	
事前・事後学修	〈精神看護学概論〉〈精神看護学方法論〉について復習をして授業に臨むこと。また、授業後は、その都度指示する事項の復習を必ず行い、理解を深めること。	
その他アドバイス	精神障害を扱ったDVDが出ています。ぜひみてください。「ツレがうつになりまして」、「カッコーの巣の上で」、「ビューティフル・マインド」など。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
荒木田 美香子、永田 智子、遠藤 雅幸			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>ロールプレイ</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	健康を維持するための保健行動の獲得、疾患をマネジメントするための保健指導、対象者及び家族に合わせた健康増進、自立の促進等を目指した健康教育について方法の選択の考え方や支援の在り方について学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 保健指導及び健康教育に活用できる理論やモデルを説明することができる</p> <p>2) 生活習慣病に対する保健指導をロールプレイで実施することができる</p> <p>3) 対象者の属性や背景を考慮した健康教育案を作成することができる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 看護における保健指導・健康教育の場面と教育的機能の必要性</p> <p>2回 保健指導に活用できる理論</p> <p>3回 健康教育に活用できる理論</p> <p>4回 保健指導の実際（ロールプレイを含む）</p> <p>5回 生活習慣病と保健指導（ロールプレイの実施）</p>

	6回	健康教育案を作成してみよう
	7回	健康教育案の発表
成績評価の方法	課題50%、グループワークへの参画態度20%、ミニレポート30%	
教科書	特に定めない。	
参考書	「ヘルスリテラシー:健康教育の新しいキーワード」(大修館書店)「中範囲理論入門―事例を通してやさしく学ぶ」(日総研出版)	
事前・事後学修	保険指導や健康教育の内容について、学習したり、メンバーと協力をして健康教育案を作成してください	
その他アドバイス		
オフィスアワー	水曜日の昼休み	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
淵田 英津子、山崎 由美子、糸井 裕子、木全 真理			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	--

科目の概要	人口の高齢化に伴う多様な健康・生活課題が生じる中で、住み慣れた地域で生活を継続できる地域包括ケアシステムの構築に必要な多職種協働の必要性を学ぶ。特に高齢者の健康に焦点をあて、保健医療福祉に関する専門職の役割と機能について学ぶ。また、多職種が関わる 病院に焦点をあて、保健医療福祉に関する専門職が実践できるケア及び連携・協働を進めるための方法論を学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 複合的な健康課題を持つ対象者を支援するための多職種協働の概念を説明できる</p> <p>2) 複合的な健康課題を持つ対象者を支援するための保健医療福祉に関する専門職の役割を説明できる</p> <p>3) 複合的な健康課題を持つ対象者を支援するための多職種協働の効果的な方法について説明できる</p> <p>4) 複合的な健康課題を持つ対象者を支援するための多職種協働の実際を知り、保健医療福祉に関する専門職の役割・機能を説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1 多職種協働、地域包括ケアシステムの概念</p> <p>2 母と子の地域包括ケアシステム（1）</p> <p>3 母と子の地域包括ケアシステム（2）</p> <p>4 リハビリテーションと地域包括ケアシステム</p>

	5	緩和ケアにおける地域包括ケアシステム
	6	地域包括ケアシステムとケアマネージャー
	7	高齢者の地域包括ケアシステム (1)
	8	高齢者の地域包括ケアシステム (2)
	9	高齢者の地域包括ケアシステム (3)
	10	高齢者の地域包括ケアシステム (4)
	11	高齢者の地域包括ケアシステム (5)
	12	病院の高齢者の地域包括ケアシステム (6)
	13	専門職と地域との協働, グループワーク
	14	専門職と地域との協働, 発表
成績評価の方法	課題レポート60点、講義毎の振り返り40点	
教科書	必要な資料は、その都度提示します。	
参考書	講義の中で、提示します。	
事前・事後学修	事前に参考書に目を通しておくこと。また、授業後は、その都度指示する事項について必ず復習を行い、理解を深めること。	
その他アドバイス	看護職の役割・機能、他職種の役割・機能に興味・関心を持ち、主体的か積極的に講義やグループワークに参加するように努めてください。グループワークでは、他者の意見を聞き、自分の意見を述べる力の向上を意識してください。また、各講義を関連付けて、多職種協同により包括的に高齢者を支援する意義を考えるようにしてください。	
オフィスアワー	原則、月曜日、12時30分～13時	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	必修科目
担当教員			
糸井 裕子、坂元 昇、石井 美恵子			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) 川崎市職員の活用</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>□2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	<p>災害発生に備えた心構えと支援方法、看護職の役割を学ぶ。また、過去の災害を参考にした災害サイクルや被災者の状況に応じた基本的な看護について学ぶ。災害に関する法令や自治体における防災対策の事例等についても学ぶ。</p> <p>【別表1 個人・家族・集団・組織の支援、公衆衛生看護活動展開論】、【別表3 看護の統合と実践】</p>
授業の到達目標	<p>1) 法令・災害看護の概念、災害サイクルについて説明できる</p> <p>2) トリアージの意義、概念について説明できる</p> <p>3) 災害各期における看護職の役割を説明できる</p> <p>4) DMAT、DPATについて概要を説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 災害看護の概要（災害サイクル：予備期を含む、法的整備、多職種連携）担当者：石井</p> <p>2回 災害の急性期看護（トリアージを含む）担当者：糸井</p> <p>3回 避難所と避難所におけるケア 担当者：石井</p> <p>4回 災害の亜急性期看護・回復期看護 担当者：糸井</p>

	5回	DMATの実際 担当者：千島
	6回	災害とこころのケア、DPAT 担当者：坂元・石田
	7回	自治体における防災体制の実際 担当者：川崎市職員
成績評価の方法	試験60%、グループワークへの参画態度10%、ミニレポート30%	
教科書	(デジタルナーシンググラフィカ) 「災害看護」	
参考書	適宜、提示する。	
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後は、その都度指示する事項について、必ず復習を行い、理解を深めること。	
その他アドバイス		
オフィスアワー	原則として、毎週金の9:00~10:30、201研究室にきてください。 (事前にメールで連絡しmアポイントを取ってください) 連絡先は、大学ポータルサイトを参照。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	必修科目
担当教員			
豊増 佳子、山崎 由美子			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	組織における看護の役割、責任、リスクマネジメントについて学ぶ。また、病院における組織体制や医療事故防止とリスクマネジメントについての取り組み状況を学び、必要なマネジメント能力について身につける。 【別表1 公衆衛生看護管理論】、【別表3 看護の統合と実践】
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の情報と意思決定、看護マネジメントの本質と看護マネジメントの過程について説明できる</li> <li>2) 組織とは何か、組織における看護の役割、責任について説明できる</li> <li>3) 看護マネジメントにおけるリーダーシップ、メンバーシップについて説明できる</li> <li>4) 資源としての人材、物品、予算、時間、情報のマネジメントについて説明できる</li> <li>5) 看護マネジメントにおける法制度等の背景について説明できる</li> <li>6) 看護の質保証、リスクマネジメントについて説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 看護マネジメント総論：看護マネジメントの本質、看護サービスと意思決定</p> <p>2回 組織論：組織とは、組織管理、組織における看護の役割、責任</p> <p>3回 リーダーシップとマネジメント</p> <p>4回 法・政策・制度・看護提供の場と看護マネジメント、倫理的課題</p>

	5回            リスクマネジメントと医療事故、感染管理—リスクマネジメントの実際— 6回            看護の質保証と資源管理—物的資源、予算、時間の管理— 7回            看護の質保証と資源管理—人的資源、情報の管理—
成績評価の方法	試験80%、アクティブラーニング時の成果物・態度20%
教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 （メディカ出版）
参考書	上泉和子他（2018）、看護の統合と実践[1] 看護管理、医学書院 手島恵、藤本幸三(2023)、看護学テキストNICE 看護管理学、南江堂 山内豊明、荒井有美(2022)、看護学テキストNICE 医療安全、南江堂
事前・事後学修	事前に教科書を熟読してから授業に臨むこと。また、授業後は、その都度指示する事項について、必ず復習を行い、理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	1	選択科目
担当教員			
田中 千代、山崎 由美子、難波 貴代			
15時間（7回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <p><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>E その他</p> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <p><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</p> <p><input type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p> <p>対応するCP</p> <p><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</p> <p><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</p> <p><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>
-------	---

科目の概要	療養者と家族を一単位とした観点での看護を理解するために、家族の定義、家族の形態・機能、家族周期、家族システム等を含む家族看護の理論・モデル、家族理解とアプローチ等、家族支援の方法について学ぶ。
授業の到達目標	<p>1) 家族の概念について説明できる</p> <p>2) 家族の発達段階に応じた機能を説明できる</p> <p>3) 家族理論などを活用して、家族看護において家族の理解に必要な視点を説明できる</p> <p>4) 家族支援の方法について説明できる</p>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 家族の定義、家族の形態、家族の機能と役割、家族看護とは 担当者：田中（千）</p> <p>2回 家族を理解するための理論 担当者：田中（千）</p> <p>3回 家族の理解に必要な視点、家族看護における援助の方法と看護師の役割 担当者：田中（千）</p> <p>4回 地域社会と家族 担当者：難波</p> <p>5回 不妊、出産に関する家族の支援 担当者：山崎</p>

	6回 障害を持つ子どもと家族への支援 担当者：田中（千） 7回 高齢者虐待のある家族への支援 担当者：難波
成績評価の方法	課題レポート及びミニレポート 100%
教科書	なし
参考書	なし（必要に応じ提示する）
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマについて1・2年次の授業での学習内容に関連する内容を各自で復習し、授業に臨むこと。授業後には、その都度指示する事項について復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	保健師課程の履修者は履修すること。
オフィスアワー	時間割確定後に明示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	1	必修科目
担当教員			
佐藤 文、荒木田 美香子、木全 真理			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>□(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>□5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	看護研究の成果は看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。看護研究の必要性を理解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学における研究の意義・倫理の必要性を学ぶ(研究論文のクリティーク、看護実践への文献活用の実際を含む)。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護研究の意義について説明できる</li> <li>2) 看護研究の基本的なプロセスについて説明できる</li> <li>3) 研究方法の種類について説明できる</li> <li>4) 研究計画書に組み込む事項をあげることができる</li> <li>5) 研究を行う際の倫理的配慮について説明できる</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 EBNって何だろう、看護実践と看護研究 担当者:佐藤</p> <p>2回 研究の種類 担当者:木全</p> <p>3回 研究の質 担当者:木全</p> <p>4回 文献検索の方法 担当者:木全</p>

	5回	文献検索の実際 担当者:佐藤, 木全
	6回	量的な研究をクリティークしてみよう 担当者:木全, 佐藤
	7回	質的な研究をクリティークしてみよう 担当者:木全, 佐藤
	8回	リサーチクエスションとは 担当者:佐藤
	9回	リサーチクエスションを作ってみよう 担当者:佐藤, 木全
	10回	研究の倫理と倫理委員会 担当者:荒木田
	11回	研究計画書の構成 担当者:佐藤
	12回	研究計画書を作ってみよう 担当者:佐藤, 木全
	13回	研究計画書を作ってみよう (発表:前半) 担当者:佐藤, 荒木田, 木全
	14回	研究計画書を作ってみよう (発表:後半) 担当者:佐藤, 荒木田, 木全
成績評価の方法	課題60%、グループワークへの参画態度20%、ミニレポート20%	
教科書	「看護研究」(ナーシング・グラフィカ メディカ出版)	
参考書	「黒田裕子の看護研究 Step by Step」(医学書院)	
事前・事後学修	事前に教科書や参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習を行い、理解を深めること。	
その他アドバイス	4年生の看護研究につながる科目ですので、しっかり学びましょう。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
洲崎 好香、荒木田 美香子			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>□C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ。 行政、産業、学校など場を踏まえたヘルスプロモーションの展開方法の実際を学ぶ。
授業の到達目標	1) 公衆衛生看護の定義及び理念について説明できる 2) 公衆衛生看護の対象及び活動の場について説明できる 3) 公衆衛生看護の歴史を学び、新たな地域看護活動や健康課題について説明できる
履修条件	なし
授業計画	<p>1回 公衆衛生看護学の概念と機能 洲崎</p> <p>2回 公衆衛生看護活動の意義 予防の概念 健康の概念 洲崎</p> <p>3回 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション） 洲崎</p> <p>4回 公衆衛生看護の歴史 公衆衛生看護の創成期 洲崎</p> <p>5回 公衆衛生看護活動の場による特性（保健所と保健センター等） 洲崎</p>

	6回	公衆衛生看護活動の実際 (1) 地域で暮らす人々とは 川崎市の動向 在日外国人の動向や環境 洲崎
	7回	公衆衛生看護活動の実際 (2) 地域包括ケアシステム 洲崎
	8回	公衆衛生看護活動の実際 (3) 学校保健 荒木田
	9回	公衆衛生看護活動の実際 (4) 産業保健 洲崎
	10回	地域の人々の保健関連行動 (1) 健康課題への個人対処行動 荒木田
	11回	地域の人々の保健関連行動 (1) 健康課題への個人対処行動 荒木田
	12回	社会活動の変化と健康課題 (1) 社会情勢の変遷 荒木田
	13回	社会活動の変化と健康課題 (2) 保健行動とヘルスリテラシー 荒木田
	14回	公衆衛生看護の課題 (川崎市) と展望 洲崎
成績評価の方法	定期試験70% 課題 (ミニレポート) 30% フィードバック: 課題についてはコメントをつけて返却	
教科書	エッセンシャル地域看護学第2版 医歯薬出版	
参考書	「国民衛生の動向」 ((財)厚生労働統計協会) 「保健師業務要覧」 (日本看護協会出版会)	
事前・事後学修	事前に提示する課題等に取り組んでから、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。	
その他アドバイス	提示された課題は、積極的に取り組んで下さい。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

講義科目名称： 公衆衛生看護学対象論 I（ライフステージ別） 授業コード： E09200A

英文科目名称： Theory of Public Health Nursing I (By Life Stage)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年生	2	必修科目
担当教員			
洲崎 好香、遠藤 雅幸、荒木田 美香子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<p>公衆衛生看護活動の場に応じたアセスメントと支援方法を具体的に学ぶ。質の高い公衆衛生看護を提供するための取組を理解する目的で、公衆衛生看護管理についての基礎的な概念、管理方法について学ぶ。特にライフステージの観点から、潜在的・顕在的な健康課題とその関連要因や環境との相互作用について学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動における活動の場の特徴を説明できる</li> <li>2) 地域の健康問題（課題）や健康ニーズを把握するための方法を理解できる</li> <li>3) 法律・制度に基づき地域特性に合わせた地域看護管理や地域保健計画の展開と保健師の役割について説明できる</li> <li>4) 対象の自立やQOL向上を目指した地域包括ケアシステムの構築について説明できる</li> <li>5) 現代社会における健康課題をアセスメントし、説明できる</li> </ol>		
履修条件	なし		
授業計画	1回	母子保健活動①：母子保健の理念、健やか親子 21、児童虐待防止の取組み	洲崎
	2回	母子保健活動②：子育て支援、乳幼児健康診断（プチ演習）	洲崎
	3回	成人保健活動：成人保健の理念、健康日本21、特定健康診査、特定保健指導、がん検診	遠藤

	4回	高齢者保健活動：高齢者保健の理念 介護予防 遠藤	
	5回	感染症保健活動：感染症保健の理念、結核・HIV等の対策 遠藤	
	6回	難病保健活動：障害者（児）保健活動、健康管理と職業生活の両立支援を含めた支援活動と地域支援システムの理解 遠藤	
	7回	精神保健活動：精神保健の理念、うつ病・自殺対策 洲崎	
	8回	災害・健康危機管理：災害とは、災害サイクルと保健活動等 洲崎	
	9回	公衆衛生看護管理：事業管理、予算管理 洲崎	
	10回	公衆衛生看護管理：人材管理、研究と質の管理 洲崎	
	11回	現代社会における健康課題のアセスメント①（グループワーク） 新聞記事等から関心のあるテーマを選び、なぜ問題になるのか考察する 洲崎・遠藤	
	12回	現代社会における健康課題のアセスメント②（グループワーク） 他者にわかりやすいように発表資料を作成する 洲崎・遠藤	
	13回	現代社会における健康課題のアセスメント③（グループワーク） 発表会 洲崎・遠藤	
	14回	グループワークのまとめ：保健師の施策化・事業化 洲崎・遠藤	
成績評価の方法	定期試験60%、グループワーク40%		
教科書	エッセンシャル地域看護学第2版 医歯薬出版		
参考書	「国民衛生の動向」（(財)厚生労働統計協会）「保健師業務要覧」（日本看護協会出版会）		
事前・事後学修	事前に提示する課題等に取り組んでから、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。		
その他アドバイス	提示された課題は、積極的に取り組んで下さい。		
オフィスアワー	時間割確定後に明示		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	3年生	2	選択科目
担当教員			
洲崎 好香、荒木田 美香子			
30時間（14回）			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(III.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/> 4) 論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	学校保健・学校看護、産業保健・産業看護の歴史、活動の目的、法規などを理解し、それぞれの場における具体的な活動の展開方法及び地域保健との連携について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校保健、産業保健の意義を説明できる</li> <li>2) 学校保健、産業保健の仕組みと法制度を説明できる</li> <li>3) 学校保健、産業保健の保健医療職の役割と機能を説明できる</li> <li>4) 職業病・作業関連疾患を理解し、QWLを高める保健活動を説明できる</li> <li>5) 学齢期の心身の発達と健康状態を理解し、豊かな学校生活のための保健活動を説明できる</li> <li>6) 学校感染症とその予防法について説明できる</li> <li>7) 学校保健、産業保健の国内外の動向とその課題を説明できる</li> </ol>
履修条件	保健師課程履修者に限る。
授業計画	<p>1回 学校保健の仕組みと法制度（WHOとヘルスプロモーション）学校環境 担当者：荒木田</p> <p>2回 学校保健活動の実際：養護教諭・学校医の役割、多職種連携 担当者：荒木田</p> <p>3回 子どもの発達と健康：幼児・学童期、思春期・青年期における発達課題と健康 リスクをもつ児童生徒・救急処置を必要とする児童生徒への支援 担当者：荒木田</p> <p>4回 学校における公衆衛生看護の展開：家族のアセスメント 担当者：荒木田</p>

	<p>多職種との連携 発達障害における課題や支援</p> <p>5回 学校保健に関する健康分析：学校保健統計調査と活用法 担当者：荒木田</p> <p>6回 学校保健における健康危機管理：学校の危機管理能力 担当者：荒木田 事故・事件、災害や感染症に対する学校保健の役割</p> <p>7回 国際学校保健：海外子女・帰国子女・在日する外国人児童生徒への教育の現状 担当者：荒木田 異文化社会で生活してきた子どもへの学校保健としての対応、諸外国の学校保健</p> <p>8回 産業における公衆衛生看護：産業保健の役割と意義 担当者：洲崎 産業保健の歴史、産業保健師の役割、専門職としての倫理</p> <p>9回 産業保健を支える行政体系と法体系：産業保健管理体制 担当者：洲崎 労働基準法や労働安全衛生法</p> <p>10回 変化する社会における労働と健康：雇用制度 担当者：洲崎 労働生活と健康、障害をもつ労働者</p> <p>11回 産業保健に関する健康の分析ツール：労働衛生統計 担当者：洲崎 人間工学の活用の実際</p> <p>12回 産業における公衆衛生活動の展開：組織的展開 担当者：洲崎 安全衛生計画、他職種との協働</p> <p>13回 産業における公衆衛生看護の実際：ヘルスプロモーション 担当者：洲崎 健康リスクをもつ労働者</p> <p>14回 危機における事業継続と産業保健：リスクマネジメントシステム 担当者：洲崎 国際産業保健：海外赴任と健康管理、外国人労働者の健康</p>
成績評価の方法	定期試験70%、課題（ミニレポート）30%
教科書	「公衆衛生看護活動Ⅱ：学校保健・産業保健」（医歯薬出版）
参考書	「国民衛生の動向」（（財）厚生労働統計協会）「保健師業務要覧」（日本看護協会出版会）
事前・事後学修	事前に提示する課題等に取り組んでから、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	提示された課題は、積極的に取り組んで下さい。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	2	選択科目
担当教員			
洲崎 好香、遠藤 雅幸、原田 若奈			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>□D 実習/フィールドワーク</li> <li>■E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他) 模擬患者の活用</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	<公衆衛生看護学概論>での学びを基盤として、公衆衛生看護活動を行う際に必要となる理論、保健指導の方法、健康教育の方法、グループ支援等、公衆衛生看護活動における基本的な看護について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健指導の概念と理論について説明できる</li> <li>2) 家族の概念及び理論について説明できる</li> <li>3) 家庭訪問の意義及び一連の展開方法及び技術を身につける</li> <li>4) 健康教育の理論やプロセスを学び、健康教育企画・指導案を作成し、評価できる</li> <li>5) 家庭訪問や健康相談で把握した課題について、活用できる支援方法について説明できる</li> <li>6) 地域におけるグループ支援の方法について説明できる</li> </ol>
履修条件	保健師課程履修者に限る。
授業計画	<p>1回(5/29) 保健指導の概念と理論：生活の場で展開されている保健指導（ICT活用事例） 担当者:洲崎</p> <p>2回(5/29) 家族看護と理論について 担当者:洲崎</p> <p>3回(6/5) コミュニケーション技術 担当者:洲崎</p> <p>4回(6/5) 家庭訪問援助の実際① 担当者:洲崎・遠藤・原田 家庭訪問の目的・対象・プロセス</p>

	5回(6/12) 家庭訪問援助の実際② 担当者:洲崎・遠藤・原田 家庭訪問の援助目標について (演習:模擬患者等)
	6回(6/12) 家庭訪問援助の実際③ 担当者:洲崎・遠藤・原田 家庭訪問援助における保健師の役割・機能の考察(演習:模擬患者等)
	7回(6/19) 健康教育の基礎となる理論やモデル 担当者:洲崎 健康相談や健康診査について
	8回(6/19) 健康教育の実際を学ぶ① 担当者:洲崎 目的、目標、評価指標の設定、教育・指導方法の考察
	9回(6/26) 健康教育の実際を学ぶ② 担当者:洲崎 健康教育企画・指導案作成
	10回(6/26) 健康教育の実際を学ぶ③ 担当者:洲崎 健康教育の実施、記録、評価
	11回(7/3) 健康教育の実際を学ぶ④ 担当者:洲崎 健康教育における保健師の役割・機能の考察:ゲストスピーカー(川崎市麻生区地域支援課保健師)
	12回(7/3) 健康教育の実際を学ぶ⑤ グループ発表とフィードバック 担当者:遠藤
	13回(7/10) 健康教育の実際を学ぶ⑥ グループ発表とフィードバック 担当者:遠藤
	14回(7/10) 地域包括ケアシステムの構築とネットワーク化 担当者:遠藤
成績評価の方法	以下について総合的に評価します。 1. 講義時間内における積極的な発言・質問等:10% 2. 個人によるレスポンスシート・レポート等の提出課題:45% 3. グループによる発表や提出課題:45%
教科書	Essential 地域看護学 第2版 (医歯薬出版株式会社)
参考書	「国民衛生の動向」((財)厚生労働統計協会) 「保健師業務要覧」(日本看護協会出版会)
事前・事後学修	事前に提示する課題等に取り組んでから、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。
その他アドバイス	提示された課題は、積極的に取り組んで下さい。
オフィスアワー	5月29日～7月10日の毎週水曜日13:10～16:40をオフィスアワーとします。他の学生やグループと時間が重ならないように、メール等でアポイントメントをとって来て下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年生	2	選択科目
担当教員			
遠藤 雅幸、洲崎 好香、原田 若奈			
30時間 (14回)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>□(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>■4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	地域看護アセスメントの意義、目的、基本的方法を学ぶ。川崎市の各区のデータを収集、分析、地区踏査を通して地域看護アセスメントを実践する。地域看護アセスメントの結果から保健事業計画につなげるプロセスを学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域看護アセスメントに必要な情報を説明できる</li> <li>2) 地区踏査の意義、方法を理解し、計画を立案、実施できる</li> <li>3) 収集した情報をもとに、地域看護アセスメントを実施できる</li> <li>4) 地域看護アセスメントの結果に基づいた地域の健康課題を特定し、保健事業計画を立案できる。</li> </ol>
履修条件	保健師課程履修者に限る。
授業計画	<p>1回(4/9) コミュニティ(地域)を単位とする① 担当者:遠藤 保健師課程履修者(コミュニティ・ピア)における目標の確認 保健師課程におけるコミュニティ・アセスメント論の位置付け(実習スケジュール・配置等)の確認 コミュニティ・アセスメント(地域診断)の概念</p> <p>2回(4/16) コミュニティ(地域)を単位とする② 担当者:遠藤 コミュニティ・アセスメント(地域診断)における情報収集(質的・量的データ)とアセスメント</p> <p>3回(4/23) コミュニティ(地域)を単位とする③ 担当者:遠藤 コミュニティにおけるヘルスリテラシーとエンパワメント</p>

	<p>4回(4/30) 地域を単位とする④ 担当者:洲崎 実践を導くための地域診断モデルと活用法</p> <p>5回(5/7) 実践を導くためのモデル、地域保健福祉計画 担当者:洲崎 保健事業の策定と予算</p> <p>6回(5/14) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案① 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:データ収集:人口動態・静態、健診データ</p> <p>7回(5/21) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案② 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:データ収集:保健行動など</p> <p>8回(5/28) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案③ 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:インタビュー</p> <p>9回(6/4) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案④ 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:地区踏査</p> <p>10回(6/11) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案⑤ 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:健康課題の分析</p> <p>11回(6/18) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案⑥ 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)地域(川崎市)の健康と生活:保健事業計画の立案</p> <p>12回(6/25) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案⑦ 担当者:洲崎、遠藤、原田 グループ(1~4)での発表(質疑応答)</p> <p>13回(7/2) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案⑧ 担当者:洲崎、遠藤、原田 グループ(5~8)での発表(質疑応答)</p> <p>14回(7/9) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案⑨ 担当者:洲崎、遠藤、原田 (グループワーク)質疑応答後の再情報収集や保健事業計画の修正</p>
成績評価の方法	<p>以下について総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義時間内における積極的な発言・質問等:10%</li> <li>2. 個人によるレスポンスシート・レポート等の提出課題:45%</li> <li>3. グループによる発表や提出課題:45%</li> </ol>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Essential 地域看護学 第2版(医歯薬出版株式会社)</li> <li>・公衆衛生看護学テキスト第2巻 公衆衛生看護の方法と技術 第2版(医歯薬出版株式会社)</li> </ul>
参考書	「国民衛生の動向」((財)厚生労働統計協会)「保健師業務要覧」(日本看護協会出版会)その他、講義時間内に紹介します。
事前・事後学修	事前に提示する課題等に取り組んでから、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めるようにしてください。
その他アドバイス	提示された課題は、積極的に取り組んで下さい。
オフィスアワー	4月10日~7月10日の毎週水曜日13:10~16:40をオフィスアワーとします。他の学生やグループと時間が重ならないように、メール等でアポイントメントをとって来て下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	1年生	1	必修科目
担当教員			
掛田 崇寛、豊増 佳子、青木 恵美子、岩屋 裕美、松田 真由美、田中 悠美、西坂 真理子			
45時間／5日			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	医療機関における看護職の役割について理解するとともに、その機能や各部門との連携について学ぶ。また、実際の看護提供の場を見学することで、入院している対象者の生活について理解するとともに、看護職としての意識づけにつなげる。さらに、患者とのコミュニケーションやバイタルサインの測定を通じて、看護とは何かを考え、自らの課題を把握し、主体的に看護を学ぶ姿勢を身に付ける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者との関りを通じて入院生活の状況や気持ちについて理解できる。</li> <li>2. 患者に提供される看護の実際及び看護職の役割について学ぶ。</li> <li>3. 看護提供の場としての医療機関の役割・機能について説明できる。</li> <li>4. 看護学生としての責任ある行動と態度を養う。</li> </ol>
履修条件	<看護学原論>を履修していること。
授業計画	<p>第1日目 (臨地) 病院オリエンテーション・看護部長講義・病院ラウンド・病棟実習 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、田中、西坂</p> <p>第2日目 (臨地) 臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、田中、西坂</p> <p>第3日目 (臨地) 臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、田中、西坂</p>

	<p>第4日目 (臨地) 臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、田中、西坂</p> <p>第5日目 (学内) 実習全体反省会、記録整理、個別面談 担当者：掛田、豊増、青木、岩屋、田中、西坂</p>
成績評価の方法	実習目標及びその評価表に基づいて行う。具体的には実習目標に対する到達度及び実習態度・姿勢で92%、実習後レポート8%で総合的に評価する。
教科書	特に定めない。
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	実習オリエンテーションで提示する課題に取り組むとともに、実習期間中に要求される姿勢や態度、基本的知識を踏まえて実習に臨むこと。また、日々の実習後は、その都度指示される事項の振り返りを行うとともに、テキストなどの書籍や映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	後期：木曜4限

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	2	必修科目
担当教員			
掛田 崇寛、豊増 佳子、岩屋 裕美、青木 恵美子、田中 悠美、松田 真由美、西坂 真理子、平井 孝次郎、岩瀬 和恵、櫻井 亜古			
90時間(10日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	入院生活を送っている対象を受け持ち、看護過程を展開しながら対象者の理解を深めるとともに、その時々の看護ケアについて、その意味や課題を検討しながら基礎的な実践能力を養う。また、実習を通してアセスメントの重要性や看護過程の一連のプロセスを体験的に学ぶ。さらに、対象者やその家族、医療スタッフとの関わりを通じて、看護職として要求される倫理観及びその態度を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者と良好な人間関係を築きながら、療養生活をしている対象について説明できる。</li> <li>2. 対象者の健康上の問題が、日常生活にどのような影響を及ぼしているか理解し、問題を明確化した上で看護計画を立案することができる。</li> <li>3. 対象者の療養を含めた日常生活行動において必要とされる看護を計画に基づいて実践し、その評価を行う。</li> <li>4. 安全・安楽をふまえた看護実践を通じて、対象者の権利擁護および看護職としての倫理的配慮について説明できる。</li> </ol>
履修条件	「看護学原論」を単位修得していること。
授業計画	<p>1日目 看護部長講話・病院及び病棟オリエンテーション・臨地実習（受持担当開始）担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>2日目 臨地実習（情報収集、バイタルサイン測定、収集情報の整理・分析）担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p>

	<p>3日目 学内実習（収集情報の整理・分析、健康上の問題の明確化） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂 学生は患者1名を継続的に受け持ち、日々の観察や情報収集、バイタルサイン測定を行いながら看護過程を展開する。また、実習第1週目の木曜日は病棟中間カンファレンスを行い、次週にむけての患者の病態や状況を基に健康上の問題を明確化するとともに、</p> <p>4日目 臨地実習（情報収集、バイタルサイン測定収集情報の整理・分析、健康上の問題の明確化、優先順位の検討） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>5日目 臨地実習（中間カンファレンスでのプレゼンテーション、記録整理・次週の実習準備等） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>6日目 臨地実習（看護計画に基づいた実践と評価、計画を見直しながらの実習展開） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>7日目 臨地実習（看護計画に基づいた実践と評価、計画を見直しながらの実習展開） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>8日目 臨地実習（看護計画に基づいた実践と評価、計画を見直しながらの実習展開） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>9日目 臨地実習（臨地実習病棟最終カンファレンスでのプレゼンテーション、実習総括） 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p> <p>10日目 学内実習：実習まとめ 担当者：掛田、豊増、岩屋、青木、田中、松田、西坂</p>
成績評価の方法	成績評価は実習目標の到達度を評価表に基づいて行う。具体的には、事前課題を行った上で実習に臨むとともに、実習期間中の学習姿勢や取り組み内容、記録物から成る評価表の90%に加えて、事後課題レポート10%を加えた評価で総合的に判断する。
教科書	特に定めない。
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	実習オリエンテーションにおいて事前学習及び課題について提示を受けるとともに、実習期間中に要求される基礎的知識や受け持ち担当患者候補になりうる代表的疾患や症状の特徴について、よく理解し実習に臨むこと。また、日々の実習後は、その都度指示する事項の振り返りを行うとともに、テキストや参考書、映像教材などを利用して対象者や看護展開、実践内容についての理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	実習期間中は適宜、臨地にて行う。また、実習前後や帰学日に関しては平日16:40～17:15の間、又は事前にアポをとって時間調整をおこなうこととする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	2	必修科目
担当教員			
糸井 裕子、牛尾 陽子、松田 有子、東森 由香、平井 孝次郎、岩瀬 和恵、杉原 真裕子			
90時間(10日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	慢性的経過をたどり生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象や家族の身体的、精神的、社会的苦痛の緩和について理解を深め、日常生活の自立/自律に向けた回復過程を支援する。また対象の病態や、治療とその影響、合併症予防に適した看護を実践できる基本的な能力を身に付ける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性的な経過をたどり、生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象や家族の顕在、または潜在する健康問題を生活機能面から説明できる</li> <li>2) セルフケアの維持・促進を目指し、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる</li> <li>3) 慢性的な経過をたどり、生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象や家族を尊重したコミュニケーションを図り、援助関係を築ける</li> <li>4) 慢性的な経過をたどり、生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象や家族を主体とするチームケアにおいて、多職種との連携・協働の重要性を理解し、看護職の果たす役割を説明できる</li> <li>5) 成人期と老年期におけるライフステージ、社会的役割及び疾病の成り立ち、病態変化の連続性について説明できる</li> <li>6) 専門職者として、看護倫理を意識した行動ができる</li> <li>7) 実践の振り返りを通して、看護職としての自己の在り方を省察できる</li> </ol>
履修条件	「成人看護学概論」、「老年看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>1日目 学内演習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 オリエンテーション、事前学修、技術演習</p> <p>2日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原</p>

	施設オリエンテーション、患者選定(慢性的経過をたどり生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象)、情報収集 3日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 データ収集、データの分析 4日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 データ分析、統合 5日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 問題の明確化 6日目 学内演習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 看護過程の整理、技術演習 7日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 計画に基づく実施 8日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 計画に基づく実施・ケースカンファレンス 9日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 修正計画に基づく実施 10日目 臨地実習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 最終カンファレンス、記録の整理、振り返り
成績評価の方法	ルーブリック評価表に基づき到達状況を評価:100%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安酸 史子他、成人看護学概論(第3版)、メディカ出版、2015</li> <li>・看護過程展開ガイド:任 和子編著、照林社、2015</li> <li>・系統看護学講座 専門分野II 成人看護学②、③、⑤、⑥、⑧、⑩、⑭、医学書院</li> <li>・宮下光令(編) ナーシング・グラフィカ成人看護学〈6〉緩和ケア・第2版・メディカ出版・2016</li> <li>・堀内ふき(編) ナーシング・グラフィカ老年看護学〈1〉高齢者の健康と生涯・第6版・メディカ出版・2020</li> <li>・堀内ふき(編) ナーシング・グラフィカ老年看護学〈2〉高齢者看護の実践・第5版・メディカ出版・2020</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氏家幸子監修・C.慢性疾患患者の看護・第3版・廣川書店・2005</li> <li>・安酸史子他編・セルフマネジメント・第3版・メディカ出版・2015</li> </ul>
事前・事後学修	実習前に課題が提示されるため、計画的に課題を行い、実習初日に持参する。また実習で必要な看護技術の課題は、自己学修時間などを活用して、演習室にて練習を行ってください。
その他アドバイス	本科目は、成人看護学及び老年看護学の概論、方法論、演習を基盤に展開する科目である。これまでの学修事項をよく復習して臨んでください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	2	必修科目
担当教員			
松田 有子、牛尾 陽子、糸井 裕子、東森 由香、平井 孝次郎、杉原 真裕子			
90時間(10日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	急速に健康状態が変化する（周術期や急激な病態の変化、救命処置を必要としている等）対象の病態や、治療とその影響について、対象特性と健康状態を踏まえて看護を実践する基本的な能力を身に付ける。また、対象を支える家族の身体的、心理的、社会的側面について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急速に健康状態が変化する対象と家族の特徴を生活機能面から説明できる</li> <li>2) 急速に健康状態が変化する対象の看護計画を立案し、実践した援助の評価ができる</li> <li>3) 急速に健康状態が変化する対象と家族の受容、適応を理解したコミュニケーションを図り、援助関係を築ける</li> <li>4) 急速に健康状態が変化する対象と家族を主体とするチームケア、チーム医療において、多職種との連携・協働の重要性を理解し、看護職の果たす役割を考察する</li> <li>5) 成人期と老年期におけるライフステージ、社会的役割及び疾病の成り立ち、病態変化の連続性について説明できる</li> <li>6) 看護職として、看護倫理を意識した行動ができる</li> <li>7) 実践の振り返りを通して、看護職としての自己の在り方を省察する</li> </ol>
履修条件	「成人看護学概論」、「老年看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>1日目 学内演習 オリエンテーション、事前学修、技術演習</p> <p>2日目 臨地実習 施設オリエンテーション、患者選定(急速に健康状態が変化する対象)、情報収集</p>

	3日目	臨地実習 データ収集、データの分析
	4日目	臨地実習 データ分析、統合
	5日目	臨地実習 問題の明確化
	6日目	学内演習 看護過程の整理、技術演習
	7日目	臨地実習 計画に基づく実施
	8日目	臨地実習 計画に基づく実施・ケースカンファレンス
	9日目	臨地実習 修正計画に基づく実施
	10日目	臨地実習 最終カンファレンス、記録の整理、振り返り
成績評価の方法	ルーブリック評価表に基づき到達状況を評価：100%	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中島恵美子(編) ナーシング・グラフィカ成人看護学〈4〉 周術期看護・第4版・メディカ出版・2020</li> <li>・堀内ふき(編) ナーシング・グラフィカ老年看護学〈1〉 高齢者の健康と生涯・第6版・メディカ出版・2020</li> <li>・堀内ふき(編) ナーシング・グラフィカ老年看護学〈2〉 高齢者看護の実践・第5版・メディカ出版・2020</li> </ul>	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床臨床外科看護総論 第11版、矢永勝彦他 医学書院</li> <li>・看護過程展開ガイド：任 和子編著、照林社、2015</li> <li>・成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 第2版(林直子ら編集、南江堂, 2015)</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②、③、⑤、⑦、⑧、⑨、⑩、医学書院</li> </ul>	
事前・事後学修	実習前に課題が提示されるため、計画的に課題を行い、実習初日に持参する。また実習で必要な看護技術の課題は、自己学修時間などを活用して、演習室にて練習を行ってください。	
その他アドバイス	本科目は、成人看護学及び老年看護学の概論、方法論、演習を基盤に展開する科目である。これまでの学修事項をよく復習して臨んでください。	
オフィスアワー	時間割確定後に明示	

講義科目名称： 成人・老年看護学実習Ⅲ（セルフケア支援） 授業コード： E10300A

英文科目名称： Practicum in Adult and Gerontological Nursing III  
(Self-Care Support)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
牛尾 陽子、糸井 裕子、松田 有子、東森 由香、平井 孝次郎、岩瀬 和恵、杉原 真裕子			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	外来通院しながら在宅で療養している対象や家族への看護支援や、外来看護に関する基礎的な概念、看護職の役割を学ぶ。がん化学療法、糖尿病指導、フットケア対応場面などを体験する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外来で提供されている看護の概要を説明できる</li> <li>2) 入院から退院後に地域に戻る際の切れ目ない看護の提供について説明できる</li> <li>3) 外来通院しながら在宅で療養している対象や家族の特徴を説明できる</li> <li>4) 健康を維持するための継続的なセルフケア支援について説明できる</li> <li>5) 成人期と老年期におけるライフステージ、社会的役割及び疾病の成り立ち、病態変化の連続性について説明できる</li> </ol>
履修条件	「成人看護学概論」、「老年看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>1日目 学内演習：オリエンテーション、事前学修、技術演習 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原</p> <p>2日目 臨地実習(外来)：シャドーイングおよびコミュニケーション 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原 がん化学療法・がん放射線療法を受けている対象と家族の特徴とセルフケア支援・ショートカンファレンス</p> <p>3日目 臨地実習(外来)：シャドーイングおよびコミュニケーション 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原</p>

	<p>透析療法を受けている対象と家族の特徴とセルフケア支援・ショートカンファレンス</p> <p>4日目 臨地実習（外来）：シャドーイングおよびコミュニケーション 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原</p> <p>5日目 臨地実習（外来）：全体カンファレンス：外来看護の特徴 担当者:糸井、松田、牛尾、平井、岩瀬、杉原</p>
成績評価の方法	ループリック評価表に基づき到達状況を評価：100%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安酸 史子他、成人看護学概論（第3版）、メディカ出版、2015</li> <li>・看護過程展開ガイド：任 和子編著、照林社、2015</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑭、医学書院</li> <li>・宮下光令（編）．．ナースィング・グラフィカ成人看護学〈6〉緩和ケア 第2版・メディカ出版・2016</li> <li>・堀内ふき（編） ナースィング・グラフィカ老年看護学〈1〉高齢者の健康と生涯 第6版・メディカ出版・2020</li> <li>・堀内ふき（編） ナースィング・グラフィカ老年看護学〈2〉高齢者看護の実践 第5版・メディカ出版・2020</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氏家幸子監修・C.慢性疾患患者の看護・第3版・廣川書店・2005</li> <li>・安酸史子他編・セルフマネジメント・第3版・メディカ出版・2015</li> </ul>
事前・事後学修	実習前に課題が提示されるため、計画的に課題を行い、実習初日に持参する。また実習で必要な看護技術の課題は、自己学修時間などを活用して、演習室にて練習を行ってください。
その他アドバイス	本科目は、成人看護学及び老年看護学の概論、方法論、演習を基盤に展開する科目である。これまでの学修事項をよく復習して臨んでください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

講義科目名称： 老年看護学実習 I（リハビリテーション看護） 授業コード： E10500A

英文科目名称： Practicum in Gerontological Nursing I  
(Rehabilitation Nursing)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
佐藤 文、淵田 英津子、東森 由香、杉原 真裕子			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	介護老人保健施設に入所する高齢者を対象に、慢性期から回復し、高齢者の現存能力を活かしてその人らしい生活を継続するために必要な看護について学ぶ。また、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉サービスの実態を知り、多職種と連携して高齢者の生活の場における看護職の役割について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護老人保健施設に入所している高齢者の身体的・精神的・社会的変化について説明できる</li> <li>2) 介護老人保健施設に入所している高齢者の生活機能を維持・高めるための生活援助を検討し、指導のもと実践できる</li> <li>3) 介護老人保健施設に入所している高齢者及び家族の状況について説明できる</li> <li>4) 介護老人保健施設に従事する看護職の役割と多職種連携のあり方について説明できる</li> <li>5) 実践の振り返りを通して、看護職としての自己の在り方を省察できる</li> </ol>
履修条件	「老年看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>1日目 事前学修の確認、施設オリエンテーション、受け持ち利用者の決定、情報収集、施設でのケアプランに基づいた受け持ち利用者の援助の見学 担当者:佐藤、淵田、岩瀬、杉原</p> <p>2日目 受け持ち利用者の援助見学を通しての情報収集とアセスメント 担当者:佐藤、淵田、岩瀬、杉原 リハビリ、レクリエーションの見学・参加 カンファレンス (受け持ち利用者の現存能力とニーズについて)</p> <p>3日目 受け持ち利用者の援助見学を通しての情報収集、看護の方向性の検討 担当者:佐藤、淵田、岩瀬、杉原</p>

	カンファレンス（受け持ち利用者の看護目標と計画） 4日目・帰校日 受け持ち利用者の看護目標・看護計画の立案 担当者:佐藤、湊田、岩瀬、杉原 5日目 受け持ち利用者の援助の見学・実施、看護計画の検討 担当者:佐藤、湊田、岩瀬、杉原 カンファレンス（看護目標・計画の検討、多職種連携について）
成績評価の方法	単位認定を受ける資格は、全日出席を原則とする。 臨地での実習態度（20%）、討議や発表時の参加度（20%）、実習状況（30%）、実習記録・課題レポート（30%）から、実習目標の達成度を総合的に評価する。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	「老年看護学」の概論、方法論及び演習の授業内容を事前に復習してから、実習に臨むこと。また、実習後は、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
田中 千代、笠井 由美子、木村 紀子、村田 翔			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	健康課題をもつ子どもと家族への個別的な看護実践のための知識、技術、態度を学ぶとともに、小児看護の役割について理解を深める。特に医療の場における子どもと家族の看護について、発達段階と健康課題の特徴をふまえたアセスメントとケアニーズの抽出、看護援助の実施・評価の過程を通して、小児看護における基本的な看護実践能力を習得する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入院中の子どもを身体面・心理面・社会面から総合的に理解し、子どもや家族に必要な看護援助を明らかにすることができる。</li> <li>2) 子どもの発達段階と健康状態をふまえた看護援助を、安全・安楽に行うことができる。</li> <li>3) 実習経験をもとに小児看護の特徴を述べるができる。</li> <li>4) 子どもと家族を尊重した姿勢で実習に取り組むことができる。</li> <li>5) 子どもと家族にかかわるチームの一員として責任ある行動をとることができる。</li> </ol>
履修条件	「小児看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習場所： 川崎市立川崎病院、川崎市立多摩病院、南東北グループ医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院</p> <p>実習内容・方法： ・病棟に入院している子どもを継続的に受け持ち、情報収集とアセスメントをもとに看護援助を計画し、指導の下で実施する。 ・状況に応じて、見学実習や課題実習を行う。 ・日々、行動計画を立案し、実習指導者の確認を受けた上で実習を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスにおいて、グループメンバー間で実習体験や気づきの共有とディスカッションを行う。</li> <li>・実習初日に実習施設（病棟）における看護の特徴や日課、実習病棟の構造等についてオリエンテーションを受ける。</li> <li>・臨地での実習最終日には、各施設において、まとめのカンファレンスを行う。</li> <li>・課題に沿ってまとめのレポートを作成、提出する。</li> </ul> <p>担当者: 田中、木村、笠井、村田</p>
成績評価の方法	実習記録・レポート70%、実習内容及び実習への参加度30%により総合的に評価する
教科書	ナースンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護（メディカ出版）2023年 ナースンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術（メディカ出版）2023年 ナースンググラフィカ 小児看護学3 小児の疾患と看護（メディカ出版）2023年
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	身体的アセスメントに必要な技術や測定値・検査データの正常値、乳幼児の精神運動機能の発達について確認しておくこと。また子どもの入院時の看護、検査・処置に伴う看護、対症看護について復習しておくこと。
その他アドバイス	自己の健康管理に留意し体調を整えて実習に臨むこと
オフィスアワー	オフィスアワーは時期により異なるため、別途指示する。事前に教員にメールで連絡をとり、アポイントをとること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
田中 千代、笠井 由美子、木村 紀子、村田 翔			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	健康課題をもちながら生活する子どもの健やかな発達に向けての看護支援について学ぶ。生活の場における子どもの看護に必要な基本的実践能力を習得するとともに、長期的・継続的に医療や介助を要する子どもの家族への看護について理解を深める。また、医療・福祉・教育の多職種連携の意義とその中での看護の役割について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 療養生活を送る子どもを身体面・心理面・社会面から理解し、子どもに必要な生活上の援助を明らかにすることができる。</li> <li>2) 子どもの特性と健康状態をふまえた生活上の援助を安全・安楽に行うことができる。</li> <li>3) 子どもと家族にかかわる多職種の連携とその中での看護の役割を理解できる。</li> <li>4) 子どもと家族を尊重した姿勢で実習に取り組むことができる。</li> <li>5) 子どもと家族にかかわるチームの一員として責任ある行動をとることができる。</li> </ol>
履修条件	「小児看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習場所： 社会福祉法人三篠会ソレイユ川崎、川崎市立田島支援学校桜校、川崎市立中央支援学校、神奈川県立麻生支援学校、神奈川県立中原支援学校</p> <p>実習内容・方法： ・1名の子どもの継続的に受け持ち、実習指導者の指導の下で子どもとかわり、実習施設の看護師または教職員とともに子どもへの援助を行う。 ・情報収集とアセスメントをもとに援助計画を立案し、指導の下で実施又は見学を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々行動計画を立案し、実習指導者または指導担当の看護師又は教職員の確認を受けたうえで実習を行う。</li> <li>・カンファレンスにおいてグループメンバー間で実習体験や気づきの共有とディスカッションを行う。</li> <li>・実習初日に実習施設の特徴や日課、構造等についてオリエンテーションを受ける。</li> <li>・臨地での実習最終日には、各施設において、まとめのカンファレンスを行う</li> <li>・課題に沿ってまとめのレポートを作成、提出する</li> </ul> <p style="text-align: center;">担当者: 田中、木村、笠井、村田</p>
成績評価の方法	実習記録・レポート70、%実習内容及び実習への参加度30%により総合的に評価する
教科書	ナースンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護 (メディカ出版) 2023年 ナースンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術 (メディカ出版) 2023年 ナースンググラフィカ 小児看護学3 小児の疾患と看護 (メディカ出版) 2023年
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	身体的アセスメントに必要な技術や測定値・検査データの正常値について確認しておくこと。また障害をもつ子どもと家族の看護、療育について復習しておくこと。
その他アドバイス	自己の健康管理に留意し体調を整えて実習に臨むこと。
オフィスアワー	オフィスアワーは時期により異なるため、別途指示する。事前に教員にメールにて連絡をとり、アポイントを取る。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
山崎 由美子、五味 麻美、永田 智子			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	分娩期の特徴を理解し、母子とその家族の身体的・精神的・社会的特徴とニーズを把握し、正常な経過を促進するために必要な看護の基礎的能力を身に付ける。また、保健医療チームの一員として協働する看護職としての行動の在り方を学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦・産婦・褥婦及び家族への看護の意義や特徴を説明できる</li> <li>2) 新生児の看護の特徴を説明できる</li> <li>3) 受け持ち患者に対しアセスメント、計画立案、ケアの実施、振り返りを通して自らのケアを評価することができる</li> <li>4) 周産期の看護援助における特徴的な倫理的配慮について説明できる</li> </ol>
履修条件	「母性看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習場所：分娩機能を持つ病院において実習する。1病棟に4-5名の学生が実習する。</p> <p>実習内容：産科病棟に入院してきた母親を受け持ち、分娩、産褥期の過程を追った看護計画を立案し、ケアを実践し、ケアの評価を行う。5日間の実習の内、帰校日を設けて学修の振り返りを行う。</p> <p>指導体制：1病棟あたり1名の実習担当教員、及び病棟の臨床実習指導者が学生の指導に当たる。</p> <p>実習前オリエンテーションは、別途、日程を伝える。</p> <p>実習後に実習記録を基に、実習の成果を振り返るための面談を行う。</p> <p>担当者：山崎、五味、永田、櫻井</p>

成績評価の方法	実習内容50点、実習記録50点を総合的に判断し評価する。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版
参考書	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版
事前・事後学修	「母性看護学方法論」、「母性看護学演習」の復習をして実習に臨むこと。また、実習後は、その都度指示する事項の振り返りを行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	対象の日々の変化に対応できるように、事前学修を行って予測をしながら援助を実施していきましょう。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
山崎 由美子、五味 麻美、永田 智子			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	周産期にある母性の特徴を理解したうえで母子とその家族を対象とし、家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支えるための看護の役割を学ぶ。また、多職種との協働・連携を含め、家族の発達を支える看護の基礎的能力を身に付ける。地域における母子を対象とした健康支援の活動を体験し、母性看護の理解を深める。
授業の到達目標	1) 地域における子育て支援の目的と制度について説明できる 2) 地域における子育て支援における母性看護の役割を説明できる 3) 多職種との協働・連携を含め、家族の発達を支える看護ケアについて説明できる
履修条件	「母性看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習場所：川崎市内の助産所において実習する。1施設に2-3名の学生が実習する。</p> <p>実習内容：助産所を利用する妊婦、母親と触れ合うことにより実習を行う。妊娠期の不安、分娩後の不安や要望について把握するとともに助産師の対応を体験的に学ぶ。地域の子育て支援のシステムについて母親の意見やニーズを把握する。5日間の実習の内、帰校日を設けて学修の振り返りを行う。</p> <p>指導体制：実習担当教員は2か所程度の助産所を担当し、ローテーションすることにより指導を行う。</p> <p>実習前オリエンテーションは、別途、日程を伝える。</p> <p>実習後に実習記録を基に、実習の成果を振り返るための面接を行う。</p> <p>担当者：山崎、五味、永田、櫻井</p>

成績評価の方法	実習内容50%、実習記録50%を総合的に判断し評価する。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版
参考書	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版
事前・事後学修	「母性看護学方法論」、「母性看護学演習」の復習をして実習に臨むこと。また、実習後は、その都度指示する事項の振り返りを行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	妊娠・出産、退院後の母子が安心して生活、子育てができる支援体制について、実体験を通し学びます。なぜこのような支援が必要なのか、さらに取り組むべき課題は何なのか等、問題意識を持ちながら実習に臨みましょう。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
廣川 聖子、嵐 弘美、加藤 博之			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>□B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	心を病む人への理解を通して、日常生活援助の必要性を判断し実践する。また、患者一看護師間の治療的関わりや基礎的な看護実践能力を身に付ける。特に精神科病棟に入院している患者に対し、診断、治療、作業療法やカウンセリングを通じた治療や看護支援について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害を持つ人の特徴について生物学的、心理学的、社会的側面から説明できる</li> <li>2) 精神障害を持つ人への看護実践ができる</li> <li>3) 精神障害を持つ人との関わりを通して患者一看護師関係の在り方を説明できる</li> <li>4) 精神科病院における多職種との関わりや支援について説明できる</li> </ol>
履修条件	「精神看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習方法</p> <p>精神科病院において1人の患者を受け持ち、全体像の把握を行いケアプランを立案する。プロセスレコードを記録し、自己の傾向と援助関係を構築するコミュニケーションについて振り返りを行う。作業療法なども参加可能である。</p> <p>実習期間</p> <p>1週間：月・火・水・木曜日を病院実習、金曜日は全体でまとめを行う。</p> <p>担当者：廣川、嵐、加藤</p>
成績評価の方法	実習状況80%、記録物・レポート20%を総合し評価する。

教科書	特に定めない。
参考書	メディカ出版（デジタル・ナーシンググラフィカ）精神看護学①・精神看護学② 医歯薬出版「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」
事前・事後学修	事前に、精神疾患や精神保健福祉法、社会資源などについて復習しておくこと。また、実習後は、その都度指示する事項の振り返りなどを行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	実習期間が短いので主体的に考え望んでください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	1	必修科目
担当教員			
廣川 聖子、嵐 弘美、加藤 博之			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート</li> <li><input type="checkbox"/>B グループワーク</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</li> <li><input type="checkbox"/>E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li><input type="checkbox"/>Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li><input type="checkbox"/>4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	--

科目の概要	心を病む人への理解を通して、日常生活援助の必要性を判断し実践する。また、患者一看護師間の治療的関わりや基礎的な看護実践能力を身に付ける。さらに地域で生活する精神障害者の社会復帰施設における多職種連携の実践や必要な社会資源について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害を持つ人の特徴を生物学的、心理学的、社会的側面から説明できる</li> <li>2) デイケアや作業所などの利用者との関わりを通して、地域で生活する精神障害者の日常生活への支援の必要性を判断し実践できる</li> <li>3) 精神障害を持つ人との関わりを通して患者一看護師関係の在り方について説明できる</li> <li>4) 精神科医療にかかわる多職種の役割および連携について説明できる</li> <li>5) 対象者が社会生活を送る上で必要な社会資源について説明できる</li> </ol>
履修条件	「精神看護学概論」を単位修得していること。
授業計画	<p>実習方法</p> <p>デイケアや作業所などの利用者との関わりを通して、地域で生活する精神障害者の日常生活の必要性を判断し実践する。各プログラムの目的、意義について理解する。プロセスレコードを記録し、自己の傾向と援助関係を構築するコミュニケーションについて振り返りを行う。社会復帰施設における多職種連携の実践や支援について学ぶ。</p> <p>実習期間</p> <p>1週間：月曜日～木曜日までをデイケアまたは作業所実習、金曜日は全体でまとめを行う。</p>

担当者: 廣川、嵐、加藤	
成績評価の方法	実習状況80%、記録物・レポート20%を総合し評価する。
教科書	特に定めない。
参考書	メディカ出版(デジタル・ナーシンググラフィカ)精神看護学①・精神看護学② 医歯薬出版「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」
事前・事後学修	精神疾患や精神保健福祉法、社会資源などについて復習しておくこと。また、実習後は、その都度指示する事項の振り返りを行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	実習期間が短いので主体的に考え望んでください。
オフィスアワー	時間割確定後に明示

講義科目名称： 発達と暮らしへの支援実習（幼児と高齢者の生活） 授業コード： E11400A

英文科目名称： Practicum in Nursing Care of Children and Older Adults by Life stage

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年生	1	必修科目
担当教員			
田中 千代、東森 由香、笠井 由美子、木村 紀子、加藤 博之、杉原 真裕子、村田 翔			
45時間(5日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>□B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ.「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
-------	---

科目の概要	乳幼児や高齢者の発達特徴や生活上の特徴について共感的に理解し、コミュニケーションや日常生活支援の特徴について学ぶことにより、子ども・高齢者の健やかな発達と暮らしへの支援のための基礎的能力を養う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成長・発達の視点から、集団保育の場における乳幼児の生活の特徴を説明できる。</li> <li>2) 生涯発達の視点から、地域に集う高齢者の生活の特徴を説明できる。</li> <li>3) 乳幼児や高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションと生活上の支援について説明できる。</li> <li>4) 乳幼児や高齢者とのかかわりの中で、その人を一人の人として尊重して行動することができる。</li> </ol>
履修条件	なし
授業計画	<p>実習場所 川崎市内の保育園、及びいこいの家、老人福祉センターにて実習する。</p> <p>実習内容 1) ・保育園で2日間の実習を行い、子どもたちとふれあうことにより、健康な子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。 ・いこいの家、老人福祉センターでの実習に参加し、地域で生活する高齢者とふれあうことにより、健康な高齢者の発達、健康への願い、生活状況等について学ぶ。</p> <p>実習内容 2) ・5日目(金曜日)に大学に戻り、お互いの実習内容を交流し、学びを深める。</p>

	<p>指導体制 ・大学の教員がカンファレンスへの参加の他、随時現地を訪問し、学生の指導にあたる。</p>
成績評価の方法	課題70%、実習への参画態度20%、カンファレンスへの参画・貢献10%
教科書	<p>ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護（メディカ出版）  ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術（メディカ出版）  ナーシンググラフィカ 老年看護学1 高齢者の健康と障害（メディカ出版）  高齢者福祉のしおり 令和5年（2023）年度</p>
参考書	なし
事前・事後学修	2年前期までの小児看護学・老年看護学各領域での資料等を参照し、発達や生活状況の特徴について学習すること。具体的課題についてはオリエンテーション等にて説明する。
その他アドバイス	自己の健康管理に留意し、体調を整えて実習に臨むこと。
オフィスアワー	時間割確定後に明示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	3年生	2	選択科目
担当教員			
洲崎 好香、遠藤 雅幸、原田 若奈			
90時間(10日)			
添付ファイル			

授業の特徴	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■A ディスカッション/ディベート</li> <li>■B グループワーク</li> <li>■C プレゼンテーション</li> <li>■D 実習/フィールドワーク</li> <li>□E その他</li> </ul> <p>アクティブ・ラーニング(その他)</p> <p>対応するDP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■(1) 社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力</li> <li>■(2) 高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力</li> <li>■(3) 先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力</li> <li>■(4) 医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力</li> <li>■(5) 地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</li> </ul> <p>対応するCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□Ⅰ. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分</li> <li>□Ⅱ. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分</li> <li>■Ⅲ. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</li> </ul> <p>対応するCP(Ⅲ. 「専門」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1) カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。</li> <li>■2) 看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。</li> <li>■3) 先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。</li> <li>□4) 論理的思考力や数理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。</li> <li>■5) 人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。</li> <li>■6) 学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</li> </ul>
科目の概要	<p>&lt;公衆衛生看護学概論&gt;での学びを基盤として、主に保健所と保健所を管轄する市町村で行政における保健師活動全般を学ぶ。個人への支援、事業における保健師活動の実際を学ぶとともにコミュニティアセスメントを実践的に学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域看護アセスメントを実施し、実習先で発表を行う</li> <li>2) 保健所、市町村の保健師の活動の相違を説明できる</li> <li>3) 保健師が連携を行う機関を具体例をあげて説明できる</li> <li>4) 保健師が行う事業において、保健師の意図、活動、工夫の実際を説明できる</li> </ol>
履修条件	<p>保健師課程履修者であること。また、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護学対象論」を単位修得していること。</p>
授業計画	<p>実習場所：神奈川県内の保健所及び保健所が管轄する市町の保健センターなどで実習する。原則、1地域に学生2名を配置する。</p> <p>実習内容：健診事業、保健指導・健康相談・健康教育事業、家庭訪問、地区活動等への参加を通して、保健師活動の実際を学ぶ。また、地域の保健医療福祉に関する情報や地区踏査の情報を統合して地域看護アセスメントを行う。また、4年次に同じ保健所・市町センターでの実習を行うことにより、地域住民への継続的なかわりを学ぶ。毎日のミニカンファレンス、中間カンファレンス、最終カンファレンスを行うことにより学びを深める。</p> <p>指導体制：実習担当教員が中間・最終カンファレンスへの参加の他、随時、現地を訪問し、学生の指導に当たる。</p>

	担当者:洲崎、遠藤、原田
成績評価の方法	課題60%、実習への参画態度20%、カンファレンスへの参画・貢献20%
教科書	特に定めない。
参考書	適宜、提示する。
事前・事後学修	事前に保健所と市町村との機能の違いを明確にしておくこと。また「公衆衛生看護学」の概論・対象論をよく復習しておくこと。実習後は、映像教材などを利用して理解を深めること。
その他アドバイス	
オフィスアワー	時間割確定後に明示